
プリキュアオールスターズVSヒーファイターカブト 史上最大の決戦!!

千歳 涼介

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

プリキュアオールスターズVSビーファイターカブト 史上最大の決戦！！

【Nコード】

N10610

【作者名】

千歳 涼介

【あらすじ】

謎の敵「トランプ」が現れて、地球侵略を開始した。更にジャマールからラビリンズの幹部の復活、ヘルダーク族の参戦と、敵は次々と現れる。そんな奴らに立ち向かうのは勇敢な少女たち「プリキュア」と昆虫戦士「ビーファイター」である。

登場人物紹介（ビーファイター編）（前書き）

ビーファイターカブトとフレッシュまでのプリキュアは後日談、ハートキャッチはキュアムーンライトの復活後の設定です。スイートは途中から参戦します。
まずはビーファイターの紹介です。

登場人物紹介（ビーファイター編）

登場人物紹介

ビーファイター

鳥羽 甲平ノビーファイターカブト

アメリカにあるコスモアカデミアの大学に通う大学生でスポーツ万能。留学しているので妹のゆいを日本に残している。主にマツク、ソフィーとコンビを組むのが多い。プリキュアたちの中でも、ピンクチームのメンバー（なぎさ、咲、のぞみ、ラブ、つぼみ、響）と仲がいい。

演：中里 栄臣

橘 健吾ノビーファイタークワガー

3人の中では冷静沈着な参謀格。最年長で甲平と蘭を諷めるのもしばしば。主に李とコンビを組むのが多い。プリキュアたちの中でも、ブルーチームのメンバー（ほのか、（美翔）舞、こまち、かれん、美希、えりか、奏）と仲がいい。

演：安達 直人

鮎川 蘭ノビーファイターテントウ

天才プログラマーでフリオに好意を持つ故に組むのが多い。プリキュアたちの中でも、特にイエローチームのメンバー（ひかり、りん、うらら、くるみ、祈里、せつな、いつき、ゆり、エレン、アコ）と仲がいい。

演：栗栖 ゆきな

新ビーファイター

マック・ウィンディノビーファイターヤンマ

甲平の親友でコスモアカデミアの大学に通うアメリカ人の大学生。

普段はニューヨーク本部で拓也のサポートだが、来日中は甲平とコンビを組む。

演：ルーベン・ラングダンノ（ヤンマ）CV：遠近 孝一

フリオ・リベラノビーファイターゲンジ

南米アンデスの考古学者でペルー人。来日中は蘭から好意を寄せられてる故に、蘭と組む。

演：高岩 成二

李 リー・ウエン ビーファイターミン

中国人の教師で、争いを好まない性格の持ち主。健吾との仲が良い故に、来日中は健吾と組む。

演：安斎 英樹

ソフィー・ヴィルヌーブノビーファイターアゲハ

フランス人の天才バイオリニストで甲平に好意を寄せる故に、来日中は甲平と組む。

演：橋本 麗香

初代ビーファイター

甲斐 拓也ノブルービートノスーパーブルービート

初代ビーファイターのリーダーで、普段はニューヨーク本部にいる。

演：土屋 大輔

片霧 大作 / ジースタッグ

普段は派遣員としてヨーロッパ支部にいる。甲平を坊主と呼ぶ。

演：金井 茂

鷹取 舞 / レッドル

普段は中国支部にいるが能天気な部分がある。

演：巴 千草

ビーファイターの支援者

小山内 勝

コスモアカデミアの日本支部長。責任感が強く、甲平、健吾、蘭から博士と呼ばれる。盆栽いじりが趣味。

演：山口 良一

鳥羽 ゆい

甲平の妹。ビーファイターのマネージャー的な存在。健吾に好意を寄せる。

演：麻生 かおり

ビット

ビートルベースのコンピューターにいる人工生命体。怪人の弱点の分析などビーファイターをサポートする。

CV：半場 友恵

カブト、クワガー、テントウの装備

インプットカードガン

カードホルダーからカードを取り出し、セットすることで、あらゆる効果のビームを放つ。

ロードビートル

カブト、クワガー、テントウが乗る特殊バイク。

大甲封印剣アストラルセイバー

カブトが持つ剣。8つのインセクトメダルを入れることにより、最高の能力を発揮する。大甲神カブテリオスの召喚にも使われる。

魔性の斧ガイスタックス

クワガーが持つ斧。邪甲神クワガタイタンの召喚に使われる。

フィニッシュウエポン

カブトランサー

カブトの武器。必殺技はライナーブラスト

クワガーチョッパー

クワガーの武器。必殺技はグラビティクラッシュ

テントウスピア

テントウの武器。必殺技はクロスウェイスライサー

新ビーファイターの装備

トンボウガン

ヤンマ（不在時はカブト）が使用する武器で、ビートアームズの一つ。インプットカードガンの前部に合体させることにより、強力なビームを放つ。

ブライトポインター

ゲンジがテントウに授けたビートアームズの一つ。インプットカードガンの前部に合体させることにより、強力なビームを放つ。

セミツシヨンマガジン

ミンがクワガーに授けたビートアームズの一つ。インプットカードガンの後部に合体させることにより、あらゆる属性の攻撃が可能。

ライトニングキャノン

ゲンジの武器。

ソニックプレッシャー

ミンの必殺技。音波攻撃で敵を混乱させる。

リングアソード

ミンの武器。二刀流である。

ブルームキャノン

アゲハの武器。必殺技はビームシャワーとマキシムブラスト。

初代ビーファイターの装備

インプットマグナム

番号を入力することで、あらゆる効果のビームを放つ。

パルセイバー

短剣で感情の高ぶりに応じて切れ味は倍増する。必殺技はパルスラッシュ。

ステインガーウェポン

ステインガーブレード

ブルービートの武器の一つ。必殺技はビートルブレイク。

ステインガードリル

ブルービートの武器の一つ。ステインガーブレードの刃を外し、強化用のアタッチメントに換装することで完成する。必殺技はストライクブラスト。

ステインガークロー

ジースタッグの武器。クローの部分は着脱可能で、ブーメランにも使える。必殺技はレイジングスラッシュ。

ステインガープラズマー

レッドルの武器。必殺技はトルネードスパーク。

最強の銃

インプットライフル

インプットカードガンにトンボウガン、ブライトポインター、セミツシヨンマガジンを合体させることにより完成する。カブトにしか扱えない。必殺技はカブトニツクバスター。

ビートイングラム

ブルービートにしか扱えない、次元の覇者の銃。スーパーブルービートへのメタルフォーゼや、パルセイバーと合体させることにより、ファイナルモードに変形し、必殺技のスーパーファイナルブローを放つ。

ネオビートマシン

カブトロン

カブト（カブテリオス使用時はヤンマ、アゲハ）が乗るカブトムシ型の重戦車。時折、空を飛ぶことも可能で、バトルフォーメーションへ変形する。

クワガタンク

クワガー（クワガタイタン使用時はミン）が乗るクワガタ型の装甲車。カブトロン同様、バトルフォーメーションへ変形する。

ステルスジャイロ

テントウ（非常事態時にはゲンジモ）が乗るテントウ虫型の輸送機。カブトロン、クワガタンクを空輸することが可能。

ビートマシン

ビートルリーダー

カブトロンの基になった、ブルービート用の装甲車。

スタツガータンク

クワガタンクの基になった、ジースタツグ用の重戦車。

レッドジャイロ

ステルスジャイロの基になった、レツドル用の輸送機。

メガヘラクレス

ヘラクレスオオカブト型の巨大マシン。対空戦用のジェットヘラクレスと対地戦用のランドヘラクレスに分離する。更にビートルリーダー、スタツガータンク、レッドジャイロと合体する、メガビートフオーメーションになることにより、必殺技のメガビートキャノンを放つ。

巨大戦力

大甲神カブテリオス

カブトが大甲封印剣アストラルセイバーによって召喚され、一体化する。必殺技は大甲剣から放つ、ビッグフレア。

邪甲神クワガタイタン

クワガーが魔性の斧ガイスタックスによって召喚され、一体化す

る。必殺技は邪甲剣から放つ、タイタニックフレア。

登場人物紹介（ヒーファイター編）（後書き）

次回は2回に分けてプリキュアの紹介です。

登場人物紹介（MH〜5GOGO編）（前書き）

MHから5GOGOまでの紹介です。

登場人物紹介（MH5 GOGO編）

プリキュア

美墨 なぎさ / キュアブラック

ベローネ学院女子中等部の3年生。ラクロス部に所属する。運動神経は抜群だが、ウィンタースポーツは苦手。

CV：本名 陽子

雪城 ほのか / キュアホワイト

ベローネ学院女子中等部の3年生。科学部に所属する。成績が優秀なので、蘊蓄女王と呼ばれる。

CV：ゆかな

九条 ひかり / シャイニールミナス

ベローネ学院女子中等部の1年生。なぎさとほのかの先輩、藤田アカネの屋台、TAKO CAFEを手伝っている。戦闘では後方支援に回る。

CV：田中 理恵

日向 咲 / キュアブルーム / キュアブライト

夕風中学校の2年生。ソフトボール部に所属する。実家はPANP AKAパンというパン屋。

CV：樹元 オリエ

美翔 舞 / キュアイーグレット / キュアウインディ

夕風中学校の2年生。美術部に所属する。スケッチブックに絵を描くのが得意。

CV：榎本 温子

夢原 のぞみ/キュアドリーム
サンクルミエール学園の2年生。天然ボケだが、プリキュア5のリーダー。

CV:三瓶 由布子

夏木 りん/キュアルージュ
サンクルミエール学園の2年生。フットサル部に所属する。のぞみとは幼なじみでツツコミかつ支え役。

CV:竹内 順子

春日野 うらら/キュアレモネード

サンクルミエール学園の1年生。のぞみと同じく天然ボケだが、アイドルである。

CV:伊瀬 茉莉也

秋元 こまち/キュアミント

サンクルミエール学園の3年生。図書委員の仕事をしながら小説を書いている。料理に羊羹を入れる癖があり、みんなを啞然とさせる。

CV:永野 愛

水無月 かれん/キュアアクア

サンクルミエール学園の3年生で生徒会長。家が財閥の令嬢のせいか、感覚にズレがある。

CV:前田 愛

美々野 くるみ/ミルクイローズ/ミルク

サンクルミエール学園の2年生。正体はパルミエ王国の準お世話役のミルク。

CV:仙台 エリ

光の園の妖精たち

メップル

なぎさのパートナーで光の園の選ばれし勇者。ミップルとは相思相愛である。

CV：関 智一

ミップル

ほのかのパートナーで光の園の希望の姫君。メップルとは相思相愛である。

CV：矢島 晶子

ポルン

ひかりのパートナーで光の園の未来へ導く光の王子。

CV：池澤 春菜

ルルン

光の園の未来を紡ぐ光の王女。

CV：谷井 あすか

泉の郷

フラッピたちの故郷。

フラッピ

咲のパートナーで花の妖精。

CV：山口 勝平

チヨツピ

舞のパートナーで鳥の妖精。

CV：松来 未祐

ムーブ

咲のパートナーで月の妖精。

CV：湊崎 ゆり子

フープ

舞のパートナーで風の妖精。

CV：岡村 明美

パルミエ王国

ココたちの故郷。一度はナイトメアに滅ぼされたが、のぞみたちの尽力で再建された。

ココノ小々田 コージ

パルミエ王国の国王。のぞみたちの世界ではサンクルミエール学園の国語教師である。

CV：草尾 毅

ナッツノ夏

ココと同じくパルミエ王国の国王。のぞみたちの世界ではナッツハウスの店長である。

CV：入野 自由

シロップノ甘井 シロー

相棒のメルポと共に運び屋をやっている。のぞみたちの世界ではサ

ンクルミエール学園のカフェテリアで手伝いをしている。

CV：朴 路美

登場人物紹介（MH〜5G O G O編）（後書き）

次回はフレッシュ〜スイートの紹介です。

登場人物紹介（フレッシュ〜スイート編）（前書き）

フレッシュからスイートの紹介です。

登場人物紹介（フレッシュ〜スイート編）

プリキュア

桃園 ラブノキュアピーチ

公立四つ葉中学校の2年生。料理が得意だが、にんじんは苦手。口癖は「幸せゲットだよ」

CV：沖 佳苗

蒼乃 美希ノキュアベリー

芸能学校の私立鳥越学園中等部の2年生。常に完璧になるべく、努力を怠らない。夢はファッションモデル。口癖は「あたし完璧」

CV：喜多村 英梨

山吹 祈里ノキュアパイン

私立白詰草女子学院中等部の2年生。夢は獣医である。口癖は「私、信じてる」

CV：中川 亜紀子

東 せつなノキュアパッション

かつてはラビリンスの幹部・イースとしてラブたちと敵対していたが、途中で和解した。その後規定の寿命が尽きて死を迎えたが、アカルンの力でプリキュアとして復活した。口癖は「精一杯、がんばるわ」

CV：小松 由佳

花咲 つぼみノキュアブロッサム

鎌倉から転校してきた私立明堂学園の2年生。家が花屋の影響から、植物には詳しい。口癖は「私、堪忍袋の緒が切れました！」

CV：水樹 奈々

来海 えりか／キュアマリン

私立明堂学園の2年生。姉がカリスマモデルの影響から、ファッションに詳しい。学園でもファッション部の部長として皆を引っ張る。口癖は「海より広いあたしの心もここらが我慢の限界よ！」

CV：水沢 史絵

明堂院 いつき／キュアサンシャイン

私立明堂学園の生徒会長で理事長の孫娘。病気がちの兄に代わり道場を継ぐために日々、鍛練を重ねる。ファッション部にも所属する。口癖は「その心の闇、私の光で照らしてみせる！」

CV：桑島 法子

月影 ゆり／キュアムーンライト

私立明堂学園高等部の2年生。ダークプリキュアとの戦いで心の傷でプリキュアに変身出来ずにいたが、つぼみたちの尽力で再びプリキュアとして復活した。口癖は「全ての心が満ちるまで、私は戦い続ける！」

CV：久川 綾

北条 響／キュアメロディ

私立アリア学園中学校の2年生。運動神経は抜群だが、運動部の助っ人に徹している。甘いものに目がないので、つまみ食いの常習犯。

CV：小清水 亜美

南野 奏／キュアリズム

響と同じ私立アリア学園中学校の2年生。お菓子作りが得意であることと、実家がカップケーキショップなので、スイーツ部に所属している。

CV：折笠 富美子

黒川 エレンノセイレーンノキュアビート

響、奏と同じ私立アリア学園中学校に通う。元々はマイナーランドの幹部としてプリキュアやビーファイターと対立していたが、ハミイを救いたいと願った為、キュアビートになった。

CV：豊口 めぐみ

調辺 アコノキュアミューズ

メフィストを父に、アフロディテを母に持つメイジャーランドの女王。当初はアフロディテに心配をかけまいと仮面で正体を隠していたが、正体を明かした後はメフィストを正気に戻した。

CV：大久保 瑠美

スウィーツ王国

タルトとシフォンの故郷。

タルト

フェレットに似た妖精。自称「かわいい妖精」で、許嫁にアズキナがいる。

CV：松野 太紀

シフォン

赤ちゃんの妖精。その正体は無限メモリー・インフィニティ。

CV：こおろぎ さとみ

こころの大樹
シプレたちの故郷。

シプレ
つぼみのパートナー。おっとりしているが、つぼみに対してはお姉さんの振る舞うこともある。

CV：川田 妙子

コフレ

えりかのパートナーで弟的な存在。

CV：くまい もとこ

ポプリ

いつきのパートナー。まだ赤ちゃんでわがままなところがある。

CV：菊池 こころ

コロシ

ゆりのパートナー。サバークに倒されて姿を失ったが、こころの大樹からゆりを暖かい目で見守っている。

CV：石田 彰

コッペ様

普段はつぼみの祖母・薫子の植物園にいる。全然喋らないが、シプレたちから慕われている。

メイジャーランド

ハミィとエレン（セイレーン）の故郷。

ハミィ

メイジャーランドの歌の妖精。語尾に「ニャ」をつける。マイペー
スかつ天然ボケのせいか、周囲から突っ込まれる。

CV：三石 琴乃

フェアリートーン

ドリーからドリーの8体からなる妖精。ハミィと共に音符を集め
る。

CV：工藤 真由

アフロディテ

メイジャーランドの女王。ハミィやプリキュアたちとの連絡は鏡や
水面を介して行う。

CV：日高 のり子

メフィスト

元々はメイジャーランドの国王だったが、悪のノイズに洗脳
されたことにより、一時マイナーランドの国王にされてしまった。
しかし、アフロディテとミューズとの和解を経て、元のメイジャー
ランドの国王に復位した。

CV：堀内 賢雄

登場人物紹介（フレッシュ〜スイート編）（後書き）

いよいよプロローグです。

プロローグ（前書き）

長くなりましたが、プロローグが完成しました。

プロローグ

アメリカ・ニューヨーク

地球環境の保護を目的とする組織、コスモアカデミアの本部が置かれている。そして日本を始め、世界各地に支部が置かれている。

？

「これは」

本部の一室で一人の男性が呟いていた。彼の名は甲斐 拓也、ジャマルとメルザードの侵略から地球を守ったビーファイターの1人だ。実はこの数日、世界各地で動植物がざわめいていたのだ。

拓也

「新たな侵略者が動き出す前兆かもしれないな」

そこへドアが開き、4人の男女が入ってくる。

？

「失礼します。拓也先輩、急に呼び出して何なんですか？」

拓也

「大作、舞、甲平、マック。これを見てくれ」

大作、舞、甲平、マックと呼ばれた4人の男女は拓也にパソコンのモニターを見せて貰った。

マック

「これは？」

拓也

「このところ、動植物がざわめいている。恐らく、新たな侵略者が動き出す前兆かもしれない」

4人の男女の名は片霧 大作、鷹取 舞、鳥羽 甲平、マック・ウインディ。彼らもビーファイターである。

甲平

「けど俺たちはビーファイターにはなれないんだぜ。老師も亡くなったし、コマンドボイサーもアストラルセイバーもメルザードを倒したから、消えたんだぜ。新たな侵略者が現れるなら、どうやって戦うんだよ!？」

大作

「坊主、簡単にあきらめんなよ!」

マック

「甲平、希望を武器に戦う。それがビーファイターだろ」

拓也

「確かに甲平の言うとおり、このままでは対抗手段がない」

舞

「そうよ、どうやって戦えばいいか分からないし」

そこへ、どこからか光が飛んできた。現れたのは拓也、大作、舞のビーコマンドー、甲平とマックのコマンドボイサー、そして5つのインセクトメダルと大甲封印剣アストラルセイバーだった。

拓也

「これは、ビーコマンダー!?!」

甲平

「コマンドボイサーにインセクトメダル、アストラルセイバーまで」

マツク

「光の意思が僕たちに再び戦えって言ってるんだよ」

大作

「よし、これで対抗手段ができた。いつでも侵略者に備えられるよう準備しておこう」

舞

「そつよね」

甲平

「おう」

マツク

「Yes!」

メルザードとの戦いを終えた後、甲平はアメリカに留学している。大作は普段はヨーロッパ支部を回っているのだが、拓也の呼び出しでニューヨーク本部にきている。舞も普段は中国支部にいるが、大作同様でニューヨーク本部にきている。

日本

メルザードとの戦いで破壊されたビートルベースも再建されていた。ここに3人の男女がいる。彼らの名は橋 健吾と鮎川 蘭。甲平たちと同様、ビーファイターである。

蘭

「メルザードに破壊されたビートルベースも再建されたし」

健吾

「これで日本支部も再始動できますね、博士」

博士

「そうだな」

博士と呼ばれた男性は小山内 勝、コスモアカデミアの日本支部長。

？

「健吾さん、蘭さん、博士」

そこへ1人の少女がやってくる。

健吾

「ゆいちゃん！」

蘭

「どっしたの？」

ゆいちゃんと呼ばれた少女は鳥羽 ゆい、アメリカにいる甲平の妹なのだ。

ゆい
「ビートルベースが再始動するって聞いて、花束を持って来ちゃって」

博士

「そうか、ありがとう」

そこへニューヨークと同じように、光が飛んできた。現れたのはコマンドボイサー、ネオビートマシン、そしてガイストアクセスだった。

健吾

「コマンドボイサーにガイストアクセス!？」

蘭

「ネオビートマシン!？」

ゆい

「メルザードは滅んだ筈なのに」

博士

「まさか、新たな敵が現れるのか!？」

蘭はパソコンに向かった。

蘭

「ビット、分析して」

ビット

「最近、世界各地で動植物がざわめいているんだ。これは新たな敵が動き出す前兆と言われているんだ」

健吾

「俺たちの元にコマンドボイサーが現れたということは、甲平や先輩たち、マックたちにも」

博士

「その可能性は高い」

蘭

「また、戦いが始まるのね」

健吾

「そうだな」

ペルー

1人の考古学者がいた。名はフリオ・リベラ、ビーファイターゲンジである。

フリオ

「再び、戦いの時がくるのか」

やはり、彼の元にもコマンドボイサーとホタルのインセクトメダルが飛んできた。

中国

1人の男性が子供たちと遠足に来ていた。名は李文、ビーファイターミンである。

李

「子供たち、お弁当の時間あるよ」

子供たち

「わーい！」

子供たちが一斉に騒ぐ。そこへ光が飛んできた。正体はコマンドボイサーとセミのインセクトメダルだった。

李

「（私、戦いたくないよ！）」

子供

「先生、どうかしたの!？」

李

「ただの独り言あるよ!」

フランス

ある丘で女性がバイオリンを弾いていた。彼女の名はソフィー・ヴィルヌーブ、ビーファイターアゲハである。

彼女の元へも光が飛んできた。やはり正体はコマンドボイサーと蝶のインセクトメダルだった。彼女は演奏を止め、コマンドボイサーとインセクトメダルを拾った。

ソフィー

「私は再び、戦う！」

日本

屋台「TAKO CAFE」

ここに3人の少女がいる。彼女たちの名は美墨 なぎさ、雪城 ほか、九条 ひかり。ベローネ学院の女子中等部に通っている。

なぎさ

「いや、たこ焼きは最高よ！」

ほか

「なぎさ、食べ過ぎるとたこ飯が食べられなくなるわよ！」

なぎさ

「大丈夫だって、たこ飯とは別腹だから」

ひかり

「なぎささんとほかさんが毎日来てくれるから、こっちは大繁盛です！」

ほか

「どうぞ致しまして」

ひかり

「じゅっくりどうぞぞ」

海原市夕凧町

大空の樹

ここに2人の少女がいた。彼女たちの名は日向 咲と美翔 舞。夕凧中学校に通う。

咲

「舞、やっぱりここは落ちつくわ!」

舞

「咲、私もここなら落ちつくわ!」

ナッツハウス

ここに6人の少女がいる。彼女たちの名は夢原 のぞみ、夏木 りん、春日野 うらら、秋元 こまち、水無月 かれん、美々野 くるみ。サンクルミエール学園の中等部に通う。

のぞみ

「わーい、お菓子だ!」

うすら

「おいしそうです!」

りん

「すきだね、あんたたち!」

こまち

「まあまあ、いいじゃない!」

かれん

「のぞみとうらははお菓子に目がないから!」

くるみ

「のぞみは相変わらずね!」

クローバータウンストリート

ここに4人の少女がいる。彼女たちの名は桃園 ラブ、蒼乃 美希、山吹 祈里、東 せつな。せつなを除く3人は幼なじみで、現在は学校もバラバラである。せつなはかつてラビリンズの幹部・イースだったが、ラブたちとの出会いでプリキュアになって共に戦った。現在はラビリンズに帰り、立て直していた。

ラブ

「美希たん、ブッキー、せつな。カオルちゃんのドーナツ、食べに行こうよ!」

美希

「今日は用事もなし」

祈里

「私も。ラブちゃんは？」

ラブ

「私も予定は特になし」

せつな

「決まりね」

希望ヶ花市

植物園

ここに2人の少女がいる。名は花咲 つぼみと来海 えりか。私立
明堂学園に通う。

つぼみ

「お花さんたち、お水ですよ」

えりか

「つぼみは好きだね。お花の世話」

つぼみ

「私は植物が大好きですから」

いつき

「つぼみ、えりか」

つぼみ・えりか

「いつき」

いつき

「やっぱりここだったんだ」

いつきと呼ばれた少年、いや、少女の名は明堂院 いつき。彼女もつぼみとえりかと同じ学校に通う生徒会長だ。

家が道場の為、跡を継ぐべく、男装しているのだ。

えりか

「今日は予定もないし、思いっきり遊ぼう」

いつき

「僕も稽古を終えて来たから」

つぼみ

「そうですね」

？

「あなたたち、遊びもいいけど、砂漠の使徒の襲撃への備えも忘れないでしょっね」

高校生らしき少女が来た。

つぼみ・えりか・いつき

「ゆりさん」

彼女の名は月影 ゆり、明堂学園高等部の2年生だ。

彼女たちの性格はそれぞれ違うが、共通しているものがある。それはプリキュアであるということだ。

これは、プリキュアとビーファイターが協力して悪に立ち向かう、戦いの物語である。

プロローグ（後書き）

次回から物語が始まります。

第1話 ファーストコンタクト(前書き)

お待たせしました。本題に入っていきます。

第1話 ファーストコンタクト

成田空港

アメリカからの飛行機が到着した。

到着ロビーには健吾、蘭、ゆいが甲平を待っていた。そして、到着口から甲平が現れた。

健吾・蘭

「甲平！」

ゆい

「お兄ちゃん！」

甲平

「健吾、蘭、ゆい！」

ゆい

「元気だった？」

甲平

「ゆいこそ！」

健吾

「久々にビートルベースで話すか！」

甲平たちは再建されたビートルベースへ向かった。

甲平

「ビートルベース、再建されたんだ」

蘭

「甲平がアメリカに旅立ってから、すぐに再建されたのよ！」

そして、一行は小山内博士のいる指令室に入った。

博士

「甲平、久しぶりじゃないか」

甲平

「博士こそ！」

博士

「甲斐君たちとマックは元気にしてたか？」

甲平

「元気にしてた！」

ゆい

「お父さんとお母さんは元気にしてたの？」

甲平とゆいの両親は仕事でアメリカに長期滞在しているのだ。

甲平

「元気にしてたぜ」

久しぶりの再会で親交を深めていたところに博士が話題を変えた。

博士

「話は変わるが、数日前に健吾と蘭のコマンドボイサーとネオビートマシン、ガイストアックスが現れたんだ」

甲平

「ニューヨーク本部でも同じことがあったんだ」

健吾・蘭

「えっ!？」

ゆい

「同じことって!？」

博士

「まさか!」

甲平はバツクから、コマンドボイサーと五枚のインセクトメダルの入ったアストラルセイバーを取り出した。

健吾

「コマンドボイサーにインセクトメダル」

蘭

「アストラルセイバーまで」

甲平

「俺たちだけじゃなく、先輩たちのビーコマンダーとマツクのコマンドボイサーも現れたんだ」

博士

「何だつて」

健吾

「この様子だと、恐らくフリオ、李、ソフィーの元にもコマンドボイサーとインセクトメダルが」

蘭

「あり得るわね」

博士

「とにかく、新たな侵略者が現れるかもしれない。油断禁物だ」

甲平・健吾・蘭

「はい！」

その日の夜

夜空には星がきれいに輝いていた。

美墨家

なぎさ

「きれい」

日向家

咲

「今日は星がよく見えるなり」

流れ星が流れた。

夢原家

のぞみ

「あつ、流れ星だ」

桃園家

ラブ

「幸せゲットだよ」

花咲家

つぼみ

「みんなのこころの花とこころの大樹を守れますように」

その時、怪しき音色が流れた。そして操られるかの如く、彼女たちは家を出て行き、街中を歩いていた。

コスモアカデミア

電話が鳴る。

博士

「私だ。何、女子中学生が家を出て行ったきり帰ってこない!？」

甲平

「行こう!」

甲平、健吾、蘭は出撃した。

夕凧町・大空の樹

彼女たちは怪しげな音色に操られてここに集まっていた。

そう、怪しき音色の正体は謎の敵が送り込んだ怪物、ピアノシモだった。

ピアノシモ

「こいつらを私の生け贄にしてやるわよ」

?

「そうはさせるか!」

ピアノシモ

「誰よ!？」

現れたのは甲平、健吾、蘭の3人だ。

健吾

「原因はお前か？」

蘭

「あなたは何者なの？」

ピアノシモ

「私はピアノシモ。トランプに仕えし者」

甲平

「トランプだって!？」

ピアノシモ

「私らは地球を我がものにすべく現れたのよ」

健吾

「ふざけるな！」

蘭

「あなたたちの好きにはさせない」

甲平

「いくぞ！」

3人はコマンドボイサーとインプットカードを出すと、インプットカードをコマンドボイサーに差し込んだ。

甲平・健吾・蘭

「超重甲！」

甲平はカブトに、健吾はクワガーに、蘭はテントウに超重甲した。

ピアノシモ

「何者だい、あんたたち！」

カブト

「ビーファイターカブト！」

クワガー

「ビーファイタークワガー！」

テントウ

「ビーファイターテントウ！」

ピアノシモ

「ビーファイターだって、仕方がない！」

ピアノシモの周りにポーンの駒のような兵隊が現れた。

テントウ

「何なの、こいつら！」

クワガー

「カブトはピアノシモに、テントウは彼女たちの守りにいってくれ
！」

カブト・テントウ

「OK！」

クワガーの作戦でカブトはピアノシモとの一騎打ちに、テントウは
なぎさたちの守りに入った。

カブトはインプットカードガンを取り出し、発砲する。

カブト

「アタックビーム！」

ドカーン！

ピアノシモ

「うわぁ！」

クワガーとテントウもインプットカードガンでポーンの兵隊に発砲する。

クワガー

「ファイヤービーム！」

テントウ

「ジャミングビーム！」

クワガーとテントウによって、ポーンの兵隊は炎上するわ、音波に悩まされるわと散々だった。

カブト

「フィニッシュウエポン！」

カブトはフィニッシュウエポン、カブトランサーを構えた。

ピアノシモ

「さあ、来い。ビーファイターカブト」

ピアノシモは平気で構えていた。そこへカブトが向かっていく。

カブト

「ライナーブラスト！」

ピアノシモ

「うわぁ！」

ドカーン！

カブトの必殺技、ライナーブラストが炸裂し、ピアノシモは倒れて大爆発した。同時に操られていたなぎさたちの意識も戻った。

なぎさ

「あれっ、ここは！？」

咲

「あっ、ここは大空の樹だ」

舞

「どっしてここに！？」

テントウ

「あなたたちは怪人に操られてたのよ」

カブト、クワガー、テントウがやってくる。

のぞみ

「すごい、昆虫のロボットだ！」

うしろ

「かつこいいです!」

ドテツ!

カブト、クワガー、テントウがずっとける。

カブト

「俺たちはロボットじゃねえ!」

クワガー

「カブト、落ち着け」

こまち

「ところで、あなたたちは何者なんですか?」

カブト

「俺たちはビーファイターだ」

かれん

「ビーファイター!?!」

クワガー

「簡単に言えば、悪と戦う昆虫戦士かな」

祈里

「助けてくれて、ありがとうございます」

テントウ

「どうぞ致しまして」

そんな中、のぞみがとんでもないことを言い出した。

のぞみ

「あの」

カブト

「何だ」

のぞみ

「これからの敵だけど、私たちも戦うよ」

全員

「!?!」

のぞみ

「だって、私たちはプリキュアだよ。ビーファイターだって戦うって言うのに私たちだけ見てるだけなんておかしいよ。地球は私たちみんなのものだよ。私たちが守らなきゃ」

カブト

「プリキュア!?!」

クワガー

「もしかして、あのプリキュアなのか？ 世間では噂になっていた

…」

ほのか

「そうです。私たちがそのプリキュアなんです」

テントウ

「そうだったの」

のぞみ

「みんなはどうなの？」

つぼみ

「そうですね。私たちも頑張りましょう！」

えりか

「よっしゃ、みんなで戦おうよ！」

ラブ

「新たな敵を倒して、幸せゲットだよ」

美希

「全く、ラブったら」

せつな

「精一杯、頑張るわ！」

いつき

「確かに地球征服ともなれば、止めないといけない！」

くるみ

「そんな人たちに私たちは負けないわ！」

りん

「のぞみが言い出したんだから、やってやるか」

ひかり

「私もできることがあれば！」

のぞみ

「よし、みんなで戦うぞー。けってーい！」

のぞみは左手の人差し指を上に向けるいつものポーズを決めた。

カブト

「因みに俺はビーファイターカブト。カブトって呼んでくれ」

クワガー

「俺はビーファイタークワガー。クワガーでいい」

テントウ

「私はビーファイターテントウ。テントウでいいよ」

これが、プリキュアとビーファイターのファーストコンタクトだった。新たな敵にこれからどう立ち向かうのか？

第1話 ファーストコンタクト（後書き）

次回はプリキュアがビーファイターと共に戦います。

第2話 恐怖！ 湖の魔物（前書き）

お待たせしました。自己紹介は変身後の姿でやっていますので、ご了承ください。

第2話 恐怖！ 湖の魔物

コスモアカデミア

健吾と蘭が博士にこないだのことを報告していた。甲平は既にアメリカに戻っていった。

博士

「そうか、こないだの彼女たちが全員、プリキュアだったのか」

健吾

「それと、新たな敵の正体はトランプということも分かりました」

蘭

「全て、こないだのピアノシモが言ったことです」

博士

「甲平はアメリカに戻ったからな。健吾、蘭、これからはお前たちで頑張ってくれ！」

健吾・蘭

「はい」

ニューヨーク・コスモアカデミア本部

拓也

「新たな敵の名はトランプだって言うのか？」

甲平

「そうなんだよ。それとこないだの怪物に操られた女子中学生たちが全員、プリキュアだって言ってたぜ」

マツク

「what's precure?」

拓也

「プリキュアって、世間で噂になってる・・・」

甲平

「そうなんだよ」

ナッツハウス

小々田

「新たな敵が現れた!？」

のぞみ

「そうだよ、こないだは怪物に操られちゃったけど、ビーファイターに助けられたんだ」

夏

「ビーファイターって、かつて噂になってた戦士たちか？」

こまち

「そうなの。カブトさん、クワガーさん、テントウさんに救われた

のよ
「

かれん

「見たこともない銃や槍を駆使して、怪物を倒したわ」

シロー

「けど、新たな敵が現れたんだ。お前たちも頑張れよ！」

うすらら

「そうですね」

りん

「確かに」

くるみ

「あたしたちもこないだのようにはならないから」

そこへ、なぎさたちがやってくる。

なぎさ・ほのか・ひかり

「こんにちは」

咲・舞

「おじゃまします」

ラブ・美希・祈里・せつな

「こんにちは」

つぼみ・えりか・いつき・ゆり

「おじゃまします」

こうして、プリキュアメンバーが揃った。

トランプ要塞

キング

「どういづことだ。ビーファイターとやらに邪魔されたではないか」

ダイヤ

「申し訳ございませんわ。そのような奴らがいるとは、思っても見
ませんでしたわ」

スピード

「しかし、不安要素は早々に取り除いたほうが良いかと」

クラブ

「ならば、今回は俺が出撃だ」

ハート

「いってらっしゃい」

山中湖

クラブが現れる。そして、一枚のカードを手にする。

クラブ

「出でよ、ギガジョーズ！」

クラブがカードを湖に落とすと、現れたのはサメの怪物、ギガジョーズだった。

人々

「サメの化け物だ」

山中湖でギガジョーズが暴れまわっているため、人々は逃げていった。

コスモアカデミア

電話が鳴る。

博士

「私だ。何、山中湖でサメの怪物が暴れてる!？」

健吾

「いくぞ」

蘭

「ええ」

健吾と蘭は出動した。

ナッツハウス

ココ

「何か出た！」

のぞみ

「えっ」

山中湖

ギガジョーズが暴れてる。

クラブ

「もつと暴れる、人間どもを恐怖に落とせ」

そこへ、クワガタンクとステルスジャイロが現れた。

クワガー

「奴の仕業か」

クラブ

「ビーファイターか、やれ！」

ギガジョーズがクワガタンクに襲いかかる。

クワガー

「バトルフォーメーション！」

クワガタンクはバトルフォーメーションに変形し、ギガジヨーズを迎え撃った。

クワガー

「テントウ、援護を頼む」

テントウ

「OK！」

クワガタンクが角をのばすとギガジヨーズを捕らえ、岩に投げつける。

クワガー

「シュートシザーズ！」

テントウ

「ステルスブラスター！」

クワガタンクとステルスジャイロの総攻撃にギガジヨーズが大爆発した。

クラブ

「おのれ、次はこれだ」

クラブはカードを取ると、再び湖に投げつける。現れたのはハリセンボンの怪物、ハリーセンだった。

クワガーとテントウはクワガタンクとステルスジャイロから降りてきた。

クワガー

「今度はハリセンボンの怪物か」

テントウ

「しつこいわよ」

クラブ

「俺は執念深い性格なんでね。申し遅れたが、俺はトランプ四天王の1人、クラブだ」

クワガー

「トランプ四天王の1人!？」

テントウ

「クラブ!？」

クラブ

「やれ、ハリセン!」

そのハリセンは湖の中に潜っていた。そして、水中から鋭い針をミサイルのように飛ばした。

ドカーン!

クワガー・テントウ

「うわぁ!」

クワガーとテントウが飛ばされる。

テントウ

「ハイパービートスキャン！」

テントウが探索すると、ハリーセンは水中で動き回っていた。

テントウ

「ハリーセンは湖の中だわ」

クワガー

「湖の中では、どこから来るか分からない」

すると、ハリーセンが水中から再び針を飛ばした。

ドカーン！

クワガー

「これじゃあ、埒が開かない」

クラブ

「そろそろとどめだ」

？

「ちょっと待ったー！」

クラブ

「何！？」

クワガー

「あれは!?!」

テントウ

「まさか!?!」

クワガーとテントウが後ろを振り返ると、プリキュアたちが立っていた。

ブラック

「光の使者、キュアブラック!」

ホワイト

「光の使者、キュアホワイト!」

ルミナス

「輝く命、シャイニールミナス!」

ブルーム

「輝く金の花、キュアブルーム!」

イーグレット

「煌めく銀の翼、キュアイーグレット!」

ドリーム

「大いなる希望の力、キュアドリーム!」

ルージュ

「情熱の赤い炎、キュアルージュ!」

レモネード

「はじけるレモンの香り、キュアレモネード！」

ミント

「やすらぎの緑の大地、キュアミント！」

アクア

「知性の青き泉、キュアアクア！」

ローズ

「青いバラは秘密の印、ミルキイローズ！」

ピーチ

「ピンクのハートは愛ある印、もぎたてフレッシュ、キュアピーチ

！」

ベリー

「ブルーのハートは希望の印、つみたてフレッシュ、キュアベリー

！」

パイン

「イエローハートは祈りの印、とれたてフレッシュ、キュアパイン

！」

パッション

「真っ赤な愛は幸せの証、熟れたてフレッシュ、キュアパッション

！」

ブロッサム

「大地に咲く一輪の花、キュアブロッサム！」

マリリン

「海風に揺れる一輪の花、キュアマリン！」

サンシャイン

「陽の光浴びる一輪の花、キュアサンシャイン！」

ムーンライト

「月光に冴える一輪の花、キュアムーンライト！」

全員

「あなたの好きにはさせない！」

クワガー

「あれが、プリキュア」

クラブ

「おのれ、プリキュアも現れたか。仕方がない、やれ！」

ハリーセンは水中から針を飛ばした。

クワガー

「プリキュア、避けるんだ！」

クワガー、テントウ、プリキュアは回避した。

ブロッサム

「敵はどこから攻撃しているんですか？」

クワガー

「水中から針を飛ばしてるんだ！」

ムーンライト

「またくるわよ！」

ムーンライトの言葉通り、水中から再び針が飛んできたが、すぐに回避した。

マリリン

「何で向こうは私たちの位置がわかるのよ？」

クラブ

「ハリセンは貴様らの位置など、手に取るように分かるのだ！」

ブラック

「ありえない！」

ホワイト

「どうすれば」

クワガー

「テントウ、あれをやるぞ」

テントウ

「OK！」

クワガー・テントウ

「フィニッシュウエポン！」

クワガーはクワガーチョッパー、テントウはテントウスピアーを取

り出した。

テントウ

「プリキュアのみんな、湖から離れて！」

ミント

「何をする気なんですか？」

クワガー

「湖に電流を流して、奴を誘き出す」

アクア

「そんなことしたら、湖が電流だらけに」

テントウ

「でも、これしかないわ。早く離れて！」

プリキュアたちは、テントウの指示で湖から離れた。

クワガー

「いくぞ、エレクトリックショックウェーブ！」

テントウ

「ミディマムモード！」

クワガーチョッパーとテントウスピアークロスをさせ、湖に向けて電流を流した。すると、電流は湖全体に渡っていき、中にいたハリセンを引きずり出した。

ハリセン

「ギャー！」

クラブ

「こんなことが」

クワガー

「よし、引きずり出せばこっちのもんだ」

テントウ

「あの鋭い針には気をつけて！」

湖岸に上がったハリーセンにすぐさま攻撃を仕掛ける。

レモネード

「プリキュア・プリズムチェーン！」

まずはレモネードが捕獲する。

ルージュ

「プリキュア・ファイヤー・ストライク！」

ミント

「プリキュア・エメラルド・ソーサー！」

アクア

「プリキュア・サファイア・アロー！」

ドカーン！

ルージュの火球、ミントの緑の円盤切り、アクアの水の矢がハリ-

センに炸裂する。

ハリーセン

「ギャー！」

次にピーチ、ベリー、パインの3人が総攻撃を仕掛ける。

ピーチ

「プリキュア・ラブサンシャイン！」

ベリー

「プリキュア・エスポワールシャワー！」

パイン

「プリキュア・ヒーリングフレアー！」

ドカーン！

ハリーセン

「ギャー！」

クラブ

「おのれ、プリキュアとビーファイター！」

ハリーセンの苦戦にクラブが加勢に来た。それにはクワガーとテントウが迎え撃った。

クワガー

「グラビティークラッシュ！」

テントウ

「クロスウェイスライサー！」

クラブ

「ぐわあ！」

クラブもクワガーとテントウの必殺技を受けて倒れた。

クワガー

「今だ、プリキュア！」

ブラック・ホワイト

「うん！」

ブラックとホワイトが片手を繋ぐ。

ブラック

「ブラックサンダー！」

ホワイト

「ホワイトサンダー！」

白黒の雷が2人によって召還される。

ホワイト

「プリキュアの美しき魂が、」

ブラック

「邪悪な心を打ち砕く！」

2人は手を握り締める。

ブラック・ホワイト

「プリキュア・マーブル・スクリユー・マックス！」

2人の必殺技、マーブル・スクリユーがハリーセンに直撃した。

ハリーセン

「ギャー！」

ドカーン！

ハリーセンは倒れて、大爆発した。

クラブ

「おのれ、覚えてろ！」

クラブは撤退した。

テントウ

「何とか、追いついたわね！」

ブルーム

「いくら水中にいたとは言え、電流を流して誘き出すとは！」

クワガー

「奴はハリセンボンの怪物だ。まさかと思って、電流で誘い出せたんだ」

テントウ

「それじゃ」

クワガー

「改めて、自己紹介するか」

クワガーとテントウが頭部のヘルメットを外すと、健吾と蘭の顔が現れた。

ドリーム

「えーっ！」

レモネード

「えーっ！」

ルージュ

「くらくらー！」

ドリームとレモネードの相変わらずのボケにルージュが突っ込む。

クワガー

「俺は橘 健吾、ビーファイタークワガーとは俺のことだ。コスモアカデミアで研究員をしている。健吾と呼んでくれ」

テントウ

「私は鮎川 蘭、ビーファイターテントウとは私のことよ。コスモアカデミアの天才プログラマーよ。蘭と呼んでね」

クワガー

「あと、この場にはいないが、カブトに超重甲しているのは鳥羽 甲平。コスモアカデミアの大学に通う大学生だ。甲平と呼んでやって

くれ」

ブラック

「私は美墨 なぎさ、キュアブラックよ。ベローネ学院の女子中等部の三年生でラクロス部に入ってます。それと、こっちは」

ポン！

メップル

「メップルは光の園の選ばれし勇者だメポ」

ホワイト

「私は雪城 ほのか、キュアホワイトです。なぎさと同じ学校の三年生で、科学部に入ってます。そして、こっちはミップル」

ポン！

ミップル

「ミップルは光の園の希望の姫君ミポ」

ルミナス

「私は九条 ひかり、シャイニールミナスです。なぎささんとほのかさんの後輩で同じ学校の一年生です。こっちはポルンとルルンです」

ポルン

「ポルンは光の園の未来へ導く光の王子ポポ！」

ルルン

「ルルンは光の園の未来を紡ぐ光の王女ルル！」

ブルーム

「私は日向 咲、キュアブルーム、またはキュアブライトナリ。夕風中学校に通う二年生でソフトボール部に入ってます。そしてこっちは、」

ポン！

フラッピ

「フラッピは泉の郷の花の妖精ラピ」

イーグレット

「私は美翔 舞、キュアイーグレット、またはキュアウィンディです。咲と同じ学校に通う二年生で、美術部に入ってます。そしてこっちはチヨッピ」

ポン！

チヨッピ

「チヨッピは泉の郷の鳥の妖精チヨピ」

ドリーム

「私は夢原 のぞみ、キュアドリームだよ。サンクルミエール学園の二年生だよ」

ルージュ

「私は夏木 りん、キュアルージュよ。のぞみと同じ学校の二年生で、フットサル部に入ってるんだ」

レモネード

「私は春日野 うすらら、キュアレモネードです。のぞみさんたちの後輩で同じ学校の一年生です。あと、アイドルです」

ミント

「私は秋元 こまち、キュアミントよ。のぞみさんたちの先輩で同じ学校の三年生よ」

アクア

「私は水無月 かれん、キュアアクアよ。こまちと同じ二年生で生徒会長をしています」

ローズ

「私は美々野 くるみ、ミルキイローズよ。のぞみたちと同じ学校の二年生よ。そして、」

ポン！

クワガー・テントウ

「えっ」

ミルク

「パルミエ王国の準お世話役のミルクミル」

ピーチ

「私は桃園 ラブ、キュアピーチだよ。四つ葉中学校に通う二年生だよ」

ベリー

「私は蒼乃 美希、キュアベリーよ。鳥越学園中等部に通う二年生で、読者モデルをやっています」

パイン

「私は山吹 祈里、キュアパインです。白詰草女子学院に通う二年生です」

パッション

「私は東 せつな、キュアパッションよ。普段はラビリンスにいますんだけど、こっちに来ることもあるわ」

クワガー

「つまり、君は別世界から来ているということかな？」

パッション

「ええ」

ブロッサム

「私は花咲 つぼみ、キュアブロッサムです。明堂学園中等部に通う二年生で、園芸部とファッション部に入ってます。そしてこっちはシプレといいます」

シプレ

「ですう」

マリリン

「私は来海 えりか、キュアマリンだよ。つぼみと同じ学校の二年生で、ファッション部の部長もやってるよ。こっちはコフレ」

コフレ

「ですっ」

サンシャイン

「私は明堂院 いつき、キュアサンシャインだよ。つぼみとえりかと同じ学校の二年生で生徒会長をやっている、ファクション部と武道を両立しています。そして、こっちはポプリ」

ポプリ

「でしゅ」

ムーンライト

「私は月影 ゆり、キュアムーンライトよ。この子たちと同じ学校の高等部二年生」

クワガー

「いろいろあるとは思っけど、これからも宜しくな！」

全プリキュア

「うん！」

クワガー・テントウとプリキュアの初の戦いは大勝利に終わった。だが、トランプとの戦いはまだ始まったばかりだ。がんばれ、プリキュア&ビーファイター！

第2話 恐怖！ 湖の魔物（後書き）

次回は女の園の戦いです。

第3話 ヒロインたちの戦い（前書き）

三人目のトランプ四天王が怪物を使って、テントウとプリキュアに戦いを挑みます。

第3話 ヒロインたちの戦い

トランプ 要塞

キング

「ダイヤに続いてクラブも失敗するとは」

ダイヤ・クラブ

「申し訳ありません！」

ハート

「キング様、今度は私がいきますわ！」

キング

「ハートか」

ハート

「出よ、チヨコベター！」

現れたのはチヨコレートの怪物、チヨコベターだ。

ハート

「こいつと共に奴らを私の園におびき出しますわ。それも女だけをね！」

市街地

健吾と蘭は定時パトロールの真っ最中だった。

蘭

「こないだは山中湖でトランプ四天王のクラブが現れたのよね」

健吾

「トランプについては、まだまだ謎が多い。油断大敵だな」

蘭

「ええ」

健吾と蘭が公園を通りかかった時、屋台「TAKO CAFE」があった。

蘭

「あれ、こんなところに屋台があるけど」

健吾

「しかも、たこ焼きの屋台か」

蘭

「博士へのお土産に買っていく?」

健吾

「そうだな、買っていくか」

健吾と蘭がTAKO CAFEにやってくると、プリキュアメンバーがいた。

なぎさ

「あつ、健吾さんと蘭さん」

健吾

「やあ」

のぞみ

「今日はどうしたんですか？」

蘭

「定時パトロールの途中でここに寄ったのよ」

アカネ

「なぎさ、ほのか、お客さんかい？」

ほのか

「こちらは橘 健吾さんと鮎川 蘭さん。健吾さんは研究員で、蘭さんはプログラマーなんです」

アカネ

「へえ〜」

健吾

「すみません、たこ焼きを2つ」

アカネ

「はい」

たこ焼きを待っていたその時、健吾と蘭のコマンドボイサーがなつた。

健吾

「健吾です」

博士

「中心街にトランプが現れた。至急向かってくれ」

健吾・蘭

「了解！」

ひかり

「トランプが現れたんですか？」

健吾

「ああ」

ラブ

「行こう！」

健吾、蘭、プリキュアメンバーは中心街に向かった。

中心街

ハートとチョコベターが暴れていた。

ハート

「人間ども、我らトランプに跪けばいいわ」

？

「そうはいくか！」

ハート

「誰よ？」

健吾、蘭、プリキュアメンバーが揃った。

蘭

「あなたの仕業ね！」

こまち

「何者なの？」

ハート

「私はトランプ四天王の1人、ハート！」

かれん

「またトランプ四天王！？」

なぎさ

「ありえない！」

咲

「街で暴れて、メチャクチャにするなんて」

つぼみ

「私、堪忍袋の緒が切れました！」

のぞみ

「みんな、いくよ!」

全員

「うん」

全員がそれぞれの変身アイテムを取り出した。

健吾・蘭

「超重甲!」

健吾はクワガー、蘭はテントウに超重甲した。

クワガー

「ビーファイタークワガー!」

テントウ

「ビーファイターテントウ!」

なぎさ・ほのか

「デュアルオーロラウェイブ!」

なぎさはブラック、ほのかはホワイトへと変身した。

ブラック

「光の使者、キュアブラック!」

ホワイト

「光の使者、キュアホワイト！」

ブラック・ホワイト

「ふたりはプリキュア！」

ホワイト

「闇の力の僕たちよ！」

ブラック

「とっととおうちに帰りなさい！」

ひかり

「ルミナス、シャイニングストリーム！」

ひかりはシャイニールミナスへと変身した。

ルミナス

「輝く命、シャイニールミナス！ 光の心と光の意思、全てをひとつにするために！」

咲・舞

「デュアルスピリチュアルパワー！」

2人は精霊の光を集めた。

咲

「花開け、大地に！」

舞

「はばたけ、大空に！」

咲はブルーム、舞はイーグレットへと変身した。

ブルーム

「輝く金の花、キュアブルーム！」

イーグレット

「煌めく銀の翼、キュアイーグレット！」

ブルーム・イーグレット

「ふたりはプリキュア！」

イーグレット

「聖なる泉を汚すものよ！」

ブルーム

「あこぎな真似はお止めなさい！」

のぞみ・りん・うらら・こまち・かれん

「プリキュア・メタモルフォーゼ！」

のぞみはドリーム、りんはルージュ、うらははレモネード、こまち
はミント、かれんはアクアへと変身した。

ドリーム

「大いなる希望の力、キュアドリーム！」

ルージュ

「情熱の赤い炎、キュアルージュ！」

レモネード

「はじけるレモンの香り、キュアレモネード！」

ミント

「安らぎの緑の大地、キュアミント！」

アクア

「知性の青き泉、キュアアクア！」

ドリーム・ルージュ・レモネード・ミント・アクア

「希望の力と未来の光、華麗に羽ばたく五つの心、Yes！
プリキュア5！」

くるみ

「スカイローズ・トランススレイト！」

くるみはローズへと変身した。

ローズ

「青いバラは秘密の印、ミルキイローズ！」

ラブ・美希・祈里・せつな

「チェインジ・プリキュア・ビートアップ！」

髪の色が変化し、ラブはピーチ、美希はベリー、祈里はパイン、せつなはパッションへと変身した。

ピーチ

「ピンクのハートは愛ある印、もぎたてフレッシュ、キュアピーチ！」

ベリー

「ブルーのハートは希望の印、つみたてフレッシュ、キュアベリー！」

パイン

「イエローハートは祈りの印、とれたてフレッシュ、キュアパイン！」

パッション

「真っ赤なハートは幸せの証、熟れたてフレッシュ、キュアパッション！」

ピーチ

「レッツ！」

ピーチ・ベリー・パイン・パッション

「プリキュア！」

シプレ・コフレ・ポプリ

「プリキュアの種、いくで（すう）（すっ）（しゅ）（）」

つぼみ・えりか・いつきはシプレたちからプリキュアの種を貰い、ココロパフュームとシャイニーパフュームに入れる。ゆりはココロポットからプリキュアの種を取り出す。

つぼみ・えりか・いつき・ゆり

「プリキュア！ オープン・マイ・ハート！」

香水をそれぞれ吹きかけ、つぼみはブロッサム、えりかはマリン、いつきはサンシャイン、ゆりはムーンライトへと変身した。もちろん、こちららも髪の色が変化している。

ブロッサム

「大地に咲く一輪の花、キュアブロッサム！」

マリン

「海風に揺れる一輪の花、キュアマリン！」

サンシャイン

「陽の光浴びる一輪の花、キュアサンシャイン！」

ムーンライト

「月光に冴える一輪の花、キュアムーンライト!」

ブロッサム・マリィン・サンシャイン・ムーンライト

「ハートキャッチプリキュア!」

全員が揃った時、クワガーを電撃が襲った。

ビリビリビリビリ!!

クワガー

「ぐわあ!」

テントウ

「クワガー!」

クワガー

「これはいつたい!?!」

ハート

「言い忘れてたけど、ここは女の聖域、男は戦闘に参加できないのよ!」

テントウ

「なんですって!」

ブロッサム

「それじゃあ!」

クワガーは片膝をついてしまった。

クワガー

「俺はここでは戦えないということだ!」

ハート

「さて、始めましょうか。私たちの戦いを」

テントウ

「プリキュアのみんな、いくわよ!」

全プリキュア

「ええ!」

ハート

「やれ、チョコベター!」

チョコベターが分身を作り、襲いかかってきた。

ルージュ

「チョコレートの怪物!?!」

アクア

「しかも、分身した」

テントウはインプットカードガンを取り出す。

テントウ

「アタックビーム!」

テントウがアタックビームを放つも、チヨコベターには効果がなかった。

テントウ

「アタックビームが効かない」

ブラック・ホワイト

「でやあ！」

ブラックとホワイトが一体の分身にキックを浴びせるも、逆にチヨコになっていた。

ブラック

「ありえない」

ホワイト

「足がチヨコレートに!？」

ハート

「チヨコベターに触れると、触れた部分がチヨコレートになるのよ!」

ドリーム

「そんな」

テントウ

「それじゃ、これはどう?」

テントウはインプットカードガンにカードを挿入した。

テントウ

「カードNo.02、インプット。ファイヤービーム!」

テントウがインプットカードガンで火炎弾を放つと、チョコベターの分身の一体が溶けたのだ。

ミント

「炎が弱点ね!」

アクア

「ルージュ!」

ルージュ

「はい!」

ルージュは両腕を交差させると必殺技、ファイヤー・ストライクを発動させた。

ルージュ

「プリキュア・ファイヤー・ストライク!」

ルージュが次々と火球をチョコベターの分身たちに命中させた為に、本物を除き、全滅した。

ハート

「おのれ、こうなれば奥の手だ!」

ハートはチョコベターにカードを投げつけると、巨大化させたのだ。

ピーチ

「巨大化した！」

テントウ

「全員の必殺技を、あいつにぶつけるしかないわ」

まずはブラック、ホワイト、ルミナス。

ブラック

「漲る勇気！」

ホワイト

「溢れる希望！」

ルミナス

「光り輝く絆と共に！」

ブラック・ホワイト

「エキストリーム」

ルミナス

「ルミナリオ！」

ブラック、ホワイト、ルミナスは3人の合体必殺技を放つ。

次にブルームとイーグレット。

ブルーム

「大地の精霊よ！」

イーグレット

「大空の精霊よ！」

精霊の光を収束する。

イーグレット

「今、プリキュアと共に！」

ブルーム

「奇跡の力を解き放て！」

ブルーム・イーグレット

「プリキュア・ツイン・ストリーム・スプラッシュ！」

次はプリキュア5とローズ。

ココとナッツがいつの間にか来ていた。

ココ

「プリキュアに力を！」

ナッツ

「ミルキィローズに力を！」

プリキュアの方はキュアフルーレが現れた。

ドリーム

「クリスタルフルーレ、希望の光！」

ルージュ

「ファイヤーフルーレ、情熱の光！」

レモネード

「シャイニングフルーレ、はじける光！」

ミント

「プロテクトフルーレ、安らぎの光！」

アクア

「トルネードフルーレ、知性の光！」

5人のフルーレが重なる。

ドリーム

「5つの光に！」

ルージュ・レモネード・ミント・アクア

「勇気を乗せて！」

ドリーム・ルージュ・レモネード・ミント・アクア

「プリキュア・レインボーローズ・エクスプロージョン！」

片足を踏み出し、五色のバラを放つ。五色のバラは融合して虹色のバラになった。

ローズの方はミルクイノートが変換した、ミルクイミラーを構えて

いた。

ローズ

「邪悪な者を包み込む、煌めくバラを咲かせましょう。ミルクィローズ・メタル・ブリザード！」

次はフレッシュ。

4人はピククルン呼び出し、リンクルンに差し込むと、それぞれの武器を取り出した。

ピーチ

「届け、愛のメロディー！ キュアスティック、ピーチロッド！」

ベリー

「響け、希望のリズム！ キュアスティック、ベリーソード！」

パイン

「癒せ、祈りのハーモニー！ キュアスティック、パインフルート！」

パッション

「歌え、幸せのラブソディ！ パッションハーブ！」

ピーチ・ベリー・パイン

「悪いの悪いの飛んでいけ！」

ピーチ

「プリキュア・ラブサンシャイン！」

ベリー

「プリキュア・エスポワールシャワー！」

パイン

「プリキュア・ヒーリングプレアー！」

ピーチ・ベリー・パイン

「フレッシュュ！」

パッション

「吹き荒れよ、幸せの嵐！ プリキュア・ハピネス・ハリケーン！」

そして、ハートキャッチ。

ブロッサム・マリリン・サンシャイン・ムーンライト

「集まれ！ 花のパワー！」

ブロッサム

「ブロッサムタクト！」

マリリン

「マリインタクト！」

サンシャイン

「シャイニータンバリン！」

ムーンライト

「ムーンタクト！」

ブロッサムから順に必殺技を発動させた。

ブロッサム

「プリキュア・ピンクフォルテウェイブ！」

マリリン

「プリキュア・ブルーフォルテウェイブ！」

サンシャイン

「プリキュア・ゴールドフォルテバースト！」

ムーンライト

「プリキュア・シルバーフォルテウェイブ！」

全てのプリキュアの必殺技がチョコベターに直撃したが、かなり耐えているようだ。しかし、テントウが既に背後に回っていることは知らなかった。

テントウ

「フィニッシュウエポン！」

テントウはテントウスピアを構えると、ジャンプしていった。

ハート

「チョコベター、後ろだ！」

ハートが叫んだときにはもう遅かった。テントウがチョコベターの背後をテントウスピアードダメージを与えたのだ。そして、必殺技が炸裂した。

テントウ

「クロスウェイスライサー！」

背後にダメージを負ったことにより、プリキュアの必殺技に耐えきれず、チョコベターは大爆発した。

ドカーン！！

これにより、ブラックとホワイトの足に付着していたチョコも消えた。

ハート

「おのれ！」

ハートが撤退したことで、クワガーも動けるようになった。

クワガー

「テントウ、プリキュアのみんな！」

テントウ

「クワガー、動けるようになったのね！」

クワガー

「ハートが撤退したからな！」

ブラック

「それじゃ、TAKO CAFEに戻る！」

一行はTAKO CAFEに向かった。

TAKO CAFE

健吾と蘭もTAKO CAFEのたこ焼きを絶賛していた。

健吾

「すごくおいしいな」

蘭

「ええ、なぎさちゃんとはのかちゃんがいつも通うのも分かるわね」

なぎさ

「でしょ、このたこ焼きはすごくおいしいから」

健吾

「博士とゆいちゃんへのお土産に買って帰ろうか」

蘭

「そうね」

健吾と蘭は博士とゆいへのお土産として、たこ焼きを買って帰った。

第3話 ヒロインたちの戦い（後書き）

次回はクワガタイタンが遂に復活します。

第4話 復活！ クワガタイタン（前書き）

今回は健吾がメインの上に、クワガタイタンが復活します。

第4話 復活！ クワガタイタン

トランプ 要塞

キング

「四天王が3人も作戦に失敗するとは」

ダイヤ・クラブ・ハート

「申し訳ありません」

スピード

「こうなったら、リーダーである俺が出撃する」

キング

「スピードよ、期待しているぞ」

コスモアカデミア

博士は急な出張が入り、不在だった。

蘭も昼食で食堂に行っているので、指令室には健吾だけだった。

健吾

「トランプ四天王でこれまで出て来たのはクラブとハート。恐らく、残りも近日中に現れる筈だ」

ビット

「健吾、焦っても仕方がないよ。トランプはまだまだ謎が多いから」
そこへ、一枚のカードが飛んできた。

健吾

「これは」

健吾がカードを手にすると、次のようなメッセージが書かれていた。

「ビーファイタークワガー、明朝の日の出と共に夕風町の海岸に
来い。一騎打ちをしようじゃないか。待っているぞ。
トランプ四天王のリーダー、スペード」

健吾

「こいつ、俺がビーファイターだと知ってるのか」

ビット

「どっしたの、健吾？」

健吾

「いや、何でもない」

健吾はビットに知られないように、スペードから送られてきたカードをポケットにしまった。

健吾

「（このカードのことは、まだ言わないほうがいいな。）」

そこへ、蘭が戻ってきた。

蘭

「健吾、交代するから昼食を取ってきたら!？」

健吾

「ああ」

健吾は昼食を取るべく、食堂に向かった。

深夜

健吾はバイクを走らせていた。もちろん、コマンドボイサーを忘れずに持っている。

健吾

「(スペードはどうして俺を選んだんだ?)」

そう考えながら、夕凧町に向かっていた。

夜明け前

夕凧町の海岸

トランプ四天王のリーダー、スペードが既に待ちかまえていた。

スピード

「ビーファイタークワガー、俺が倒す！」

そろそろ夜が明けようとした時、健吾が現れた。

健吾

「スピード！」

スピード

「待ちかねたぞ、一騎打ちを始めようか？」

健吾

「望むところだ！」

健吾はコマンドボイサーとインプットカードを出すと、カードをコマンドボイサーに差し込んだ。

健吾

「超重甲！」

健吾はビーファイタークワガーに超重甲した。

クワガー

「フィニッシュウエポン！」

クワガーはフィニッシュウエポン、クワガーチョッパーを装備した。

スピード

「スピードソード！」

スピードも自身の武器、スピードソードを装備した。

日の出が上がるまで、睨み合いの状況が続いていた。そして、日の出と共に一騎打ちが始まった。

クワガー

「たあ！」

スピード

「はっ！」

クワガーがクワガーチョッパーでスピードを捕獲しようとする。スピードがスピードソードで弾き、逆にスピードがスピードソードを振り下ろすと、クワガーがクワガーチョッパーで受けとめる。まさに一進一退の攻防で、決着がつかずにいた。

スピード

「ハア、ハア、なかなかやるな」

クワガー

「お前こそ」

スピード

「このままではらちがあかん。巨大化して決着をつけてやる」

そういうと、スピードは自ら巨大化したのだ。クワガーはインプットカードガンを取り出した。

クワガー

「アタックビーム！」

アタックビームを放つも巨大化したスペードには効かなかった。

スペード

「巨大化した俺にそんなものは通用せん」

スペードは街の方へ歩を進め、破壊を開始した。

クワガー

「待て」

クワガーが追撃しようとしたその時、ビートルベースに置いていた筈の魔性の斧、ガイスタックスが現れた。

クワガー

「まさか、クワガタイタンが復活しようとしているのか？」

クワガーはガイスタックスを手に取り、高々とあげた。

クワガー

「クワガタイタン！」

すると、緑のクワガタのようなロボットが現れ、変形した。そう、これがクワガタイタンである。さらに、ガイスタックスを持ったクワガーと一体化した。

咲と舞は朝のホームルームの時間だが、スピードに街が破壊されているのを見てしまった。校内放送で全校生徒は体育館に避難するよう指示があったが、咲と舞は密かに屋上に抜け出した。

咲

「舞！」

舞

「ええ！」

咲と舞はフラッピとチョッピが変身したクリスタルコミュニケーションを取り出す。

咲・舞

「デュアルスピリチュアルパワー！」

2人は精霊の光を集める。

咲

「花開け、大地に！」

舞

「羽ばたけ、大空に！」

咲はブルーム、舞はイーグレットに変身した。

ブルーム

「輝く金の花、キュアブルーム！」

イーグレット

「煌めく銀の翼、キュアイーグレット！」

ブルーム・イーグレット

「ふたりはプリキュア！」

イーグレット

「聖なる泉を汚す者よ！」

ブルーム

「あこぎな真似はお止めなさい！」

2人は屋上から市街地に飛んだ。すると、クワガタイタンとスペードの戦いが繰り広げられていた。

ブルーム

「何、あのクワガタのロボット!？」

イーグレット

「もしかして、ビーファイター!？」

クワガー

「君たちか？」

イーグレット

「もしかして、健吾さん!？」

クワガー

「そうだ！」

ブルーム

「それじゃ、街を破壊しているあいつは誰なの？」

ブルームはクワガタイタンと対峙しているスピードを見た。

クワガー

「トランプ四天王のリーダー、スピードだ！」

ブルームとイーグレットはクワガタイタンの右肩に着地した。

スピード

「プリキュアも現れたか。仕方ない、纏めて消してやる！」

スピードがスピードソードを掲げながら、クワガタイタンに向かっていくが、クワガタイタンも邪甲剣で迎撃した。

クワガー

「タイタニックフレア！」

クワガタイタンの必殺技、タイタニックフレアがスピードに直撃した。

ドカーン！

スピード

「ぐわあ！」

スピードは大きく吹っ飛び、海に落下した。

ドボン！

スピード

「今日のところはこれくらいにしておいてやる！」

スピードは退却した。

ブルーム

「逃げた！」

クワガー

「あれだけのダメージだと、スピードはしばらく出て来ないだろう！」

イーグレット

「ブルーム、学校に戻らないと！」

ブルーム

「そうだ、学校に戻らなきゃ！」

ブルームとイーグレットは急いで、学校に戻った。

放課後

咲と舞は健吾を大空の樹に案内した。

健吾

「ものすごく大きな樹だね」

咲
「私たちが一番気に入ってる場所だから！」

舞
「はい」

咲と舞は健吾に今朝のことの質問をした。

咲
「健吾さん、今朝のクワガタのロボットは何ですか？」

健吾
「あれは光の意思が生み出した邪甲神、クワガタイタンだ！」

舞
「その斧は？」

舞は健吾が持っているガイスタックスに注目した。

健吾
「これは魔性の斧、ガイスタックスだ。これでクワガタイタンを召喚できる！」

咲
「何で健吾さんがクワガタイタンを？」

健吾
「かつては光の意思が生み出したが、闇の意思に捕らわれて、悪の巨大兵に変えられたんだ。そして俺たちの敵、メルザードとの最終決戦の時だった。ガイスタックスがマックたちのコマンドボイサ

「を取り入れ、俺と一体化することで、光の意思の戦士として甦ったんだ」

舞

「そうだったんですか」

咲

「でも、巨大戦には持って来いですね」

健吾

「そうだな」

遂にクワガタイタンが復活した。邪甲神と共にトランプを倒せ、プリキュア&ビーファイター！

第4話 復活！ クワガタイタン（後書き）

今回はジャマールとメルザード、ドツクゾーンからラビリンスまでの幹部たちが復活します。

第5話 復活！ 怪人軍団（前書き）

今回から再生幹部たちが復活します。

第5話 復活！ 怪人軍団

トランプ 要塞

これまでの四天王の失態に首領のキングは怒りを露わにしていた。

キング

「四天王が全員、失敗するとは！」

スピード・ハート・ダイヤ・クラブ

「申し訳ございません！」

キング

「こうなったら、我が魔力と怪人たちの恨みと怨念の力を使って、奴らに倒された怪人たちを復活させる！」

キングはどこからかカードを大量に取り出すと、闇の空間に投げた。

キング

「プリキュアとビーファイターに倒されし怪人たちよ、我が魔力とお前たちの恨みと怨念の力により、今こそ甦れ！」

キングの魔力と怪人たちの恨みと怨念により、プリキュアとビーファイターに倒された怪人たちが甦ったのだ。

ジャマールからはギガロ、シュヴァルツ、ジャゲール。

メルザードからはライジャ、デズル、ミオーラ、ドード、デスコ
ピオン、ムカデリンガー、キルマンティス、ビーザック。

ドックゾーンからはピーサード、ゲキドラゴ、ポイズニー、イル
クーボ、ジユナ、レギーネ、ベルゼイ、サーキュラス、ウラガノス、
ビブリス。

ダークフォールからはカレハーン、モエルンバ、ドロドロ、ミズ・
シタターレ、キントレスキー。

ナイトメアからはギリンマ、ガマオ、アラクネア、ハデーニャ、ブ
ラッディ、カワリーノ。

エターナルからはスコルプ、ネバタコス、シビレッタ、イソーギン、
ヤドカーン、ムカーディア、アナコンディ。

ラビリンスからはノーザ、クライン。

スピード

「これは!?!」

ハート

「プリキュアとビーファイターに倒された怪人たちよ!」

ダイヤ

「こんなにたくさん!?!」

クラブ

「甦らせるとは」

しかし、当のキングは自らの魔力を使いすぎたため、膝をついた。

ハート

「キング様！」

スピード

「魔力の使いすぎだ」

クラブ

「ポーンロイド、キング様を急いで運ぶんだ！」

ポーンロイドたちはキングを寝室に運び、寝かせた。

ハート

「キング様があの状況では、誰が指揮を執るのよ!？」

？

「私が執るわよ！」

現れたのは、妃を思わせる女性だった。メンバーは皆、クイーンと呼ぶ。

スピード

「クイーン様！」

クイーン

「トランプ四天王、その者たちを連れて、プリキュアとビーファイターに戦いを挑め！」

スピード・ハート・ダイヤ・クラブ

「はっ！」

砂漠の使徒

砂漠の使徒とは、こころの大樹を枯らし、世界を砂漠化しようとする、つばみたちの敵である。

サバーク博士

「トランプ!？」

ダークプリキュア

「はい、その者たちは地球征服を企てているようです!」

ダークプリキュアは首領のサバーク博士にトランプの存在を報告していた。

?

「そんな奴らに頼らずとも、俺らがプリキュアを倒すぜよ!」

?

「奴らに地球征服されては僕としては美しくない!」

?

「そうよ、世界を砂漠化できないじゃない!」

土佐弁の男はクモジャキー、美意識の強い男はコブラージャ、サソリのような髪型の女はサソリーナ、いずれも砂漠の使徒の幹部である。

？

「そんな奴らとは失礼ですね！」

サソリーナ

「誰よ！？」

現れたのは、トランプの使者だった。

コブラージャ

「いつからここに？」

クモジャキー

「今すぐ出て行くぜよ！」

サバーク博士

「待て、せつかくやってきたのに追い返すとは失礼だろう。話を聞こうじゃないか！」

？

「さすがは砂漠の使徒の首領、サバーク博士ですね。申し遅れましたが、私の名はジョーカー。トランプの使者として参りました！」

サバーク博士

「用件は何だ？」

ジョーカー

「同盟を結びませんか？」

クモジャキー

「同盟じゃと？」

ジョーカー

「あなたたち砂漠の使徒はプリキュアが邪魔でしょうし、我々トランプはプリキュアだけでなく、ビーファイターという連中が邪魔です。そこで、我々とあなたたちが同盟を結び、プリキュアとビーファイターに対抗しようじゃありませんか。あなたたちにとっても悪くない話ではないでしょう?」

サバーク博士

「良からう。お前たちと同盟を結ぼう!」

サソリーナ

「サバーク博士!」

コブラージャ

「なぜ、あっさりと決断を?」

クモジャキー

「速すぎるぜよ!」

ジョーカー

「では、その旨を伝えます!」

ジョーカーが去っていく。

ビートルベース

甲平たちが来ていた。

博士

「全ビーファイターを日本に!？」

拓也

「トランプの本格的な侵攻に備え、全ビーファイターを日本に集結させるよう、ニューヨーク本部が決定しました！」

健吾

「しかし、どうして日本に!？」

マック

「今まで日本で活動してるから、今後も日本を狙う可能性は高い！」

蘭

「だけど、甲平とマックは大学の方はどうするの？」

甲平

「心配すんなって、俺は休学届を出してあるから！」

マック

「僕はピンチになったら、いつでも駆けつけるよ」

李

「私もあるよ！」

ソフィー

「私もよー！」

博士

「そうだったのか」

フリオ

「甲平、メダルだ！」

甲平

「あつ、サンキューな！」

フリオは蛍のインセクトメダルを渡す。

李

「私のもあるよ」

ソフィー

「私のも」

李は蝉、ソフィーは蝶のインセクトメダルを甲平に渡す。甲平は3枚のインセクトメダルをアストラルセイバーに入れる。

甲平

「これで、カプテリオスがいつでも復活するぜ」

健吾

「実はこの前、クワガタイタンが復活したんだ。トランプ四天王の1人、スピードとの戦いでな」

蘭

「全然、知らなかった」

甲平

「それで、大丈夫だったのか？」

健吾

「なんとか撃退した」

大作

「それにしても、ビーファイターが全員揃ったら、怖いもの無しだな」

舞

「そうね」

拓也

「みんな、これからトランプとの戦いは本格化する。油断は禁物だ」

全員

「おう（ええ）」

そんな矢先、一枚のカードが飛んできた。

健吾

「カードだ！」

舞

「何て書いてあるんだろ？」

取ってみると、そこにはこう書かれていた。

拓也

「果たし状！？」

そう、送られてきたのはトランプからの果たし状だったのだ。

大作

「坊主、読んでみる」

甲平

「だから、坊主はやめて下さいよ、大作先輩」

大作は甲平のことを坊主と呼んでいる。

甲平

「プリキュアとビーファイターの諸君、君たちを熱烈に歓迎しよう。そこで、我々と勝負しようじゃないか。日時は明日、浜名湖に
来い。」

トランプ四天王」

フリオ

「向こうから来たか」

蘭

「どうすんの、甲平！」

甲平

「もちろん、受けて立つ！」

ビーファイターの面々がトランプ四天王からの果たし状に受けて立つと宣言した。

希望ヶ花市

プリキュアメンバーはつぼみたちの案内で植物園に来ていた。

薫子

「遠いところからわざわざ来てくれたのね。つぼみたちがいつもお世話になってるわ!」

ラブ

「いえいえ」

のぞみ

「ここの植物園って、いろんな花があるんだね!」

つぼみ

「はい、私はお花が大好きですから、ここに来ると心が安まるんです」

りん

「私も家が花屋だけど、見たことがない花がいっぱいあるわ」

美希

「えりかの家はファッションショップよね。部活はやっぱり、ファッション系なの?」

えりか

「そう、私はファッション部の部長なのだ。つぼみといつきも入っているのだ」

なぎさ

「本当なの？」

つぼみ

「はい、私は園芸部と掛け持ちで」

いつき

「僕も武道と両立で」

うらら

「ずっと気になってましたけど、いつきさんって、何で一人称が僕なんですか？」

いつき

「僕は学校の制服は男物なんだ。その影響からか、僕は男子と思われてるんだ」

メンバーが談話している頃、妖精たちも談話していた。

ココ

「シプレ、コフレ、ポプリ、その大きな妖精は誰ココ？」

シプレ

「こちらはコッペ様ですう」

コフレ

「僕たちの憧れですっ」

ポプリ

「でしゅ」

タルト

「えらいでかいわ」

ナッツ

「確かにナッツ」

そこへ、ビートルベースと同じように、カードが飛んできた。

ゆり

「カード!?!」

ゆりがカードを取るとそこには、果たし状とあった。

つぼみ

「ゆりさん、どうしたんですか?」

ゆり

「向こうから仕掛けてきたわ」

ゆりは果たし状のカードをみんなに見せた。

えりか

「果たし状!?!」

文章はビートルベースに届いたのと同じものだった。

美希

「どう考えても罠ね!」

せつな

「私たちを熱烈に歓迎しようって言われても、信憑性がない」

こまち

「そうね、敵は四天王だから、油断できないわ」

かれん

「ええ、ここは用心したほうがいいわね」

なぎさ

「でもこれ以上、トランプの野望を阻止しなきゃ、あいつらの思い
つぼよ」

咲

「そうだね、地球は私たちみんなのものだわ」

のぞみ

「みんなの夢と希望は消させない」

ラブ

「世界を不幸にさせないためにも」

つぼみ

「私たちはみんなで力を合わせて、トランプと戦います」

くるみ

「明日はみんなで浜名湖ね」

全員

「うん！」

こうして、プリキュアも果たし状に受けて立つと決意した。

翌日 浜名湖

ビーファイターメンバーが浜名湖に来ていた。

甲平

「ここが浜名湖か」

ソフィー

「トランプ四天王はまだみたいね」

拓也

「油断するな、さっきからとんでもない殺気を感じる！」

そこへ、プリキュアメンバーがアカルンの力で現れたのだ。

(鷹取) 舞

「あなたたちは誰？」

蘭

「先輩、あの子たちがプリキュアなんです」

李

「プリキュアって、何者？」

健吾

「世間で噂されてる、少女たちのことだ」

つらら

「甲平さん、健吾さん、蘭さん！」

甲平

「久しぶりだな」

りん

「あれ、この人たちは？」

蘭

「私たちと同じビーファイターよ」

健吾

「特に先輩たちは俺たちの頼りになるんだ」

ほのか

「そうだったんですか」

(美翔) 舞

「ビーファイターが他にもいたなんて」

その時、トランプ四天王の声がした。

クラブ

「よく来たな、プリキュアとビーファイターの諸君」

ダイヤ

「私たちの果たし状に受けて立ってもらって、嬉しいわ」

ハート

「でもそれが、あなたたちの命取りになるとも知らずにね！」

健吾

「この声はトランプ四天王」

甲平

「どこにいる？ 出て来い」

その声に応えるかのように、プリキュアとビーファイターの正面にトランプ四天王が現れたのだ。

スピード

「久しぶりだな、プリキュアとビーファイター」

クラブ

「ここが貴様らの墓場になるのだ」

蘭

「御託はいいわ」

健吾

「俺たちを舐めるな」

甲平

「お前たちをここで倒してやる」

プリキュアとビーファイターのメンバーは戦闘態勢に入る。

ハート

「今回のあなたたちの相手は、私たちじゃない」

ダイヤ

「この方たちよ、出てきなさい！」

ダイヤの声と共に、ジャマール、メルザード、ドツクゾーン、クフオール、ナイトメア、エターナル、ラビリンスの再生幹部たちが現れた。

拓也

「ギガロ、シュヴァルツ、ジャグール！」

甲平

「ライジャにデズル、ビークラツシャーまで」

なぎさ

「ありえない、ドツクゾーンの連中もいる」

咲

「ダークフオールも」

のぞみ

「ナイトメアとエターナルも復活するなんて」

ラブ

「ノーザとクラインも倒した筈なのに」

スピード

「こいつらはキング様の魔力とお前たちに対する恨みと怨念の力で

復活したのだ」

ギガロ

「久しぶりだな、ビーファイター」

ライジャ

「カブト、貴様の首は俺が貰う」

デスコピーオン

「何を言う、俺と一騎打ちだ！」

サーキュラス

「プリキュアがこんなにいるようだが、そんなことはどうでもいい」

カレハーン

「プリキュアと聞いただけで腹が立つ」

ギリンマ

「貴様らから受けた傷の恨み、晴らしてやる」

スコルプ

「今日こそ、ローズパクトを没収するよ」

ノーザ

「プリキュア、お前たちの息の根をとめてあげるわ」

？

「待つぜよー！」

ハート

「誰？」

更に、ダークプリキュア、サソリーナ、クモジャキー、コブラージヤも現れたのだ。

つぼみ

「サソリーナ！」

えりか

「クモジャキー！」

いつき

「コブラージヤ！」

ゆり

「ダークプリキュアも」

クラブ

「何しに来た？」

ダイヤ

「まさか、私たちの邪魔をする気？」

サソリーナ

「違うわようん。私たちも加勢にきたわようん」

コブラージヤ

「プリキュアを倒す為だね」

スピード

「ほう、我々の味方が増えるとはな！」

拓也

「こいつら、かなりの殺気を纏っている。油断していると負けるぞ」

甲平

「そつだな」

遂にプリキュアとビーファイターが倒した筈の幹部たちが復活した上に、砂漠の使徒までがプリキュアとビーファイターを倒す為にトランプに加勢しに現れた。次回、浜名湖を舞台に激闘の幕が上がる。

第5話 復活！ 怪人軍団（後書き）

次回は浜名湖で激闘だ。

第6話 カブト・アゲハVSライジャ・デスコーパーオン(前書き)

カブト・アゲハがライジャ・デスコーパーオンと対決します。

第6話 カプト・アゲハVSライジャ・デスコーパー

トランプ四天王が送り込んだのは、プリキュアとビーファイターが倒した筈の再生幹部だった。更に砂漠の使徒も加わり、プリキュアとビーファイターは再生幹部たちとの激闘に入ろうとしていた。

拓也

「いくぞ、みんな」

全員

「おう（うん、ええ）」

全員が変身アイテムを取り出す。

拓也・大作・（鷹取）舞

「重甲！」

拓也はブルービート、大作はジースタッグ、（鷹取）舞はレッドルへと重甲した。

ブルービート

「ブルービート！」

ジースタッグ

「ジースタッグ！」

レッドル

「レッドル！」

ブルービート・ジースタッグ・レッドル
「重甲、ビーファイター!」

甲平・健吾・蘭・マック・フリオ・李・ソフィー
「超重甲!」

甲平はカブト、健吾はクワガー、蘭はテントウ、マックはヤンマ、
フリオはゲンジ、李はミン、ソフィーはアゲハへと超重甲した。

カブト

「ビーファイターカブト!」

クワガー

「ビーファイタークワガー!」

テントウ

「ビーファイターテントウ!」

ヤンマ

「ビーファイターヤンマ!」

ゲンジ

「ビーファイターゲンジ!」

ミン

「ビーファイターミン!」

アゲハ

「ビーファイターアゲハ！」

なぎさ・ほのか

「デュアルオーロラウェイブ！」

ひかり

「ルミナス、シャイニングストリーム！」

なぎさはブラック、ほのかはホワイト、ひかりはルミナスへと変身した。

ブラック

「光の使者、キュアブラック！」

ホワイト

「光の使者、キュアホワイト！」

ブラック・ホワイト

「ふたりはプリキュア！」

ホワイト

「闇の力の僕たちよ！」

ブラック

「とっととおうちに帰りなさい！」

ルミナス

「輝く命、シャイニールミナス！ 光の心と光の意思、全てを1つにするために！」

咲・（美翔）舞

「デュアルスピリチュアルパワー！」

2人は精霊の光を集める。

咲

「花開け、大地に！」

（美翔）舞

「羽ばたけ、大空に！」

咲はブルーム、（美翔）舞はイーグレットへと変身した。

ブルーム

「輝く金の花、キュアブルーム！」

イーグレット

「煌めく銀の翼、キュアイーグレット！」

ブルーム・イーグレット

「ふたりはプリキュア！」

イーグレット

「聖なる泉を汚す者よ！」

ブルーム

「あこぎな真似はお止めなさい！」

のぞみ・りん・うらら・こまち・かれん
「プリキュア・メタモルフォーゼ！」

くるみ

「スカイローズ・トランススレイト！」

のぞみはドリーム、りんはルージュ、うららはレモネード、こまちはミント、かれんはアクア、くるみはローズへと変身した。

ドリーム

「大いなる希望の力、キュアドリーム！」

ルージュ

「情熱の赤い炎、キュアルージュ！」

レモネード

「はじけるレモンの香り、キュアレモネード！」

ミント

「安らぎの緑の大地、キュアミント！」

アクア

「知性の青き泉、キュアアクア！」

ドリーム・ルージュ・レモネード・ミント・アクア

「希望の力と未来の光、華麗に羽ばたく五つの心！ Yes！ プリキュア5！」

ローズ

「青いバラは秘密の印、ミルキイローズ！」

ラブ・美希・祈里・せつな

「チェインジ・プリキュア・ビートアップ！」

髪の色も変わり、ラブはピーチ、美希はベリー、祈里はパイン、せつなはパッションへと変身した。

ピーチ

「ピンクのハートは愛ある印、もぎたてフレッシュ！ キュアピーチ！」

ベリー

「ブルーのハートは希望の印、つみたてフレッシュ！ キュアベリー！」

パイン

「イエローハートは祈りの印、とれたてフレッシュ！ キュアパイン！」

パッション

「真っ赤なハートは幸せの証、熟れたてフレッシュ！ キュアパッション！」

ピーチ

「レッツ」

ピーチ・ベリー・パイン・パッション

「プリキュア！」

シプレ・コフレ・ポプリ

「プリキュアの種、いく（ですう）（ですっ）（でしゅ）」

つぼみ、えりか、いつきはパートナーの妖精たちからプリキュアの種を貰い、ココロパフュームとシャイニーパフュームにセットする。ゆりはココロポットのふたにプリキュアの種をセットする。

つぼみ・えりか・いつき・ゆり

「プリキュア！ オープン・マイ・ハート！」

こちらも髪の色が変わり、つぼみはブロッサム、えりかはマリン、いつきはサンシャイン、ゆりはムーンライトへと変身した。

ブロッサム

「大地に咲く一輪の花、キュアブロッサム！」

マリン

「海風に揺れる一輪の花、キュアマリン！」

サンシャイン

「陽の光浴びる一輪の花、キュアサンシャイン！」

ムーンライト

「月光に冴える一輪の花、キュアムーンライト！」

ブロッサム・マリン・サンシャイン・ムーンライト
「ハートキャッチプリキュア！」

こうして、プリキュアとビーファイターが揃ったのだ。

ギガロ

「おのれ、なんて数だ！」

ライジャ

「カブト、勝負だ！」

デスコピーオン

「俺も参加させて貰おう！」

ライジャ

「好きにしる。ではいくぞ！」

ライジャとデスコピーオンがカブトに向かって、突撃した。

カブト

「ライジャとデスコピーオンは任せろ。アタックビーム！」

カブトはインプットカードガンで迎撃する。

ドカーン！

まずはライジャに直撃させた。

ライジャ

「ぐわあ！」

カブト

「もういっちょ！」

今度はデスコープオンに直撃させた。

ドカーン！

デスコープオン

「ぐおっ！」

ライジャ

「おのれ！」

ライジャは再びカブトに向かっていくが、カブトの右に現れたアゲハに狙われた。

アゲハ

「ブルームキャノン、ビームシャワー！」

ドカーン！

ライジャ

「ぐおっ！」

ライジャが吹き飛ばされた。

カブト

「アゲハ、お前！」

撃ったのはアゲハのブルームキャノンだった。

アゲハ

「カブト、私も加えて！」

カブト

「でも」

アゲハ

「お願い！」

アゲハの願いに、流石のカブトも了承した。

カブト

「しょうがねえな、わかったよ！」

デスコープイオン

「くっ、1人加わったところで、なんになる！」

カブト

「やってみればわかるさ！」

ライジャ

「ほざけ！」

ライジャとデスコープイオンが性懲りもなく、突撃してきたが、カブトとアゲハは一步も退かない。

カブト

「フィニッシュウエポン！」

カブトはフィニッシュウエポン、カブトランサーを構えていた。

アゲハ

「ブルームキャノン、マキシムブラスト！」

花びらの部分を全開にした必殺技、マキシムブラストが炸裂した。

ライジャ・デスコピオン

「ぐわああ！」

ライジャとデスコピオンが吹き飛ばされた隙を見て、カブトが飛び込んだ。

カブト

「ライナーブラスト！」

カブトの必殺技、ライナーブラストがライジャとデスコピオンに炸裂した。

ライジャ・デスコピオン

「ぐわああ！」

ライジャとデスコピオンは倒れたが、すぐに立ち上がったのだ。

カブト

「バカな、ライナーブラストを受けても、立ち上がるのか？」

アゲハ

「どっぴいっ」とっ。」

ライジャ

「忘れたか、我らは貴様らへの恨みと怨念の力で甦ったと」

デスコープイオン

「貴様らへの恨みと怨念が強くなる程、俺たちは立ち上がるのだ！」

カブト

「くっ！」

アゲハ

「このままじゃ、埒があかないわ！」

ライジャ

「ビーファイター！」

デスコープイオン

「覚悟！」

ライジャとデスコープイオンが反撃しようとした時、スペードの声を聞いた。

スペード

「ライジャ、デスコープイオンよ。今日は下がれ！」

ライジャ

「しかし！」

デスコープイオン

「まだ、ビーファイターの抹殺が」

スピード

「黙れ、我らに逆らうと言うのか？」

ライジャ

「わかった！」

デスコピオン

「命拾いしたな、ビーファイター」

スピードはライジャとデスコピオンを下がらせたのだ。

ミオーラ

「ライジャ様！」

ムカデリンガー・キルマンティス・ビーザック

「デスコピオン！」

ミオーラとビークラッシュァーの面々はライジャとデスコピオンに
駆け寄った。

クラブ

「次は誰が行くのだ？」

デズル

「次は俺に行かせてもらおう、力だけが全てではないということ
教えてやるっ！」

ドード

「デズル様、このドードも加勢するでゲスよ」

クワガー

「デズル、お前たちの相手は俺だ！」

デズル

「おもしろい、かかってくるがいい！」

クワガー

「望むところだ！」

カプト・アゲハはライジャ・デスコープオンを撃退したが、奴らは何度でも立ち上がる。プリキュアとビーファイターは再生幹部たちを倒せるのか？

第6話 カフト・アゲハVSライジャ・デスコーパーピオン（後書き）

次回はクワガーとデズル、ドードの戦いです。

第7話 全ビーファイターVSメルザード・ジャマール(前書き)

全ビーファイター(カブト、アゲハを除く)とメルザード(ライジヤ、デスコープオンを除く)、ジャマールの戦いです。

クワガー

「カブトとアゲハがライジヤとデスコープオンに必殺技をぶつけても倒せなかった」

テントウ

「相手は私達に倒された恨みと怨念が強いからね。私達の必殺技が通じるかどうか」

カブト

「何だよ、縁起でもない。やってみないと分からねえだろ！」

アゲハ

「どんなに恨みと怨念が強くて、私達は倒さなきゃいけないわ！」

クワガー

「そうだ、俺達はビーファイターだ！」

テントウ

「弱気になっちゃ、ダメよね！」

第7話 全ビーファイターVSメルザード・ジャマール

ライジャとデスコピーオンを下がらせ、今度はデズルがドードを連れて、勝負を挑んできた。迎え撃つのはクワガー。

デズル

「ビーファイター、貴様らへの恨みと怨念により、我らは復活したのだ。かつての恨みを晴らさせて貰おう！」

ドード

「倒すでゲスよ！」

クワガー

「お前たちにやられる俺たちじゃない。フィニッシュウエポン！」

クワガーはフィニッシュウエポン、クワガーチョッパーを構えた。

デズル

「この俺に勝てると思っているのか？」

クワガー

「やってみないとわからないが、お前たちには負けない！」

デズル

「おもしろい」

デズルはクワガーに向かっていくと、一騎打ちを繰り広げた。

デズル

「今こそ貴様らに倒された兄弟たちの恨みを晴らさん」

クワガー

「負けるものか！」

クワガーはクワガーチョッパーでデズルを捕獲し、ドードに投げ飛ばした。

クワガー

「はあっ！」

デズル

「ぐおっ」

ドガッ！

ドード

「痛いでゲス」

クワガー

「終わりだ」

クワガーはデズルとドードに向かっていった。

クワガー

「グラビティークラッシュ！」

クワガーの必殺技、グラビティークラッシュが炸裂した。

デズル・ドード

「ぐわあああ！」

ドカーン！

ドードは大爆発したが、デズルはまだ生きていた。

デズル

「このデズルが簡単に死ぬと思っていたのか？」

クワガー

「何、グラビティークラッシュが効かない！？」

デズル

「言っただはずだ。貴様らへの恨みと怨念で甦ったとな。今日はこれくらいにしておこう！」

デズルは退いたのだ。

クワガー

「何て奴らなんだ！」

ミオーラ

「ライジャ様、今度はこのミオーラが奴らの首を取って参ります！」

ライジャ

「良かるうー！」

ミオーラは狙いをテントウに定めた。

ミオーラ

「ビーファイターテントウ、貴様の首はこのミオーラが頂く。貴様に倒された恨み、今こそ晴らしてやる！」

テントウ

「かかってきなさい。フィニッシュウエポン！」

テントウはフィニッシュウエポン、テントウスピアーを取り出した。

ミオーラの剣とテントウスピアーが激突する。

テントウ

「このままじゃ埒があかないわ！」

ミオーラ

「これで最後だ！」

テントウ

「やれるもんならやってみなさい！」

ミオーラ

「貴様！」

ミオーラが剣を持ってテントウに立ち向かう。

テントウ

「クロスウェイスライサー！」

テントウの必殺技、クロスウェイスライサーがミオーラに直撃した。

ミオーラ

「ライジヤ様！」

ドカーン！

ミオーラは倒れ、大爆発していた。

テントウの活躍でミオーラを倒した。その頃、ヤンマ・ゲンジ・ミンはムカデリンガー・キルマンティス・ビーザックと戦っていた。

ムカデリンガー

「ムカデニツクボム！」

ムカデリンガーの必殺技、ムカデニツクボムがヤンマたちを襲う。

その隙にキルマンティス、ビーザックが向かってくる。だが、ヤンマたちは冷静に対処した。

ヤンマ

「トンボウガン！」

ゲンジ

「ライトニングキャノン！」

ミン

「ソニックプレッシャー！」

それぞれの必殺技が返り討ちにした。

ムカデリンガー・キルマンティス・ビーザック

「うわあああ！」

ムカデリンガー、キルマンティス、ビーザックは吹き飛ばされた。

ムカデリンガー

「おのれ、ビーファイター！」

キルマンティス

「今日のところは引き上げてやる！」

ビーザック

「次はこうはいかないぞ！」

ムカデリンガー、キルマンティス、ビーザックは撤退した。

同じ頃、初代BFはジャマールとの戦いだった。

ギガロ

「ビーファイター、貴様らと一騎打ちだ！」

シュヴァルツ

「このシュヴァルツ様とな！」

ジャグール

「ブルービート、貴様に倒された恨み、晴らしてやる！」

こうして、ブルービートはジャグール、ジースタッグはギガロ、レツドルはシュヴァルツと一騎打ちになった。

ギガロ

「俺の合成獣を次々と倒した恨みを晴らさん！」

ジースタッグ

「一度倒したお前らに負けるものか！」

シユヴァルツ

「よくも我が戦闘メカを破壊してくれたな。その屈辱を晴らしてやる！」

レッドル

「あんだなんかに負けない！」

ジャゲール

「我が計画を粉碎した貴様に死を与えん！」

ブルービート

「今度こそこの手で引導を渡してやる！」

ブルービートはインプットマグナムとパルセイバーを取り出すと、合体させてセイバーマグナムとした。

ブルービート

「110、インプット。マキシムビームモード！」

青色の光線がジャゲールを直撃した。

ジャゲール

「ぐわあ！」

ジースタッグ

「ステインガーウエポン！」

ジースタッグはステインガーウエポン、ステインガークローを取り出した。

ギガロ

「返り討ちにしてくれる！」

ギガロが向かってくる。

ジースタッグ

「今だ。レイジングスラッシュ！」

ギガロ

「うわあああ！」

ギガロは倒れたが、すぐに立ち上がった。

ジースタッグ

「レイジングスラッシュをくらっても立ち上がるのかよ！」

ギガロ

「恨みと怨念で復活したのだ。今日はこのくらいにしてやる！」

ギガロが撤退した。

シュヴァルツ

「貴様らを倒して、メカ帝国の帝王に上り詰めてやる！」

レッドル

「どうせそつだと思つたわ。スティングーウエポン！」

レッドルはスティングーウエポン、スティングープラズマーを出した。

シュヴァルツ

「メカは永遠の命、倒すのは不可能だ！」

レッドル

「トルネードスパーク！」

レッドルの必殺技、トルネードスパークがシュヴァルツに炸裂した。

シュヴァルツ

「ギャー！」

シュヴァルツもギガ口同様、倒れてもすぐに立ち上がった。

レッドル

「トルネードスパークが効かない！？」

シュヴァルツ

「今日は退いてやる！」

シュヴァルツも撤退した。

ジャグール

「ブルービート、貴様の首を喰うぞ！」

ブルービート

「こうなったら、これしかない！」

ブルービートはビートイングラムを持っていた。すると、ブルービートは超進化した。

ブルービート

「メタルフォーゼ！」

この姿こそ、幾多の敵を倒してきた最強の戦士、スーパーブルービートだ。

スーパーブルービート

「パルセイバー、合体！」

ビートイングラムは変形し、パルセイバーを合体させた。

スーパーブルービート

「ビートイングラム・ファイナルモード！」

発射口が回転した。

スーパーブルービート

「スーパーファイナルブロー！」

必殺技、スーパーファイナルブローはジャグールを直撃した。

ジャグール

「ギャー！」

ドカーン！！

ジャグールは倒れ、大爆発した。

全てのビーファイターの活躍により、ドード、ミオーラ、ジャグールは倒したものの、他の連中は取り逃がしてしまった。これからも頼むぞ、ビーファイター。

第7話 全ビーファイターVSメルザード・ジャマール(後書き)

今回はMH組とドックゾーンの戦いです。

アゲハ

「私は6話でカブトと共に戦ったから、出て来ないわね!」

カブト

「それはそうと、何でアゲハは俺に加勢したの?」

アゲハ

「カブトが好きよ!」

カブト

「嘘!?!」

アゲハ

「それに2対1だったから放っておけなかったわ」

カブト

「マジかよ!」

ブラック

「次回は私達がドックゾーンに立ち向かうわよ!」

ホワイト

「どんなに復活しても」

ルミナス

「私たちは負けません！」

アゲハ

「読者の皆さん、プリキュアオールスターズ&ビーファイターカブトを」

カブト

「これからも応援宜しくな！」

ブルービート

「そして、登場させて欲しい敵キャラも募集中だ！」

ジースタッグ

「読者のみんなの考えた敵キャラから過去に出てきた敵キャラまで大歓迎だ。是非とも送ってくれ！」

レッドル

「待ってるよ！」

第8話 MH組・初代ビーファイターVSドックゾーン(前書き)

MH組とドックゾーンの戦いです。途中から初代ビーファイターも参戦します。

第8話 MH組・初代ピーファイターVSドックゾーン

ピーファイターがメルザード、ジャマールを撃退した頃、ブラック、ホワイト、ルミナスはドックゾーンの連中を相手に戦っていた。

サーキュラス

「プリキュア、貴様らに倒された恨みと怨念、今こそ晴らしてやる！」

ブラック

「かかってきなさい！」

ゲキドラーゴ

「ウガアアア！」

ゲキドラーゴが雄叫びをあげて向かってくる。

ブラック

「ヤアア！」

ゲキドラーゴ

「ウガアア！」

ブラックがゲキドラーゴに蹴りを入れる。

ホワイト

「ハアア！」

ホワイトもピーソードに蹴りを入れる。

ピーサード

「ぐわあ！」

ピーサードとゲキドラーゴは蹴りを入れられただけで消滅した。

ブラック

「ありえない！」

ホワイト

「キックだけで消滅した」

ブラック

「とにかく、ルミナスを助けなきゃ！」

ホワイト

「うん」

ルミナスはブラックとホワイトの後方支援に回っていたが、ポイズニーとイルクーボに襲われていた。

ルミナス

「ルミナス・ハーティエル・アंकション！」

ルミナスの必殺技で、ポイズニーとイルクーボの動きが止まった。

イルクーボ

「体が動かん！」

そこへ、銃撃が命中した。ルミナスが振り返ると、撃ったのはブル

ービート、ジースタッグ、レッドルの3人だ。

ルミナス

「ビーファイター！」

ブルービート

「俺達が援護しよう！」

イルクーボ

「貴様ら、何者だ！」

ブルービート

「重甲、ビーファイター！」

ポイズニー

「おのれ！」

ブルービート、ジースタッグ、レッドルはインプットマグナムとパルセイバーを合体させて、セイバーマグナムを構えた。

ブルービート

「110、インプット。マキシムビームモード！」

青、緑、赤の光線がポイズニーとイルクーボに向かっていく。

ポイズニー

「ギャー！」

イルクーボはとっさによけたものの、ポイズニーは直撃して吹き飛ばされ、消滅したのと同時に、今度はジュナ、レギーネ、ベルゼイ

が襲ってきた。

ジースタッグ

「まだいるのかよ!」

レッドル

「しつこいわね!」

ブルービート

「ステインガーウエポン!」

ブルービートはステインガーブレード、ジースタッグはステインガークロウ、レッドルはステインガープラズマーを取り出した。

ジースタッグ

「レイジングスラッシュ!」

ベルゼイ

「ぐわあ!」

レッドル

「トルネードスパーク!」

レギーネ

「ギャー!」

ブルービート

「ビートルブレイク!」

シュナ

「うわあああ！」

ドカーン！！

ジュナ、レギーネ、ベルゼイは大爆発した。その直後にブラックとホワイトがやってきた。

ブラック

「ルミナス」

ホワイト

「ビーファイターの皆さん、ありがとうございます」

ジースタッグ

「礼なら後だ！」

ブルービート

「敵はまだ残ってる」

ブラック

「そうね」

ホワイト

「油断は禁物ね」

残りはイルクーボ、サーキュラス、ビブリス、ウラガノスだ。

イルクーボ

「おのれ、プリキュアにビーファイター！」

イルクーボが向かってくる。ブルービートはビートイングラムを持つと、メタルフォーゼを遂げ、スーパースーパーブルービートへと超進化した。

ブルービート

「メタルフォーゼ！」

イルクーボ

「何をしようと無駄だ！」

ブルービート

「パルセイバー、合体！」

ビートイングラムが変形し、パルセイバーを合体させた。

ブルービート

「ビートイングラム、ファイナルモード！」

イルクーボ

「ハァー！」

イルクーボが衝撃波を放ってきた。

ブルービートの方もビートイングラムの発射口が回転する。

ブルービート

「スーパースーパーファイナルブロー！」

イルクーボの衝撃波を諸ともせず、イルクーボを直撃した。

イルクーボ

「うわあああ！」

イルクーボは吹き飛ばされ、消滅した。

サーキュラス

「今日のところは撤退するぞ」

ビブリス

「貴様らを必ず倒す」

ウラガノス

「覚えてろよ」

サーキュラス、ビブリス、ウラガノスは撤退した。

ブルービート・ジースタッグ・レッドル

「重甲解除！」

ブラック、ホワイト、ルミナスも変身を解除する。

なぎさ

「なんとか、追いついたわね」

ほのか

「そうね」

ひかり

「そういえば、あなたたちの名前を聞いてませんでした」

拓也

「そうだな、俺達も君たちのことはよく知らなかったな」

大作

「それじゃ」

(鷹取) 舞

「自己紹介をしましょうか」

なぎさ

「まずは私からね。私は美墨 なぎさ、ベローネ学院の女子中等部の3年生よ。それから、部活はラクロスをやってるわ。こっちは私の相棒のメップル、かなりうるさいけどね」

メップル

「なぎさ、うるさいとは失礼メポ。それでもメップルは光の園の選ばれし勇者だメポ」

ほのか

「私は雪城 ほのか、なぎさと同じ学校でクラスメイトです。部活は科学部です。それから、こちらは私の相棒のミップルよ」

ミップル

「ミップルは光の園の希望の姫君ミポ」

ひかり

「私は九条 ひかりです。なぎささんとほのかさんと同じ学校で後輩です。こっちはポルンとルルンです」

ポルン

「ポルンは光の園の未来へ導く光の王子ポポ」

ルルン

「ルルンは光の園の未来を紡ぐ光の王女ルル」

拓也

「俺は甲斐 拓也、昆虫学者だ。普段はコスモアカデミアのニューヨーク本部にいるが、今回のトランプの件で日本に帰国した」

大作

「俺は片霧 大作、樹木医だ。普段はコスモアカデミアのヨーロッパ支部で派遣員をやってるんだ。拓也と同じ理由で帰国した」

(鷹取) 舞

「私は鷹取 舞、普段はコスモアカデミアの中国支部にいるのよ」

なぎさ

「これからも宜しくお願いします」

拓也

「「こちらこそ」」

ブラック、ホワイト、ルミナスと初代BFの活躍でドックゾーンの連中を追い返した。だが、トランプとの戦いは続く。

第8話 MH組・初代ヒーファイターVSドックゾーン(後書き)

次回はS S組にカブト、クワガー、テントウとダークフォールの戦いです。

第9話 S S組・2代目ビーファイターVSダークフォール(前書き)

言い忘れていましたが、ビーファイターの技もプリキュアの怪人にダメージを与えられます。さて、S S組とカブト、クワガー、テントウがダークフォールに立ち向かいます。

第9話 S S組・2代目ビーファイターVSダークフォール

ブルームとイーグレットはダークフォールの連中と戦っていた。

カレハーン

「プリキュア、貴様らにやられた恨みを今こそ晴らしてやる」

ブルーム

「しつこいのよ、カレーパン！」

ドテッ！

カレハーン

「カレーパンではない、カレハーンだ！」

カレハーンが下がり、そこへモエルンバ、ミズ・シタターレ、キン
トレスキーが襲ってきたが、2人は精霊のバリアで防いだ。

キントレスキー

「いつまでも持つと思うな！」

キントレスキーが何度も拳をぶつける。

そして、強烈な一撃が精霊のバリアを砕いた。

ブルーム・イーグレット

「キヤー！」

ブルームとイーグレットは辛うじてよけた

その左側からモエルンバ、右側からミズ・シタターレが襲いかかってきた。

モエルンバ

「チャチャチャ、激しく燃えな、セニヨリータ！」

ミズ・シタターレ

「お前たちの最期だ！」

モエルンバは巨大な火球、ミズ・シタターレは巨大な水球を放とうとしていた。更に地面からドロドロロンが現れ、ブルームとイーグレットに蜘蛛の巣を放って動きを封じた。

ブルーム

「くっ」

イーグレット

「動けない」

ドロドロロン

「プリキュア、逃がさないです」

?

「アタックビーム！」

?

「インパクトフラッシュ！」

?

「ウォーターパワー！」

ドカーン！

モエルンバの火球とミズ・シタターレの水球が破壊された上に、ドロドロンも狙撃された。

ミズ・シタターレ

「なっ！？」

モエルンバ

「チャチャ！？」

ドロドロン

「誰だよ、邪魔しやがって」

撃つたのはカプト、クワガー、テントウだった。クワガーのカードガンにはセミッションマガジン、テントウのカードガンにはブライトポインターが合体していた。

ブルーム

「カプト、クワガー、テントウ！」

クワガー

「大丈夫か？」

イーグレット

「ええ」

テントウ

「すぐに助けるからね！」

ドロドロ

「お前たち、邪魔なんだよ！」

ブルームとイーグレットを助け出そうとするクワガーとテントウをドロドロが襲いかかってきたが、カブトに阻止された。

カブト

「アタックビーム！」

ドカーン！

ドロドロ

「うわぁー！」

ドロドロが吹き飛ばされてる間にクワガーのセミッションマガジンで蜘蛛の糸を燃やし、ブルームとイーグレットを救出した。これで再び、対峙した。

ブルーム

「さあ、反撃なり」

イーグレット

「覚悟しなさい」

キントレスキー

「あの昆虫の奴らは厄介だな！」

カレハーン

「構うものか、纏めて地獄に送るまでだ！」

キントレスキー

「おい、待て！」

キントレスキーの忠告を聞かずにカレハーンが突撃してきたが、クワガーのセミッションマガジンが火を吹いた。

クワガー

「セミッションマガジン、ファイヤーパワー！」

案の定、火属性の攻撃に弱いカレハーンは大炎上した。

カレハーン

「うわぁー！」

カレハーンは悲鳴を上げながら、消滅した。

ミズ・シタターレ

「おのれ」

ミズ・シタターレとキントレスキーが向かってきたが、カブトとテントウが迎え撃った。

カブト

「いくぞ、筋肉野郎！」

キントレスキー

「望むところだ！」

カブトとキントレスキーの一騎打ちは膠着状態になった頃、テントウはミズ・シタターレと、ブルームとイーグレットはドロドロンと、クワガーはモエルンバと戦っていた。

クワガー

「ウォーターパワー！」

モエルンバの苦手な水属性が襲ってきた。

モエルンバ

「チャチャ、燃え尽きちゃったぜ、セニヨリーター！」

水属性に弱いモエルンバは消滅した。

ミズ・シタターレ

「おのれ」

テントウ

「インパクトフラッシュ！」

ミズ・シタターレ

「眩しい」

ブルーム・イーグレット

「はあっ」

ブルームとイーグレットのキックがドロドロンに直撃した。

ドロドロン

「うわぁー」

ドロドロロンが吹き飛ばされた際に、ブルームとイーグレットは必殺技の準備に入る。

ブルーム

「大地の精霊よ！」

イーグレット

「大空の精霊よ！」

2人は精霊の光を集める。

イーグレット

「今、プリキュアと共に！」

ブルーム

「奇跡の力を解き放て！」

ブルーム・イーグレット

「プリキュア・ツイン・ストリーム・スプラッシュ！」

ブルームとイーグレットの必殺技が一直線に向かっていく。

ドロドロロン

「うわぁー、せっかく甦ったのに！」

ドロドロロンは消滅した。

ミズ・シタターレ

「結局、弱い奴らね！」

キントレスキー

「うむ、最後は強い者だけが生き残るのだ！」

しかし、ミズ・シタターレとキントレスキーが気を逸らした隙をつき、カブトとテントウが仕掛けてきた。いつの間にか、フィニッシュユウエポンを携えていた。

テントウ

「クロスウェイスライサー！」

ミズ・シタターレ

「キヤー！」

カブト

「ライナーブラスト！」

キントレスキー

「ぐわあー！」

ドカーン！

倒したかに思えたが、

キントレスキー

「はあー！」

キントレスキーが立っていたのだ。

ミズ・シタターレ

「これぐらいでやられると思っていたの？」

ミズ・シタターレもだ。

テントウ

「そんな！」

カブト

「必殺技が全然、効かないのか？」

キントレスキー

「当然だ。強者たる者は簡単に倒れんのだ」

ミズ・シタターレ

「今回はこれぐらいにしといてあげるわ」

ミズ・シタターレとキントレスキーは撤退した。

ブルーム

「これも私たちへの恨みと怨念の力なのかな？」

クワガー

「恐らく、そうだろう」

カブト

「とにかく、他の救援に行こうぜ。考えてもきりがない」

テントウ

「そうね」

イーグレット

「行きましよう」

こうして、ダークフォールのうち、カレハーン、モエルンバ、ドロ
ドロンは撃破した。だが、プリキュアとビーファイターの戦いは続
く。

第9話 S S組・2代目ビーファイターVSダークフォール（後書き）

今回は5GOGO組がナイトメア、エターナルと戦います。途中からヤンマとゲンジが加わります。

第10話 5GOGO組・ヤンマ・ゲンジVSナイトメア・エターナル(前書き)

5GOGO組がヤンマ、ゲンジと共にナイトメア、エターナルと戦います。

第10話 5GOGO組・ヤンマ・ゲンジVSナイトメア・エターナル

5GOGO組のメンバーはナイトメア、エターナルを相手に戦っていた。

ギリンマ

「プリキュア、貴様らから受けた傷の恨みを今こそ晴らしてやる！」

ナイトメアとエターナルの連中が襲いかかってきた。

ローズ

「ドリーム、ルージュ、レモネードはナイトメアをお願い。私とミントとアクアでエターナルを止めるわ」

レモネード

「分かりました」

ドリーム

「みんな、いくよ」

ルージュ・レモネード・ミント・アクア

「Yes!」

ドリーム、ルージュ、レモネードはナイトメアに、ミント、アクア、ローズはエターナルに立ち向かった。

ガマオ

「プリキュア、貴様らへの恨み、晴らしてやる」

ナイトメアの連中はギリンマ、ガマオ、アラクネアが先頭に立って襲ってきたが、ドリーム、ルージュ、レモネードは腕を交差させて、必殺技の構えに入った。

ドリーム

「プリキュア・シューティング・スター！」

アラクネア

「ギャー！」

ルージュ

「プリキュア・ファイヤー・ストライク！」

ギリンマ

「ぐわあ！」

レモネード

「プリキュア・プリズム・チェーン！」

ガマオ

「ぐぎゃー！」

アラクネア、ギリンマ、ガマオはドリームたちの必殺技で消滅した。

一方、エターナルと戦っているミント、アクア、ローズはというと、

スコルプ

「今度こそ、ローズパクトを没収するよ」

ローズ

「あなたたちの好きにはさせないわ」

ネバタコス

「黙れ！」

シビレッタ

「今度はお前たちが死ぬ番だ！」

ネバタコスとシビレッタが襲いかかるも、ミントとアクアが立ちはだかる。

ミント

「プリキュア・エメラルド・ソーサー！」

アクア

「プリキュア・サファイア・アロー！」

シビレッタにはエメラルド・ソーサー、ネバタコスにはサファイア・アローが命中、消滅した。

スコルプ

「貴様ら！」

ローズ

「邪悪な者を包み込む、バラの吹雪を咲かせましょう。ミルクイローズ・ブリザード！」

バラの吹雪は一直線にスコルプへ飛んでいった。

スコルプ

「無念！」

スコルプは消滅した。

ドリーム、ルージュ、レモネードはハデーニャ、ブラッディ、カワリーノとの戦闘に突入したが、ギリンマたちとは違い、一筋縄ではいかなかった。

ドリーム

「プリキュア・シューティング・スター！」

カワリーノ

「はっ！」

カワリーノは長い尾でドリームを弾き飛ばした。

ドリーム

「うわぁ！」

ルージュ・レモネード

「ドリーム！」

ルージュとレモネードはドリームを助けにいくが、ハデーニャとブラッディの攻撃で飛ばされてしまった。

ルージュ・レモネード

「キヤー！」

ハデーニヤ

「プリキュア！」

ブラッディ

「とどめだ！」

その時、何者かがハデーニヤとブラッディに銃撃を加えた。

ハデーニヤ・ブリザード

「うわぁ！」

そして、消滅した。

ドリームたちが振り返ると、トンボウガンを持ったヤンマだった。

ドリーム

「ビーファイター！」

ヤンマ

「大丈夫か、君たち」

ルージュ

「あなたはいつたい？」

ヤンマ

「話はあとだ。残りはこいつだけだ！」

ヤンマが指差した先には、カワリーノがいた。

まずはレモネードが両腕を交差させ、必殺技に入った。

レモネード

「プリキュア・プリズム・チェーン！」

レモネードの光の鎖がカワリーノを捕らえた。

カワリーノ

「こんなもので私を捕まえますかね」

ルージュが必殺技に入る。

ルージュ

「プリキュア・ファイヤー・ストライク！」

ヤンマ

「トンボウガン！」

ルージュの火球とヤンマの銃撃が、一直線にカワリーノへ向かっていく。

ドカーン！

ルージュの火球とヤンマの銃撃がカワリーノを直撃した。

カワリーノ

「貴様ら！」

最後にドリームが必殺技に入った。

ドリーム

「プリキュア・シューティング・スター！」

これも一直線にカワリーノへ飛んでいった。

ドカーン！

カワリーノ

「うわぁー！」

カワリーノは倒れ、ドリームが戻ってきた。

レモネード

「ドリームー！」

ルージュ

「やったの？」

ドリーム

「うんー！」

ヤンマ

「いや、奴はまだ生きているー！」

カワリーノは倒れていたが、まだ生きていた。

カワリーノ

「プリキュア、今日はこれくらいにしておきましょー！」

カワリーノは撤退した。

ミント、アクア、ローズはイソーギン・ヤドカーンのコンビに苦戦していた。

ミント

「この2人は手ごわいわ」

アクア

「確かに」

ローズ

「きりがない」

イソーギン

「これで終わりだ」

ヤドカーン

「とどめだ」

イソーギン・ヤドカーンがとどめをさそうとしたその時、銃撃が命中した。

ドカーン！

イソーギン・ヤドカーン

「そんな」

そして、消滅した。

撃つたのはゲンジのライトニングキャノンだ。

ミント

「あなたはいつたい？」

アクア

「ビーファイター!？」

ゲンジ

「そうだ、僕はビーファイターゲンジだ」

ローズ

「助かるわ」

ゲンジ

「僕も加えさせて貰おう！」

ムカーディア

「何人来ようと、私達には叶わない！」

ローズ

「それはどうかしら？」

ミントとアクアは両腕を交差させ、必殺技に入った。

ミント

「プリキュア・エメラルド・ソーサー！」

アクア

「プリキュア・サファイア・アロー！」

ゲンジ

「ライトニングキャノン！」

ローズ

「邪悪な者を包み込む、バラの吹雪を咲かせましょう。ミルクイローズ・ブリザード！」

4人の必殺技がムカーディアに命中したが、ムカーディアはまだ生きていた。

アナコンディ

「これで私たちだけになりましたが」

ムカーディア

「今日は撤退しましょう！」

アナコンディとムカーディアは撤退した。

そこへ、ドリーム、ルージュ、レモネード、ヤンマが駆けつけた。

ドリーム

「ミント、アクア、ローズ！」

ローズ

「ドリーム、ルージュ、レモネード！」

ミント

「あれ、一緒にいるのは？」

ゲンジ

「あれは僕の仲間、ビーファイターヤンマさ」

レモネード

「ミントたちのそばに誰かいますよー!」

ヤンマ

「あれはビーファイターゲンジだ」

アキラ

「全員揃ったから、他のみんなを助けにいくわよ!」

ドリーム

「よし、みんなで助けに行くぞ。けってーい!」

ドリームは左手の人差し指を上に向けた。

そして、プリキュア5とローズ、ヤンマとゲンジは他の救援に向かった。

第10話 5GOGO組・ヤンマ・ゲンジVSナイトメア・エターナル（後書き）

今回はフレッシュ組とミンとアゲハがラビリンスに挑みます。

第11話 フレッシュ組・ミン・アゲハVSラビリンス(前書き)

フレッシュ組とミン、アゲハがノーザとクラインに挑みます。

第11話 フレッシュ組・ミン・アゲハVSラビリンス

フレッシュプリキュアの4人はノーザ、クラインと睨み合いの状態だった。

ノーザ

「プリキュア、貴様たちに潰された我らの野望、今一度果たすために甦ったのだ」

ピーチ

「シフォンは渡さない」

クライン

「ならば、今一度消去だ」

クラインはそういうと、ドラゴンの姿に変身した。

ノーザ

「ハッ！」

ノーザとクラインが襲いかかってきたが、ピーチとパインがノーザ、ベリーとパッションがクラインと戦いだした。

ピーチ・パイン

「ダブル・プリキュア・キック！」

ピーチとパインはキックをノーザに浴びせようとするが、植物の触手に防がれてしまった。

ノーザ
「はっ！」

ピーチ・パイン
「キヤー！」

クライン
「ウォー！」

ベリー
「プリキュア・エスポワールシャワー！」

ベリーのエスポワールシャワーを受けても、クラインには平気だった。

ベリー
「効かない！？」

パッション
「はっ！」

パッションがパンチとキックを繰り返したが、クラインに捕まって、投げられた。

パッション
「強すぎる」

ベリー
「反撃する隙もない」

クライン

「今こそ、消去してあげますよ！」

？

「ソニックプレッシャー！」

突然の音波に、クラインは苦しみだした。

クライン

「何だ、この音波は？」

ベリーとパッションが振り返ると、ミンがいた。

ベリー

「あなたは誰？」

ミン

「私は音の戦士、ビーファイターミン！」

パッション

「あなたもビーファイターなの」

ミン

「そつだよ」

クライン

「貴様ら！」

ベリーとパッションはブルンとアカルンを使い、リンクルンからベ

リーソードとパッションハープを出す。

ベリー

「響け、希望のリズム！ キュアスティック、ベリーソード！」

パッション

「歌え、幸せのラプソディ！ パッションハープ！」

ベリー

「悪いの悪いの飛んでいけ！ プリキュア・エスポワールシャワー・フレッシュュー！」

パッション

「吹き荒れよ！ 幸せの嵐！ プリキュア・ハピネス・ハリケーン！」

ベリーとパッションの必殺技がクラインを直撃し、片膝をつかせた。

クライン

「今日はこのくらいにしておきましょうー！」

クラインは撤退した。

ピーチ

「プリキュア・ラブサンシャイン！」

パイン

「プリキュア・ヒーリングプレーアー！」

ドカーン！

ノーザ

「ぐわあああ！」

ピーチとパインの必殺技を受け、ノーザが吹き飛ばされた。植物の触手でガードしたが、破壊されていた。

ノーザ

「おのれ、キュアピーチ、キュアパイン。この程度で私を倒せると思うな」

？

「ブルームキャノン、ビームシャワー！」

ドカーン！

ノーザ

「ぐわあ」

アゲハのブルームキャノンの直撃を受け、再び吹き飛ばされた。

パイン

「あなたはもしかして」

アゲハ

「私は花の戦士、ビーファイターアゲハ」

ピーチ

「私たちに加勢してくれるの?」

アゲハ

「勿論よ」

ノーザ

「プリキュア、纏めて葬り去ってくれる!」

ノーザが反撃に出た。

ピーチとパインはピルンとキルンを使い、リンクルンからピーチロッドとパインフルートを呼び出す。

ピーチ

「届け! 愛のメロディー! キュアスティック、ピーチロッド!」

パイン

「癒せ! 祈りのハーモニー! キュアスティック、パインフルート!」

アゲハ

「ブルームキャノン、マキシムブラスト!」

ピーチ・パイン

「悪いの悪いの飛んでいけ!」

ピーチ

「プリキュア・ラブサンシャイン」

パイン

「プリキュア・ヒーリングプリアー」

ピーチ・パイン

「フレッツシュ！」

3人の強力な必殺技の前では、ノーザも片膝をついた。

ノーザ

「プリキュア、今日はこのくらいにするわ」

ノーザも撤退した。

ピーチ

「何とか追い返したね」

パイン

「ええ」

アゲハ

「でも、これからも襲ってくるわ」

ベリー

「ピーチ、パイン」

ピーチとパイン、アゲハが振り向くと、ベリーとパッション、ミンがやってきた。

ピーチ

「ベリー、パッション」

パイン

「あれ、他の人もいるけど」

アゲハ

「あれは私の仲間、ビーファイターミン」

ベリー

「無事だったの？」

パイン

「ええ」

パッション

「ピーチ、一緒にいるのは？」

ミン

「あれは私の仲間、ビーファイターアゲハ」

ピーチ

「これからもよろしく」

ミン

「こちらもよろしく」

アゲハ

「頑張りましょう」

ピーチ、ベリー、パイン、パッションは頷く。

ドックゾーン、ダークフォール、ナイトメア、エターナルに続き、

ラビリンスのノーザとクラインを追い返した。これからも頼むぞ、プリキュアとビーファイター。

第11話 フレッシュ組・ミン・アゲハVSラビリンス(後書き)

次回はハートキャッチ組と砂漠の使徒が一騎打ちです。

第12話 ハートキャッチ組VS砂漠の使徒(前書き)

ハートキャッチ組と砂漠の使徒の戦いだ。

第12話 ハートキャッチ組VS砂漠の使徒

ハートキャッチプリキュアの4人は砂漠の使徒と一騎打ちの状況だった。ブロッサムはサソリーナ、マリンはクモジャキー、サンシャインはコブラージャ、ムーンライトはダークプリキュアと戦っていた。

サソリーナ

「あなたたちには散々やられてきた。今こそ、借りを返してやるわあん」

ブロッサム

「負けません」

クモジャキー

「おまんらのおかげで俺らの作戦はことごとく失敗じゃき。その報いを受けるぜよ」

マリリン

「こころの花を奪って、デザトリアンにするあなたたちに負ける私たちじゃない」

コブラージャ

「君たちのお陰で、散々だよ。今日こそ美しく散ってもらおう」

サンシャイン

「あなたには負けない」

ダーク

「キュアムーンライト、今日こそ終わりだ」

ムーンライト

「全ての心が満ちるまで、私は戦い続ける」

サソリーナ

「それっ」

サソリーナがサソリの尻尾のような髪を振り回し、襲いかかってくるが、ブロッサムも果敢にかわし、立ち向かっていく。

ブロッサム

「ブロッサムシャワー！」

ブロッサムも必殺技でサソリーナに応戦するが、サソリーナにかわされる。

ブロッサム

「こうなったら、これしかありません。集まれ、花のパワー！ ブロッサムタクト！」

ブロッサムはそういつと、自身の武器である、ブロッサムタクトを取り出した。

ブロッサム

「花よ輝け！ プリキュア・ピンクフォルテウェイブ！」

ドカーン！

ブロッサムの必殺技がサソリーナに直撃した。

サソリーナ

「キヤー！」

クモジャキー

「ウォー！」

クモジャキーが刀を振り下ろしながら、マリンを襲ってきた。

クモジャキー

「これで終わりぜよ」

マリン

「集まれ、花のパワー！ マリントクト！」

マリンはそういつと、マリントクトを取り出した。

マリン

「花よ煌めけ！ プリキュア・ブルーフォルテウェイブ！」

マリンの必殺技がクモジャキーに命中した。

クモジャキー

「ぐおっ！」

コブラージャ

「いい加減に美しく散ってもらおう」

コブラージャが自分のブロマイドを投げってきたが、サンシャインは見事にサンフラワー・イージスによって、防御した。そして、今度
はサンシャインがコブラージャにパンチとキックで応戦する。だが、
コブラージャも負けてはおらず、一進一退の攻防が続いていた。

コブラージャ

「くっ、次で決めてあげよう」

サンシャイン

「集まれ、花のパワー！ シャイニータンバリン！」

コブラージャ

「何をしようと無駄だよ」

サンシャイン

「花よ舞い踊れ！ プリキュア・ゴールドフォルテバースト！」

ドカーン！

サンシャインの必殺技がコブラージャに向かっていき、直撃した。

コブラージャ

「うわぁ！」

ダーク

「キュアムーンライト、貴様を倒さない限り、私は影のままだ！」

ダークプリキュアがムーンライトと激しい攻防を繰り広げていた。それも、物凄い気迫だ。

ムーンライト

「このままでは、罅が開かない。一気に決めるわ」

ムーンライトがムーンタクトを取り出すと、ダークプリキュアもダークタクトで対応した。

ムーンライト

「集まれ！ 花のパワー！ ムーンタクト！」

ダーク

「闇の力よ集え！ ダークタクト！」

2人とも、この一撃に全てをかけるつもりだ。

ムーンライト

「プリキュア・シルバールフォルトウェイブ！」

ダーク

「ダークフォルテウェイブ！」

両者の技がぶつかる。

ムーンライト

「ハアー！」

ダーク

「ハアー！」

しばらくして、ムーンライトが押し始めたではないか。

ダーク

「バカな、この私が押されているだと」

ムーンライト

「私はもう、1人じゃない」

ドカーン！

ダーク

「ぐわああああ」

ムーンライトの強い意思がダークプリキュアを打ち破ったのだ。そこへ、ブロッサム、マリリン、サンシャインがムーンライトの元に駆けつけ、砂漠の使徒の連中もダークプリキュアの元に集結した。

クモジャキー

「おのれ、ここうなったら」

？

「待て」

コブラージャ

「誰だ！」

ブロッサムたちが振り返ると、他のプリキュアたちとビーファイターの面々が来ていた。

サソリーナ

「ちょっと、プリキュアってこんなにいるなんて、聞いてないわよおん」

クモジャキー

「それにあの昆虫の奴らは何者じゃき！？」

コブラージャ

「これ以上戦ったら、こちらが不利だ。ここは引き上げよう」

コブラージャの進言で、砂漠の使徒は撤退した。

カプト

「奴らは、どこまで復活すりゃ、気が済むんだよ」

クワガー

「これからが本当の始まりだ」

テントウ

「そっね」

浜名湖の激闘は、プリキュアとビーファイターの勝利に終わった。
だが、トランプと再生幹部、砂漠の使徒との戦いは続く。

第12話 ハートキャッチ組VS砂漠の使徒(後書き)

今回はネオビートマシンを改良する。その前に、番外編をどうぞ。

番外編 キュアフルーレ・ミルキィミラーVSインプットライフル(前書き)

今回は番外編です。キュアフルーレ、ミルキィミラーとインプットライフルが激突する。

番外編 キュアフルーレ・ミルキイミラーVSインプットライフル

全てはこの一言から始まった。

のぞみ

「私たちのキュアフルーレとビーファイターの武器って、どっちが強いのかな？」

こまち

「用途が違うから、試してみないと分からないわ」

かれん

「でも、怪人を倒せるから、私たちのよりは上かもしれないわね」

うすら

「それって、私たちが負けてるってことじゃないですか」

りん

「こうなったら、ビーファイターに勝負を挑もう」

くるみ

「この機会に私たちの武器をビーファイターのみんなに知ってもらおうじゃない！」

こうして、プリキュア5とローズはBFに手紙を送りつけ、シロツブにビートルベースへ届けて貰った。

ビートルベース

シロー

「のぞみたちからこの手紙を預かってる」

甲平

「手紙!？」

シローは甲平に手紙を渡した。

「私たちの武器が強いか、と皆さんの武器が強いか、勝負させてください。プリキュア5」

甲平

「どっちが強いかっていわれても、試したことがないからな」

健吾

「どうした、甲平?」

蘭

「その手紙は?」

甲平

「プリキュア5のみんなが俺たちの武器と自分たちの武器を勝負させたいってさ」

健吾

「プリキュア5のみんなが?」

蘭

「確かに、プリキュアのみんなが武器を使っているとこはみたことないから」

健吾

「どつするんだ、甲平」

甲平

「インプットライフルを使う」

健吾

「セミッションマガジンだ」

蘭

「ブライトポインターも」

健吾はセミッションマガジン、蘭はブライトポインターを甲平に託す。

甲平

「すまねえ」

その後、甲平はマックに手紙のことを話し、トンボウガンを託して貰った。

翌日

のぞみたちと甲平は某所にきていた。

こまち

「あれ、甲平さんだけ？」

かれん

「他のみんなはどうしたの？」

甲平

「今回は俺一人で十分だ」

うすら

「もの凄い自信ですね」

りん

「じゃ、早速」

くるみ

「勝負よー！」

甲平

「望むところだー！」

のぞみ

「みんな、いくよ」

りん・うすら・こまち・かれん・くるみ

「Yesー！」

のぞみたちはキュアモとミルキィパレットを出した。

のぞみ・りん・うすら・こまち・かれん

「プリキュア・メタモルフォーゼ！」

くるみ

「スカイローズ・トランスレイト！」

のぞみはドリーム、りんはルージュ、うらははレモネード、こまち
はミント、かれんはアクア、くるみはローズへと変身した。

ドリーム

「大いなる希望の力、キュアドリーム！」

ルージュ

「情熱の赤い炎、キュアルージュ！」

レモネード

「はじけるレモンの香り、キュアレモネード！」

ミント

「安らぎの緑の大地、キュアミント！」

アクア

「知性の青き泉、キュアアクア！」

ドリーム・ルージュ・レモネード・ミント・アクア

「希望の力と未来の光、華麗に羽ばたく5つの心！ Yes！ プ
リキュア5！」

ローズ

「青いバラは秘密の印、ミルキイローズ！」

甲平もコマンドボイサーとインプットカードを出した。

甲平

「超重甲！」

甲平もビーファイターカブトへと超重甲した。

カブト

「ビーファイターカブト！」

ドリーム

「ココ！」

ローズ

「ナッツ様！」

ココ

「プリキュアに力を！」

ナッツ

「ミルキイローズに力を！」

プリキュア5にはキュアフルーレ、ローズにはミルキイノートが変化したミルキイミラーが現れた。

ドリーム

「クリスタルフルーレ、希望の光！」

ルージュ

「ファイヤーフルーレ、情熱の光！」

レモネード

「シャイニングフルーレ、はじける光！」

ミント

「プロテクトフルーレ、安らぎの光！」

アクア

「トルネードフルーレ、知性の光！」

カブト

「俺もそれなりに対抗しよう！」

カブトはインプットカードガンを取り出すと、トンボウガン、ブライトポインター、セミッションマガジンをインプットカードガンに合体させた。

カブト

「インプットライフル！」

これこそ、カブトにしか扱えない最強の合体銃、インプットライフルだ。

ドリーム

「5つの光に」

ルージュ・レモネード・ミント・アクア

「勇気を見せて！」

ドリーム・ルージュ・レモネード・ミント・アクア

「プリキュア・レインボーローズ・エクスプロージョン！」

5人は片足を踏み出し、5色のバラを放った。5色のバラは融合し、虹色のバラになって、カブトに向かっていく。

しかし

カブト

「カブトニックバスター！」

カブトのインプットライフルを用いた必殺技、カブトニックバスターが火を噴いた。虹色のバラとカブトニックバスターがぶつかるが、威力の違いなのか、虹色のバラが破られてしまった。

ドリーム

「そんな！」

ルージュ

「あたしたちの必殺技が破られるなんて！」

ローズ

「邪悪な者を包み込む、煌めくバラを咲かせましょう。ミルキイローズ・メタルブリザード！」

カブト

「カブトニックバスター！」

2発目のカブトニックバスターとメタルブリザードが激突するも、やはり破られてしまった。

ローズ

「そんな、私の必殺技も」

アクア

「あの銃はかなりの威力よ」

ミント

「私たちのとは格が違うすぎるわ」

レモネード

「どうでしょう?」

カプト

「けど、お前たちの必殺技も凄いな」

ドリーム

「私たちだって、伊達にナイトメアやエターナルと戦ってきたんじゃないもん」

ルージュ

「カプトだって、もの凄い必殺技じゃないですか」

カプト

「俺たちだって、伊達にメルザードと戦ってきたわけじゃない」

ミント

「でも、ビーファイターの皆さんの武器がどういう威力かは分かってきたわ!」

カプト

「いやいや、拓也先輩は俺のインプットライフルよりもっと上の武器を持つてるんだ」

アクア

「それはいつたい？」

カブト

「いずれ分かる」

レモネード

「楽しみです！」

ローズ

「その銃より威力が上、ね」

ドリーム

「カブトさん、これからもよろしく」

カブト

「カブトでいいぜ。こっちこそ宜しくな」

カブトとドリームは握手を交わす。

インプットライフルの威力を思い知らされたプリキュア5とローズ、キュアフルーレとミルクイミラーの威力を知ったカブト、トランプを壊滅するその日まで、彼らの戦いは続く。

番外編 キュアフルーレ・ミルキイミラーVSインプットライフル（後書き）

番外編、如何だったでしょうか。尚、10〜12話についてはこの番外編の前に掲載する予定ですので、ご了承下さい。

ドリーム

「その銃があれば、ナイトメアとエターナルも怖くないね」

カブト

「何言っただよ、俺しか扱えないから」

ルージュ

「その銃よりも上の武器って、何だろう?」

レモネード

「気になりますね」

カブト

「それは後のお楽しみだ」

ミント

「みんな、麻婆豆腐が出来たわよ!」

しかし、それには豆腐ではなく、羊羹が入っていた。

ルージュ

「って、それ豆腐じゃなくて羊羹じゃないですか!」

カブト

「なんで羊羹を入れるの？」

ミント

「甘いものもいいかと思って」

アクア

「（ミントの味覚が分からない）」

ローズ

「（この先、大丈夫かしら？）」

番外編 プリキュアVS大甲神・邪甲神（前書き）

プリキュアとカブテリオス、クワガタイタンの戦いです。

番外編 プリキュアVS大甲神・邪甲神

ナッツハウス

咲

「私たち、第4話でクワガーがクワガタイタンでトランプ四天王のスペードと一騎打ちを繰り広げてたのを見たわ」

なぎさ

「クワガタイタン!？」

舞

「クワガーがガイストアックスという斧から召喚する、邪甲神のことよ」

ほのか

「ビーファイターの皆さんの戦力って、どれだけ充実しているのかしら?」

のぞみ

「この前の番外編でも、カブトの銃にやられちゃったよ」

りん

「それもインプットライフルって合体銃に負けたのよね」

ラブ

「インプットライフル!？」

こまち

「なんでも、カプトさんしか扱えない、最強の銃よ」

かれん

「私たちの必殺技だけじゃなく、ローズの必殺技も破られたわ」

美希

「そんなに凄いですか？」

くるみ

「ええ」

えりか

「なんか、私たちが負けてるように聞こえてるよ」

つぼみ

「でも、ビーファイターの皆さんに勝負を挑んでも負けなくらい、私たちも頑張つて来たんです」

いつき

「手合わせにはなるかな」

祈里

「いや、手合わせどころじゃないと思うよ」

せつな

「私も」

ゆり

「（なんか、またとんでもないことになりそうだわ）」

のぞみ

「よし、ビーファイターに手紙を書くぞ。けつてい！」
プリキュアのみんなはビーファイターに手紙を書き、シロップに届けさせた。

ビートルベース

シロー

「プリキュアのみんなから手紙を預かってるぞ」

甲平

「またかよ。今度は何なんだ？」

手紙の内容はこうだった。

「カブト、クワガー。今度はあなた達の巨人と勝負よ。絶対に逃がないでね。」

プリキュアオールスターズ」

甲平

「巨人って、カプテリオスとクワガタイタンのことか？ 今回はいくら何でも無茶だろ」

健吾

「どつした、甲平？」

健吾がやってきた。

甲平

「プリキュアのみんなから手紙がきたんだけど、今回は巨人と戦いたいんだと」

健吾

「巨人って、カプテリオスとクワガタイタンか？」

甲平

「多分な」

健吾

「確かに無謀過ぎるが、どうするんだ？」

甲平

「しょうがねえな。カプテリオスで相手をするか」

健吾

「これを機会に知ってもらおうか」

翌日 某所

甲平と健吾がやってきた。もちろん、アストラルセイバーとガイストアックスを持参していた。

甲平

「ここでもいいよな」

健吾

「ああ、街中で戦うわけにもいかないからな」

そこへ、せつなのアカルンで瞬間移動してきた、プリキュアたちが現れた。勿論、妖精たちも一緒だ。

甲平

「やっときたか」

健吾

「待ってたよ」

ほのか

「今日は健吾さんも一緒ですか？」

健吾

「ああ」

りん

「甲平、今度は負けないよ」

甲平

「また返り討ちにしてやるぜ」

のぞみ

「みんな、いくよ！」

全員

「うん」

プリキュアメンバーはそれぞれの変身アイテムを取り出した。

なぎさ・ほのか

「デュアル・オーロラ・ウェイブ！」

ひかり

「ルミナス、シャイニングストリーム！」

咲・舞

「デュアル・スピリチュアル・パワー！」

のぞみ・りん・うらら・こまち・かれん

「プリキュア・メタモルフォーゼ！」

くるみ

「スカイローズ・トランスレイト！」

ラブ・美希・祈里・せつな

「チェインジ・プリキュア・ビートアップ！」

シプレ・コフレ・ポプリ

「プリキュアの種、いくで（すう）（すっ）（しゅ）！」

ハートキャッチの4人はプリキュアの種をココロパフューム、シャイニーパフューム、ココロポットにセットした。

つぼみ・えりか・いつき・ゆり

「プリキュア！ オープン・マイ・ハート！」

それぞれがプリキュアへと変身していく。最も、ルミナスとローズはプリキュアではないが。

ブラック

「光の使者、キュアブラック！」

ホワイト

「光の使者、キュアホワイト！」

ルミナス

「輝く命、シャイニールミナス！」

ブルーム

「輝く金の花、キュアブルーム！」

イーグレット

「煌めく銀の翼、キュアイーグレット！」

ドリーム

「大いなる希望の力、キュアドリーム！」

ルージュ

「情熱の赤い炎、キュアルージュ！」

レモネード

「はじけるレモンの香り、キュアレモネード！」

ミント

「安らぎの緑の大地、キュアミント！」

アクア

「知性の青き泉、キュアアクア！」

ローズ

「青いバラは秘密のしるし、ミルキイローズ！」

ピーチ

「ピンクのハートは愛ある印、もぎたてフレッシュ、キュアピーチ
！」

ベリー

「ブルーのハートは希望の印、つみたてフレッシュ、キュアベリー
！」

パイン

「イエローハートは祈りの印、とれたてフレッシュ、キュアパイン
！」

パッション

「真っ赤なハートは幸せの証、うれたてフレッシュ、キュアパッシ
ョン！」

ブロッサム

「大地に咲く一輪の花、キュアブロッサム！」

マリン

「海風に揺れる一輪の花、キュアマリン！」

サンシャイン

「陽の光浴びる一輪の花、キュアサンシャイン！」

ムーンライト

「月光に冴える一輪の花、キュアムーンライト！」

これでプリキュアは揃った。

甲平と健吾もコマンドボイサーを取り出し、インプットカードを差し込んだ。

甲平・健吾

「超重甲！」

甲平はカブト、健吾はクワガーへと超重甲した。

カブト

「ビーファイターカブト！」

クワガー

「ビーファイタークワガー！」

こちらも揃った。

カブト

「今回は巨人だっていうからな。カブテリオス！」

クワガー

「クワガタイタン！」

カブトはアストラルセイバー、クワガーはガイストアクセスを高高々と掲げた。すると、巨大なカブトとクワガタが現れて、カブトとクワガーがそれぞれと一体化することでカブテリオス、クワガタイタンへと変形した。

ブルーム

「クワガタイタンは知ってたけど、カブトのような巨人は何？」

カブト

「これが大甲神、カブテリオスだ！」

ミント

「大甲神」

アクア

「カブテリオス」

ブラック

「よし、勝負よ」

カブト

「無謀過ぎるだろ」

プリキュアとカブテリオス、クワガタイタンの戦いが始まった。

ルージュとアクアが腕を交差させ、必殺技に入る。

ルージュ

「プリキュア・ファイヤー・ストライク！」

アクア

「プリキュア・サファイア・アロー！」

火球と水の矢が向かっていくが、カブテリオスとクワガタイタンには全然、効果がなかった。

ルージュ

「必殺技が」

アクア

「全然効いてない」

次はレモネードが腕を交差させ、必殺技に入る。

レモネード

「プリキュア・プリズム・チェーン！」

レモネードが光の鎖でクワガタイタンを捕らえた。

レモネード

「捕らえました」

ローズ

「はあ！」

ローズが地面にパンチを叩き込むと、巨大なクレーターが出来てしまい、カプテリオスが転倒した。

カプト

「うわあ！」

カプテリオスはそれでも立ち上がった。

カプト

「派手にやりやがって」

クワガー
「来るぞ」

クワガーはプリキュアの攻撃が来ると、カブトに告げた。案の定、ドリームとミントが腕を交差させ、必殺技に入っていた。

ドリーム

「プリキュア・シューティング・スター！」

ミント

「プリキュア・エメラルド・ソーサー！」

カプテリオスはパンチでドリームをくい止め、クワガタイタンはミントのエメラルド・ソーサーを逆に利用してレモネードのプリズム・チェーンを切り裂いた。

ドリーム

「そんな」

そこへ、カプテリオスの一撃がドリームを襲い、吹き飛ばした。辛うじて、ルージュとレモネードがキャッチした。

ブラック

「今度は私たちが」

ホワイト

「ええ」

ブルーム

「イーグレット」

イーグレット

「ええ」

ブラックとホワイトがカプテリオスに、ブルームとイーグレットがクワガタイタンに立ち向かった。カプテリオスは大甲剣、クワガタイタンは邪甲剣を出し、対抗する。

ブラック

「ブラックサンダー！」

ホワイト

「ホワイトサンダー！」

白黒の雷が召還される。

ホワイト

「プリキュアの美しき魂が」

ブラック

「邪悪な心を打ち砕く」

ブラックとホワイトは手を握り締め、必殺技に入る。

ブラック・ホワイト

「プリキュア・マーブル・スクリュー・マックス！」

ブラックとホワイトの必殺技がカプテリオスに向かっていくが、カブトも必殺技に入っていた。

カブト

「ビッグフレア！」

マーブル・スクリュー・マックスとビッグフレアが激突するが、威力の差が大きすぎるのか、マーブル・スクリューが破られた。

ブラック

「ありえない」

ホワイト

「マーブル・スクリューが破られた」

ビッグフレアがブラックとホワイトに直撃しようとしたその時、ルミナスが現れ、バリアを張って、ブラックとホワイトを守った。

ルミナス

「大丈夫ですか？」

ブラック

「うん」

ホワイト

「ありがとう」

一方、ブルームとイーグレットもクワガタイタンと戦っていた。

ムープ

「ムープたちも助けるムプ」

フープ

「ププ」

ムーブ

「月の力」

フープ

「風の力」

ムーブ・フープ

「スプラッシュターン！」

すると、ブルームとイーグレットにスパイラル・リングが装備され、2人はそれに付随している2つのリングをハート型の中心部分にはめていく。そして、精霊の光を集める。

イーグレット

「精霊の光よ！ 命の輝きよ！」

ブルーム

「希望へ導け！ 2つの心！」

ブルーム・イーグレット

「プリキュア・スパイラル・ハート・スプラッシュ！」

ブルームとイーグレットの必殺技がクワガタイタンに向かっていくが、クワガーにも必殺技があった。

クワガー

「タイタニックフレア！」

タイタニックフレアとスパイラル・ハート・スプラッシュが激突するが、こちらにも破られた。勿論、精霊のバリアを張って、直撃は免れた。

ブルーム

「そんな」

イーグレット

「私たちの必殺技も破られるなんて」

カブト

「これがカブテリオスと」

クワガー

「クワガタイタンだ」

ピーチ

「みんな、いくよ!」

ベリー・パイン・パッション

「ええ!」

ブロッサム

「私たちも」

マリリン

「やるっしゅ」

サンシャイン、ムーンライトは無言で頷く。

フレッシュの4人はカブテリオスに、ハートキャッチの4人はクワ
ガタイタンに向かっていく。

カブト

「まだ懲りてないのか？」

クワガー

「俺たちと同じように、どんなに強大な相手でも、決して諦めない。
それがプリキュアだな」

フレッシュの4人は相棒のピックルンをリンクルンに差し込み、武
器を取り出す。

ピーチ

「届け！ 愛のメロディー！ キュアスティック、ピーチロッド！」

ベリー

「響け！ 希望のリズム！ キュアスティック、ベリーソード！」

パイン

「癒せ！ 祈りのハーモニー！ キュアスティック、パインフル
ト！」

パッション

「歌え！ 幸せのラプソディ！ パッションハープ！」

4人は必殺技に入る。

ピーチ・ベリー・パイン

「悪いの悪いの飛んでいけ！」

ピーチ

「プリキュア・ラブサンシャイン！」

ベリー

「プリキュア・エスポワールシャワー！」

パイン

「プリキュア・ヒーリングプレアー！」

ピーチ・ベリー・パイン

「フレッツシュ！」

パッション

「吹き荒れよ！ 幸せの嵐！ プリキュア・ハピネス・ハリケーン
！」

4人の強力な必殺技がカブテリオスに向かっていくが、大甲剣で切られてしまった。

ピーチ

「嘘！？」

ベリー

「私たちの必殺技が」

パイン

「あの剣で」

パッション

「切られた!？」

呆然となるフレッシュの4人だった。

一方、クワガタイタンとハートキャッチの4人はというと、ブロッサムたちが武器を取り出し、クワガタイタンに挑んでいた。

ブロッサム・マリン・サンシャイン・ムーンライト
「集まれ! 花のパワー！」

ブロッサム
「ブロッサムタクト！」

マリン
「マリインタクト！」

サンシャイン
「シャイニータンバリン！」

ムーンライト
「ムインタクト！」

ブロッサム・マリン・サンシャインの3人が向かう。

ブロッサム・マリン・サンシャイン
「はあ！」

3人は必殺技に入る。

サンシャイン

「花よ舞い踊れ！ プリキュア・ゴールドフォルテバースト！」

ブロッサム・マリン

「集まれ！ 2つの花の力よ！ プリキュア・フローラルパワー・フォルティシモ！」

ブロッサムとマリンがサンシャインの作り出した黄金のゲートを潜ると、2人は金色に輝きだし、向かっていく。

サンシャイン

「プリキュア・シャイニング」

ブロッサム・マリン

「フォルティシモ！」

これこそ、3人の合体技だ。

クワガー

「はあ！」

クワガタイタンは邪甲剣を振ると、ブロッサムとマリンを弾き飛ばした。

ブロッサム・マリン

「キャー」

勿論、サンシャインとムーンライトにキャッチされた。

ムーンライト

「今度は私ね！」

ムーンライトはムーンタクトをクワガタイタンに向けた。

ムーンライト

「プリキュア・フローラルパワー・フォルティシモ！」

ムーンライトのフローラルパワー・フォルティシモも、クワガタイタンの邪甲剣で防がれてしまった。

プリキュアとカブテリオス、クワガタイタンの戦いを見ていた妖精たちは呆然としていた。

夏

「カブテリオスとクワガタイタン。敵に回せばこんなに恐ろしい壁になるのか」

小々田

「みんなの必殺技が、防がれたからな」

タルト

「ビーファイターはん みんなが味方で良かったわ」

カブト

「今日はこの辺にしようぜ」

クワガー

「そうだな」

カブトとクワガーは地上に降り立ち、プリキュアたちの元にやってきた。カブテリオスとクワガタイタンはアストラルセイバーとガイ

ストアックスに戻っていた。

カブト

「今回は無謀だったな」

クワガー

「カブテリオスとクワガタイタンに挑んでみて、どうだったかな」

ブラック

「ありえない」

ブルーム

「私たちの技が通じなかった」

ドリーム

「すごい、カブトとクワガーって、いつもそれで戦ってたんだ」

ルージュ

「こら、ドリーム！」

カブト

「いつもというわけじゃねえけどな」

ピーチ

「あの巨大な剣で防がれるなんて、思わなかったよ」

クワガー

「大甲剣と邪甲剣のことかな？」

ピーチ

「そうです」

ブロッサム

「トランプにも、あんな巨大な敵がいるんでしょうか？」

マリン

「ブロッサム、不安になるだけ損だよ。私たちはこれからも頑張らなきゃ」

カブト

「そうだ、トランプと戦えるのは俺たちだけだ」

クワガー

「これからも、頑張ろう」

プリキュア

「うん」

プリキュアとカブテリオス、クワガタイタンの戦いは、カブテリオスとクワガタイタンの圧勝に終わった。これからも頼むぞ、プリキュアとビーファイター！。

番外編 プリキュアVS大甲神・邪甲神（後書き）

番外編、如何でしたでしょうか。次回もお楽しみに。

第13話 ネオビートマシン改良計画(前書き)

今回はネオビートマシンの改良で、後半はジョーカーとヘルダーク族の取引を描きます。

第13話 ネオビートマシン改良計画

ビートルベース

拓也、大作、舞の3人は既に日本を離れていた。そんな中、小山内博士はネオビートマシンの改良を提案していた。

甲平

「ネオビートマシンを改良!？」

博士

「ああ、甲平にはカプテリオス、健吾にはクワガタイタンという切り札があるが、それだけではトランプには勝てない」

健吾

「それで、ネオビートマシンを改良すると」

博士

「そつだ」

蘭

「確かに俺と健吾がカプテリオスとクワガタイタンを使うときはカブトロンとクワガタンクは出撃できないけど、そこはどつするの?」

博士

「マックたち4人に乗りこなして貰う」

甲平

「だけど、ネオビートマシンは3台だけ。4人は無理だろ」

博士

「そう言われると思って、操縦席の部分を改良したんだ。ついて来い」

博士は甲平、健吾、蘭を連れて、ネオビートマシンの格納庫に向かった。格納庫に着くと、マックたち4人が超重甲し、カブトロン、クワガタンク、ステルスジャイロを乗りこなすべく、訓練を重ねていた。

博士

「マックたちのデータは既にインプットしてある」

健吾

「操縦席はどのような改良を？」

博士

「カブトロンは3人乗りに、クワガタンクとステルスジャイロは2人乗りに改良した」

蘭

「組み合わせは？」

博士

「カブトロンにはヤンマとアゲハ、クワガタンクにはミン、ステルスジャイロにはゲンジを配置した」

甲平

「そつなのか？」

健吾

「でもこれなら、甲平がカプテリオス、俺がクワガタイタンを使っても、穴を埋められる」

蘭

「まあ、私がプログラムを一部変更したからね。それにマックたちがいない場合も想定して、オートパイロット機能を搭載したからね」

博士

「そうなんだよ。蘭がプログラムを変更したおかげでもあるからな」

甲平

「なんだよ、蘭も加わっていたのかよ」

そこへ、マックたちがやってきた。

マック

「甲平、君のカブトロンは最高だね」

ソフィー

「普段はあなたの補助だけど、不在時は任せてね」

李

「健吾、君のクワガタンクに私も乗るよ」

フリオ

「蘭、僕も君のステルスジャイロに乗って、戦うよ」

甲平

「マック、ソフィー」

健吾

「李、頼むよ」

蘭

「フリオ、宜しくね」

太平洋・幽鬼島

この島の地下には、神殿がある。そしてこの神殿には、ヘルダーク族と呼ばれる者たちが棲んでいた。そこにトランプの幹部・ジョーカーがきていた。

？

「客人か？」

鎧武者のような男が呟く。

ジョーカー

「初めまして、私はトランプの幹部、ジョーカーと申します」

？

「あたしらヘルダーク族に何の用だい？」

赤いローブを着た魔術師のような女がジョーカーに問う。

ジョーカー

「皆さんに折り入って、取引をしませんか？」

？
「ほう、その取引とやらは？」

古代バイキングのような男が興味津々に聞いていた。

ジョーカー

「我々ランプは地球征服を目論んでいます。だがそれを阻まんとする者たちがいます。我々に協力した暁には、あなたがたを我々の最高幹部にして差し上げましょう」

？
「我々を最高幹部にか？」

聖職者のような男が疑問を述べる。

？
「その邪魔者は何者でい？」

最後に黒いローブを着た男が問うと、ジョーカーはプリキュアとビ
ーファイターのことを悪魔族に話した。

？
「そのプリキュアとビーファイターとやらがお前たちの邪魔をして
いるというのか？」

ジョーカー

「はっ、奴らはかなりの腕の持ち主です。甘くみると痛い目に遭い
ます」

?

「面白いわね。叩き潰してやりたいわ」

?

「俺たちの前に立ちはだかる者は」

?

「誰だろうと容赦しない」

?

「それが俺たち、ヘルダーク族だ」

?

「ジョーカーとやら、我々ヘルダーク族はお前たちトランプに協力しよう」

ジョーカー

「ありがとうございます」

ついに、ヘルダーク族がトランプと手を組んだ。プリキュアとビーファイターに、更なる脅威が迫ろうとは、まだ誰も知らなかった。

第13話 ネオビートマシン改良計画（後書き）

今回はプリキュアとヘルダーク族が対決します。その前にトランプとヘルダーク族の紹介です。

トランプの紹介（前書き）

ここで、トランプの紹介をします。イメージＣＶを一部、変更して
いるので、ご了承ください。

トランプの紹介

トランプ

突如として現れた謎の敵。地球侵略を目的とし、それを阻止しようとするプリキュア&ビーファイターと対峙する。

キング

トランプの首領。カードを使って、幹部及び怪人を召喚する。また、自分の魔力を使って、過去に倒された怪人を召喚することも可能。

イメージCV：柴田 秀勝

クイーン

トランプの女王。キングの不在時は指揮を任されるほど、キングから信頼を寄せている。

イメージCV：高島 雅羅

ジャック

トランプの司令塔で、キング、クイーンと部下を繋ぐパイプ役をこなす。それ故に、キングやクイーンからの極秘指令を任されることも多く、影の暗殺者の異名を持つ。口癖は「なかなかやるな」

イメージCV：井上 和彦

エース

トランプの中でも、意外性と俊敏さを併せ持つが、気が短い上に血気盛んなのが玉に瑕。

イメージCV：高橋 広樹

ジョーカー

トランプの中では交渉人と言われるほど、交渉術に長けている切れ

者。更に頭脳明晰で、作戦の発案が早い。

イメージCV：飛田 展男

トランプ四天王

トランプの主力で、作戦の大半が、この4人である。

スペード

トランプ四天王のリーダー。冷静沈着な性格で、あらゆる事態を想定し、作戦を実行する。

イメージCV：中井 和哉

クラブ

トランプ四天王のメンバーで、スペードとは正反対に性格は熱い。そのせいか、対立する事もしばしば。

イメージCV：平田 広明

ハート

トランプ四天王の女戦士。普段は温厚だが、敵には冷酷非情という二重人格の持ち主。部下も不要ならば、切り捨てる。

イメージCV：木下 あゆ美

ダイヤ

ハートと同じトランプ四天王の女戦士。スペードとクラブの喧嘩をいつも止めている。ハートとは仲がよく、姉のように慕う。

イメージCV：菊池 美香

ポーカーナイツ

後半から登場するトランプの幹部。鎧を装着しており、騎士道に則って、正々堂々とした戦い方を好む。

ロイヤル

ポーカーナイツのリーダーで剣の達人。武器は切れ味抜群の剣「ロイヤルソード」。

イメージCV：載寧 龍二

ストレート

ポーカーナイツの中でも、物凄いパワーを誇る。武器は巨大な斧「ストレートアックス」。

イメージCV：林 剛史

フラッシュ

ポーカーナイツの中でも、素早いスピードを誇る。武器は鋭利な槍「フラッシュスピア」。

イメージCV：伊藤 陽佑

フルハウス

ポーカーナイツの中でも、頭の回転が速い。武器は棍棒「フルハウスロッド」。

イメージCV：吉田 友一

蜘蛛丸

首領キングが持つカードデッキの中の1枚から召還させたトランプ忍者。ポーカーナイツと同様に新たな戦力及び幹部として加えた忍者風怪人。腰脇にぶら下げている日本刀が主な武器であり、様々な

「トランプ忍法」という忍術の使う。『トランプ忍法・死霊の術』
で倒された怪人を実体のある亡霊として甦らせる。

イメージCV：大塚 芳忠

（トランプ忍法『桜吹雪の舞』）

片手を翳す事により桜の花で花吹雪を起こすのであり、花吹雪は1枚1枚命中すると爆発する仕組みになっている。

（トランプ忍法『蜘蛛糸電撃』）

両手から放ち出した蜘蛛の糸で複数の敵を縛り上げて、そのまま糸を伝いながら敵の身体に強力な電気を流し込む。

（トランプ忍法『稻妻火炎地獄』）

複数の敵の周囲を火の輪で囲い込む事によって超高熱火炎の熱で苦しめた後、上空から稻妻を敵に落として攻撃する。

（トランプ忍法『巨大身の術』）

忍法名を唱える事で自身を巨大化させるのであり、巨大化しても元の大きさに戻る事ができる。

（トランプ忍法『手裏剣大風車』）

巨大な手裏剣に変身した自身が高速横回転し始めた後、そのまま円盤のように飛び回っていき、敵や物体を切り裂いてしまう。

（トランプ忍法究極奥義『幽魔地獄封じ』）

蜘蛛丸自身が「究極のトランプ忍法」と自負する奥の手。日本刀を地面に突き刺すと同時に大地が割れるように開き出して、割れた大地の中から現れた巨大な手が複数の敵を掴み取った後、そのまま地割れの中に敵を引きずり込ませる。手が引きずり込むと同時に大地は閉まり出す事で元に戻る。引きずり込まれた敵はそのまま地底の奥のそのまた奥にある『幽魔地獄』と言う場所に閉じ込められ、今

まで倒された怪人の怨念が支配する地獄の墓場で理性と知性もない怪人の亡霊達に敵を襲わせる。

Dr・スピード

突如、トランプに現れた謎の科学者。その正体は向井博士の同僚で小山内博士の先輩だった元アースアカデミアの科学者・速水裕次郎博士。科学者として向井博士に負け続けてきたのであり、自分の科学力で向井博士だけでなく人類をも見返す為にトランプと結託する。トランプには大きな忠誠心を誓っており、一度プリキュアやビーフアイターに倒されたギガ口達やライジャ達そしてサーキュラス達等を全く信用していないが、強化改造として新たな武器・能力を与える事や彼らの能力を向上させる。我が子として作り出したブリッジとアマゾンに大きな愛情を注いでいる為、2人を傷つけようとする者や傷つけた者はキングやクイーン以外の誰でも容赦はしない。

イメージCV：江原 正士

ブリッジ

Dr・スピードが生み出したアンドロイド。剣の使い手でかなりの手練れ。Dr・スピードの科学で作られた愛剣「ダークネスセイバー」が武器。スピードには大きな忠誠心を抱き、プライドが大きい為に正々堂々とした戦いを好む。自分が気に食わないビーファイターカブトにしつこく挑み、同じカブトを倒そうとするライジャとデスコープオンとぶつかり合う。

イメージCV：櫻井 孝宏

「必殺技」

(インフェルノファイヤー)

赤色のボタンを押す事で刀身部に超高熱火炎を包み込み、そのまま敵を攻撃する。刀身部から炎の嵐を放つ場合もある。

(インフェルノスプラッシュ)

青色のボタンを押す事で刀身に水流を包み込み、そのまま剣を振るい出す事によって水流の刃を放つ。

(インフェルノストーム)

桃色のボタンを押す事で刀身に旋風を包み込み、そのまま剣を振るい出す事によって真空の刃を放つ。

(インフェルノグラウンド)

緑色のボタンを押した後に剣を地面に突き刺して、地面に走らせた火花が敵に到達すると同時に大爆発を起こす。

(インフェルノレーザー)

黄色のボタンを押す事で刀身に閃光を包み込み、そのまま剣を突き出す事によって強力なレーザー光線を放つ。

(インフェルノサンダー)

5つのボタンを全て押した後、剣を上空に掲げると同時に敵のいる所の上空から赤・青・ピンク・緑・黄色の落雷を発生させて攻撃する。

アマゾン

こちらでもDr・スピードが生み出した作戦参謀のアンドロイド。変装が得意で、男女問わず人間に姿を変えられる事ができる。スピードには大きな愛情を抱いており、同じアンドロイドであるブリッジの事を常に心配している。元々はスピードの正体である速水博士がまだ幼い娘を失ったのを悲しみ、その娘が成長した姿を想像した上で生まれ変わりとして作った。

イメージCV：能登 麻美子

下級兵士

トランプに仕える兵士たち

ポーンロイド

一般の兵士。一言でいえば雑魚。

ルークロイド

城壁のような姿をした兵士。防御力は高く、並みの攻撃ではびくともしない。

ナイトロイド

騎士のような兵士。ポーンロイドより攻撃力が高く、騎馬戦が得意。

ビショップロイド

聖職者の姿をした兵長。ポーンロイド、ルークロイド、ナイトロイドをまとめる。

上級兵士

キングやクイーンに仕える親衛隊

クイーンロイド

クイーンに仕える女性の親衛隊。下級兵士とは格が違う。

イメージCV：小嶋 陽菜^{レッド}、高橋 みなみ（ピンク）、峯岸 みなみ（グリーン）

キングロイド

キングに仕える親衛隊で、こちらも下級兵士とは格が違う。

イメージCV：うえだ ゆづじ

トランプの紹介（後書き）

次回はヘルダーク族の紹介です。

ヘルダーク族の紹介（前書き）

登場に先駆けて、ヘルダーク族を紹介します。

ヘルダーク族の紹介

<ヘルダーク族>

太平洋に浮かぶ『幽鬼島』にある地下神殿を根城とする一族。

世界各国に伝わる伝説上の神・怪物の血が流れている怪人“ヘルダーク”の集まりであり、太古から地球に存在しているが、宇宙の数多くの惑星で活動する為にほとんどが地球を離れている。トランプの幹部・ジョーカーとの取引によりトランプ結託部族として協力し、プリキュア&ビーファイターの前に立ちはだかる。人間はもちろんトランプに対しても時々冷酷な目を見る事もあるが、全員が仲間（ヘルダーク族所属の者）想いな性格を持つ。

【魔神將軍ゼデス】

トランプ結託部族・ヘルダーク族のリーダー格。

ギリシア神話の神ゼデスの血が流れており、普段は鎧武者のような姿をしているのだが、サメの怪人に姿を変える事ができる。人間の姿の時は笛にもなる剣を吹く事で敵の脳を攪乱させる超音波を放ち、武器である三つ又の矛から電撃を放つ「魔神の雷」という技を使う。怪人の姿の時はサメの頭部を飛ばして敵に噛み付かせる「ゼデス鯨牙攻め」という技を持つ。倒された怪人を実態のある亡霊として蘇らせる事ができる。

配下の怪人は魚類がモチーフとなっている。

イメージCV：大塚 周夫

「必殺技」

（暗黒魔神剣『邪心満月斬り』）

ヘルダーク族最強の剣「暗黒魔神剣」を両手で構えた後、刀身部に闇の力を包み込んで、円を描いた後にそのまま敵を一刀両断に斬る。

（暗黒魔神剣・邪心業火斬り）

ヘルダーク族最強の剣「暗黒魔神剣」を両手で構えた後、刀身部に地獄の炎を包み込んで、X字を描くようにそのまま対象の敵を斬る。

（暗黒魔神剣『靈力満月斬り』）

ヘルダーク族に伝わる伝説の力であり、かつて鬼神岳に眠る靈力（無限のマイナスエネルギー）を得た事で使用された技。ヘルダーク族最強の剣「暗黒魔神剣」を両手で構えた後、靈力を刀身部に包み込んだ状態で円を描いた後にそのまま敵を一刀両断に斬る。

【酒神男爵ザツコス】

トランプ結託部族・ヘルダーク族のNo.2であり、魔神將軍ゼデスの片腕的存在。

古代ギリシアのブドウと酒の神ディオニソス（バツカス）の血が流れており、普段は海賊の船長のような姿をしているのだが、伊勢海老の怪人に姿を変える事ができる。邪悪な星で生まれた魔獣ディバイザンを操り、金銀財宝等を盗み取っては用済みの星を宝石に変えるという一番あくどい活動をしていた。グロノス同様に人間の姿でも十分に強く、義手となつている左手のフックを外すとバズーカ砲になつて、剣を振るいながら攻撃する。酒が好物であり、酒が自分の力の源としている。怪人態になると左手の巨大な鋏が武器となつており、傷をつける事のできないボディーをしており、それ故ビーターファイターとプリキュアの攻撃が効かない。

配下の怪人は魚類以外の海棲生物がモチーフとなっている。

イメージCV：内海 賢二

「必殺技」

（スパーキングフック）

人間としての姿で使用される技。義手となつている左手のフックを鎖に繋がれた状態で放ち出し、そのまま敵の身体を縛り上げた後、鎖を伝いながら高圧電気を流し込む。

（黄金電撃拳）

人間としての姿で使用される技。フックを取り外す事で大砲となる左手から黄金に輝く拳型のエネルギー弾を発射し、エネルギー弾は着弾すると大爆発を起こし、物凄い威力を持っている。

（ザッコスハリケーン）

本来の姿で使用される技。左手となっている巨大なロブスターの鋏からエネルギーの竜巻を放ち出すのであり、地面に植えられた大木をも吹き飛ばしてしまう程の威力を持つ。

（ザッコス岩石落とし）

本来の姿で使用される技。左手となっている巨大なロブスターの鋏から『ザッコスハリケーン』を放って、その風力で巨大な岩石を数多く吹き飛ばしながら敵を攻撃する。

（ザッコスブーメラン）

本来の姿で使用される技。海老の足が生えている甲羅を背中から取り外し、円盤の要領で投げ飛ばすのであり、横回転しながら飛ぶ甲羅は様々な物体を切り裂く。着弾と同時に爆発を起こす事もあるが、爆発が起きても甲羅は何故か傷一つも付かずにザッコスの元に返ってくる。

（ザッコスバルカン）

本来の姿で使用される技。左手となっている巨大なロブスターの鋏から銃弾を連続発射するのであり、銃弾は鋼鉄に穴を開けてしまう程に硬い金属でできている。

（ザッコスファイヤー）

本来の姿で使用される技。右手の掌から超高熱の火炎弾を発射する

のであり、火炎弾は着弾すると同時に爆発を起こす。火炎弾を連続発射する事も可能である。

（霊力 シザースシヨッカー）

かつて鬼神岳に眠る霊力（無限のマイナスエネルギー）を得た事で使用されて、左手となつてゐる巨大なロプスターの缺から霊力に帯びた黄金色の電撃を放ち出し、電撃が敵のいる所に到達すると同時に爆発を起こす。

【魔獣ディバイザン】

邪悪なる星から生まれた巨大な生命体。星を喰らい尽くす事で宝石を生み出す能力を持つており、凶暴な上に理性と知性を持たない破壊獣だったが、この魔獣を見つけた酒神男爵ザッコスが背中に巨大な城を建設した。それによりザッコスに操られるようになり、宇宙を荒らす為の要塞となつた。プリキュアやビーファイターの必殺技・合体技は勿論ビートマシンやネオビートマシンそしてメガヘラクレスの攻撃も全く効かず、メガビートキャノンも一切通用しない。更に大甲神カブテリオスや邪甲神クワガタイタンとは比べ物にならない程のパワーを持ち、2体が同時に相手になつても倒す事ができない。口からは強力な超高熱火炎を吐き、尻尾を鞭のように振るつて両前足の爪による引っ掻きや口の牙による噛み付きも強力となつてゐる。

【毒邪魔姫ゼドーサ】

トランプ結託部族・ヘルダーク族の大魔術士。

ギリシア神話の怪物メデューサの血が流れており、普段は赤いローブを着た魔術師のような姿をしているのだが、へビの怪人に姿を変える事ができる。人間の姿の時は口からの白い息を突風に変えて、

敵を吹き飛ばす「突風地獄」という技を使う。怪人の姿の時は蛇の尻尾のような鞭が武器であり、髪となっている無数の蛇の目からは赤い怪光線「ゼドーサデスビーム」を発射する。ヘルダーク族に古代から伝わる『大悪魔術』を使う。

配下の怪人は爬虫類がモチーフとなっている。

イメージCV：田中 敦子

「必殺技」

（ゼドーサ秘術『死霊傀儡』）

ゼドーサが得意とする魔術であり、プリキュアやビーファイターに倒された怪人を実体のある死霊として召還させ、甦った怪人は以前より数倍パワーを増している。

（ゼドーサ秘術『傀儡人形』）

ゼドーサが得意とする魔術であり、自身の両目から放たれる赤色の妖光を相手に浴びせ、その相手を自分の意のままに操れる。操られた者の目は赤色に染まっている。

（大悪魔術『写し身』）

ヘルダーク族に大昔から伝わる大悪魔術の1つであり、自身の両目から放射される緑色の妖しい光を相手に浴びせ、相手と瓜二つの偽者を作る。光を浴びた者はゼドーサの持つ水晶玉の中に封じ込められる。

（大悪魔術『影分身』）

ヘルダーク族に大昔から伝わる大悪魔術の1つであり、自身の両目から放射される紫色の妖しい光を相手に浴びせて、敵の影を実体化させる。影がダメージを受けると本体もダメージを受けてしまう。

（大悪魔術『霧幻の舞』）

ヘルダーク族に大昔から伝わる大悪魔術の1つであり、白い霧を敵

のいる所に漂わせ、その霧で作り出す幻で敵を攻撃する。

（大悪魔術『時間返し』）

ヘルダーク族に大昔から伝わる大悪魔術の1つであり、目の前に時計型のエネルギーを作って、針を逆戻りにさせる事で時間を10秒巻き戻す。

（靈力 竜巻地獄）

かつて鬼神岳に眠る靈力（無限のマイナスエネルギー）を得た事で使用されて、口からの白い息を靈力で強力な竜巻に変えた後、そのまま複数の敵を竜巻に飲み込ませて攻撃する。

【魔獣勇者ヘルゲロス】

トランプ結託部族・ヘルダーク族の勇者。

ギリシア神話の魔犬ケルベロスの血が流れており、普段は古代バイキングのような姿をしているのだが、イヌの怪人に姿を変える事ができる。人間の姿の時は両目を赤く発光させた後、敵の周囲を火の輪で囲い込む「火炎地獄」という技を使う。怪人の姿の時は頭部の両側にもイヌの首があつて、全ての頭部の口から地獄の火炎「ヘルゲロスファイヤー」を放ち、物凄いパワーを誇っている。

配下の怪人は哺乳類がモチーフとなっている。

イメージCV：三宅 健太

「必殺技」

（ヘルゲロスメテオバースト）

3つの犬の頭部の内、真ん中の頭部に埋め込まれた赤い宝玉からの光線を空中に放って、上空から赤い炎に帯びた隕石を敵の立つ所に落下させ、隕石は着弾すると同時に大爆発を起こす。

（靈力 火炎地獄）

かつて鬼神岳に眠る霊力（無限のマイナスエネルギー）を得た事で使用されて、両目を赤く発光させる事によって霊力で強力な地獄の炎を呼び、その炎で敵の周囲に火の輪を作り出す。「ヘルゲロス火炎地獄」の強化版であり、威力だけでなく敵に与えるダメージも大きい。

【怪鳥神官ギガロス】

トランプ結託部族・ヘルダーク族の大神官。

ギリシア神話の鳥人イカロスの血が流れており、普段は聖職者のような姿をしているのだが、コンドルの怪人に姿を変える事ができる。人間の姿の時は人差し指を空に向けて、敵のいる所に空から雷を落とす「落雷地獄」という技を使う。怪人の姿の時は翼を大きく羽ばたく事で爆弾にもなる羽根を手裏剣のように放ち出し、空中を大旋回する事で竜巻を起こす「ギガロス大竜巻」という技を持つ。

配下の怪人は鳥類がモチーフとなっている。

イメージCV：緑川 光

「必殺技」

（ギガロスグランドクロス）

片手を翳すと同時に惑星直列のように並ぶ9色のエネルギー弾を敵の立つ位置に目掛けて落下させて、それらのエネルギー弾は着弾すると同時に大爆発を起こす。

（ギガロスゴールドサンダー）

『ギガロス落雷地獄』の強化版であり、右腕のプラスハンドと左腕のマイナスハンドを合わせる事で上空から黄金に輝く稲妻を落とす。本人曰く「これは空気中のプラス電気とマイナス電気が互いに引き合う事で雷を起こす原理と同じ」。

（霊力 落雷地獄）

かつて鬼神岳に眠る霊力（無限のマイナスエネルギー）を得た事で使用されて、人差し指を空に向けてる事によって霊力で黄金色に輝く雷を呼び、その雷を敵のいる所に目掛けて落とす。「ギガロス落雷地獄」の強化版であり、威力だけでなく敵に与えるダメージも大きい。

【死神戦士グロノス】

トランプ結託部族・ヘルダーク族最強の戦士。

ギリシア神話の神クロノスの血が流れており、普段は黒いローブ姿の青年だが、カマキリの怪人に姿を変える事ができる。人間の姿の時も十分に強く、両手の間に作ったエネルギー弾を放つ「死神弾」が主な技であり、岩をも砕いてしまう大鎌が武器。怪人の姿の時は「死神弾」の他にも1000の技を持つ。冷酷極まりない性格の持ち主だが、正々堂々とした戦いを好む。最強の戦士としての誇りは非常に高い為、自身が膝を付く事や弱音を吐く事を非常に嫌っている。自分に膝を付かせたキュアドリームとキュアルージュを倒そうとしてこく襲い、最高にして究極の獲物にしている為に2人を倒そうとする者には容赦しない。べらぼう口で喋っており、自分には油断と隙を与えない程の戦闘能力を持っている。

配下の怪人は昆虫・節足動物類がモチーフとなっている。

イメージCV：小山 力也

「必殺技」

（死神弾）

両手の間にエネルギー弾を作り出して、そのまま敵に目掛けて放ち出すのであり、エネルギー弾は着弾すると同時に大爆発が発生する。その威力はビートマシンやメガヘラクレスそしてネオビートマシンの機能を一撃で麻痺させてしまう。

（超暗黒死神弾）

人間界に漂う負の力を集めた後、それを巨大な漆黒のエネルギー弾として両手の間に作り出して、そのまま敵に目掛けて放ち出す。その威力はプリキュアが最終決戦で使用した最強の必殺技までも打ち破り、メガビートキャノンの一撃ですら押し返してしまふ。本人曰く「貴様らの最強の技を越えた俺の究極の必殺技」。

(グロノス大風車)

両腕を広げた状態で竜巻のように超高速横回転しながら敵に突撃し、そのまま両手の鎌で敵を攻撃する事や様々な物体を切り裂いてしまふ。超高速で回転をする為、鎌の切れ味は鋼鉄ですら切り裂いてしまふ。

(グロノススクリュー)

両手にそれぞれ持つ鎌状の剣を2つ同時に高速回転させていき、それによりダークエネルギーの突風を放ち出すのであり、敵が繰り出す攻撃を押し返してしまふ。攻撃にも防御にも優れている。

(グロノスファイヤー)

口から闇の力に帯びた地獄の超高温火炎を放ち出すのであり、この火炎で敵の放つ攻撃を押し返し、そのまま敵を攻撃する。攻撃にも防御にも優れている。時に自分の邪魔をする再生怪人を灰にしてしまふのであり、強い憎しみで何度も立ち上げられる怪人も完全に滅んでしまふ。

(ダークネスブリザード)

両手の鎌を交差させた状態で翳す事により強力な冷気を放って、冷気を浴びた者は長方形型の氷の中に閉じ込められてしまふ。冷気は黒い闇の力に帯びており、絶対零度を遥かに上回る零下1000もある。

（デスゴッドガス）

強力な猛毒性と溶解性を誇る白いガスを口から吐き出すのであり、インセクトアーマー・ネオインセクトアーマー、ビーファイターとプリキュアの持つ武器等も溶かしてしまう。

（ダークネスシックル）

片手の鎌部分に黒い闇の力を包み込んだ後、そのまま手を振るい出す事により鎌から闇の力に帯びた真空の刃を放つ。その威力は鋼鉄をも切断してしまう程である。

（ダークネスシールド）

片手を翳す事で闇の力に帯びた強力なバリアーで自身を包み込み、敵の放つ技・攻撃等をバリアーに吸収させる。吸収された技・攻撃は数十倍にも威力を高めた後、そのまま技・攻撃を放った者に返すように攻撃する。しかし獲物として付け狙うドリームとルージユを助ける際にも使用されるのであり、片手から放射される赤い光線で相手を包み込むようにバリアーを張る。

（死神飛燕『螳螂崩し』）

空中にジャンプした後、そのまま重力で加速度を付けた状態で落下して、両手に装備した鎌で敵を斬る。その威力は巨大な岩石を一撃で砕いてしまう程である。

（死神霊力弾）

かつて鬼神岳に眠る霊力（無限のマイナスエネルギー）を得た事で使用されて、通常の「死神弾」として放つエネルギー弾に霊力を加えた状態で両手の間に作り出し、そのまま10個のエネルギー弾を敵に目掛けて連続で放ち出す。霊力で強化された為に着弾と同時に発生する爆発は大きく、そして威力も更に大きい。

(シューティングスター殺し)

キュアドリームの必殺技「プリキュアシューティングスター」を打ち破る為の技であり、突撃を仕掛けるドリームからジャンプで避け、そのまま片手で繰り出す強力パンチをドリームの背中に打ち込む。

(ファイヤーストライク返し)

キュアルージュの必殺技「プリキュアファイヤーストライク」を打ち破る為の技であり、ルージュが蹴り飛ばす火球をオーバーヘッドキックの要領で蹴り返して、そのまま火球をルージュに命中させる。

『霊力』による技はDr.スピードが登場した以降に使用され、『霊力』はその時に登場します。

【闇虫戦士ドクガンナ】

死神戦士グロノスの配下であり、デスゴッドシスターズの姉。

グロノスの影から出現して、普段は金色のローブ姿の少女だが、蛾の怪人に姿を変える事ができる。グロノスにとって妹分のような存在であり、グロノスからの信頼は厚く、自身もグロノスへの忠誠心が大きい。実の妹であるアゲハンナに対する愛情は何事よりも大きく、アゲハンナがピンチになると戦いの最中に助け出す事も少なくない。炎の属性を持つ。

アゲハンナと影を合わせる事で配下を召還させるのであり、モチーフは有毒生物と伝説上の獣の合成となっている。

クワガーとテントウを目の敵にしており、常に付け狙う。

イメージCV：富永 みーな

「必殺技」

(毒蛾ハリケーン)

羽を飛ばたかせる事により猛毒の燐粉の竜巻を放ち出し、粉を浴び

た者は熱・痛み・寒さ・しびれ・吐き気で苦しんでしまう。

(バーニングバード)

自身を炎で身を包み、炎の鳥と化して相手を焼き尽くす。

【闇虫戦士アゲハンナ】

死神戦士グロノスの配下であり、デスゴッドシスターズの妹。

グロノスの影から出現して、普段は銀色のローブ姿の少女だが、蝶の怪人に姿を変える事ができる。ドクガンナ同様、グロノスにとつて妹分のような存在であり、グロノスからの信頼は厚く、自身もグロノスへの忠誠心が大きい。実の姉であるドクガンナに対する憧れは何事よりも大きく、自分もドクガンナのように強くなりたいと思っている。氷の属性を持つ。

ドクガンナと影を合わせる事で配下を召還させるのであり、モチーフは有毒生物と伝説上の獣の合成となっている。

カプトとアゲハに自分のコピーと馬鹿にされたために、目の敵にしており、常に付け狙う。

イメージCV：かない みか

「必殺技」

(アゲハ蝶の舞)

印を組んだ後、虹色に輝く無数のアゲハチョウを敵の周囲に飛ばせて、飛び舞う蝶を見た敵に様々な幻覚を見せる。

(フリージングバード)

自身を冷気で身を包み、氷の鳥と化して相手を氷漬けにする。

「姉妹一体拳」

ドクガンナとアゲハンナが抜群のコンビネーションで繰り出し、お互いの能力を一体化させる事で放つ必殺技。

（姉妹一体拳『飛翔の舞』）

ドクガンナとアゲハンナが繰り出す合体必殺技の1つ。2人が敵を挟み込むように周囲を滑空していき、ジャグリングの要領でお互いに無数の短剣を連続で投げ付ける。複数の敵を同時に攻撃を行えて、敵側は反撃する事ができない。

（姉妹一体拳『飛翔一閃』）

ドクガンナとアゲハンナが繰り出す合体必殺技の1つ。アゲハンナを背中に乗せたドクガンナが滑空しながら敵に突撃していき、そのまま2人がすれ違い様に武器の死神剣で敵を同時に斬り裂く。

（姉妹一体拳『死神両斬』）

ドクガンナとアゲハンナが繰り出す合体必殺技の1つ。アゲハンナがドクガンナの肩を踏み台にジャンプした後、ドクガンナもその場からジャンプしていき、そのまま2人が武器の死神剣で敵を同時に斬り裂く。

【ヘルダーク怪人】

ヘルダーク族に仕える荒くれ者達。

それぞれが仕える主によりモチーフが異なっており、身体の何処かに誰の配下であるかを示す紋章を付けている。ヘルダーク族と同様にビーファイターやプリキュアを何人相手にしても互角に戦える程の戦闘能力を持ち、天空のマイナスエネルギーに満ちた落雷を受けると巨大化する事もできる。

（ゼデス怪人）

魚類モチーフであり、ネーミングは「
（モチーフ名）××（男爵・法師等の役職名）」。

昆虫・節足動物類モチーフであり、ネーミングはモチーフ名をアレンジした物となっている。

グロノス配下の怪人には2つの大鎌が組み合わさったような紋章が身体の何処かにある。

（デスゴッドシスターズ怪人）

有毒生物と伝説上の獣の合成モチーフであり、死神戦士グロノスの命令も忠実に聞く。ネーミングはそれぞれのモチーフ名を3文字でアレンジされていて、「
」となつている。 （有毒生物） ・ （伝説上の獣）

グロノス配下の怪人同様、2つの大鎌が組み合わさったような紋章が身体の何処かにある。

【ベルダー兵】

ヘルダーク族に仕える使い魔の集まり。ゼデス達の影から無数に出現して、漆黒の全身で背中にコウモリの羽がある。武器は腰にぶら下げている剣と両目から放射される攻撃用ビームであり、集団で複数の敵に襲い掛かる。

ベルダー兵は手柄を立てれば、6人の内の誰かに仕える上級兵へと昇格できる。

（ベルダー足軽隊）

魔神將軍ゼデスに仕えるベルダー兵。足軽姿をしており、日本刀を武器に戦う。

（ベルダー海賊兵）

酒神男爵ザッコスに仕えるベルダー兵。水夫姿をしており、銃にもなる短剣を武器に戦う。

(ベルダー魔術師)

毒蛇魔姫ゼドーサに仕えるベルダー兵。官女姿をしており、強力な魔力を使える。

(ベルダー魔闘士)

魔獣勇者ヘルゲロスに仕えるベルダー兵。バイキング姿をしており、斧を武器に戦う。

(ベルダー烏天狗)

怪鳥神官ギガロスに仕えるベルダー兵。烏天狗姿をしており、大空を自由自在に飛べる。

(ベルダー近衛兵)

死神戦士グロノス、デスゴッドシスターズに仕えるベルダー兵。騎士姿をしており、パワーとスピードが優れている。

ヘルダーク族の紹介（後書き）

今回は本格的にヘルダーク族がプリキュアに立ちはだかるぞ。

第14話 ヘルダーク族の襲撃（前書き）

お待たせしました。遂にヘルダーク族の登場です。

第14話 ヘルダーク族の襲撃

トランプ 要塞

クイーン

「ジョーカー、ヘルダーク族とどのような契約で協力を得た？」

ジョーカー

「はっ、プリキュアとビーファイターを倒したら、我々の最高幹部にしてやると」

クラブ

「何故、そんなことを？」

ジョーカー

「彼らなら、プリキュアとビーファイターを倒せるとみたからだ」

スピード

「だが、再生幹部どもは納得しないぞ」

？

「その通りだ」

現れたのは、ライジャだった。

ライジャ

「どこの誰か知らん奴らに、ビーファイターを倒せる訳がなかつ」

ジョーカー

「それは、彼らの実力を見てから言っていただけだと思いますね」

ナッツハウス

プリキュアのメンバーが集まっていた。

えりか

「このアクセサリー、ファッション部でつかえないかな」

いつき

「えりか、アクセサリー類の持ち込みは校則で禁止されているよ」

えりか

「え〜」

ゆり

「（確かに学校への持ち込みは厳禁ね）」

こまち

「りんさんとナッツさんのデザインしたアクセサリーがものすごく素敵なのよ」

つぼみ

「そうなんですか？」

のぞみ

「そつだよ」

ビールベース

マック、フリオ、李、ソフィーも日本を離れた。

甲平

「なんか、暇だよな」

健吾

「そんなに暇なら、訓練でもしたらどうだ？」

蘭

「もしくは、プログラミングでもやってみる？ 教えてあげるわ」

甲平

「勘弁してくれ」

ゆい

「そついえば、博士は？」

健吾

「支部長会議でニューヨークにいったるんだ」

小山内博士は支部長会議にニューヨークに行っているようだ。

ナッツハウス

表に5人の男女が現れた。そう、この5人こそが、トランプ結託部族となったヘルダーク族だ。

小々田

「何か出た」

のぞみ

「えっ!？」

夏

「気をつける、今までとは殺気が違う」

プリキュアたちが中から出てくると、ヘルダーク族が待ちかまえていた。

なぎさ

「何者なの、あんたたち？」

?

「魔神將軍ゼデス」

?

「毒蛇魔姫ゼドーサ」

?

「魔獣勇者ヘルゲロス」

?

「怪鳥神官ギガロス」

？

「死神戦士グロノス」

ゼデス

「我らはトランプ結託部族、ヘルダーク族だ」

咲

「トランプ結託部族」

のぞみ

「ヘルダーク族!？」

ラブ

「あなたたち、何しに来たの？」

ヘルゲロス

「我らは貴様らを倒すために来たのだ」

ギガロス

「ビーファイター共々、葬り去ってくれる」

ゼドーサ

「覚悟しな」

つぼみ

「あなた達の好きにはさせません」

えりか

「そうだよ、あんたたちがどれだけ強いかわからないけど」

いつき

「僕たちは負けない」

ゆり

「みんな、いくわよ」

全員

「うん」

メップル、ミップル、ポルン、フラッピ、チョッピは変身アイテムに変化した。ミルクもくるみに変化した。

なぎさ・ほのか

「デュアル・オーロラ・ウェイブ！」

ひかり

「ルミナス、シャイニングストリーム！」

咲・舞

「デュアル・スピリチュアル・パワー！」

のぞみ・りん・うらら・こまち・かれん

「プリキュア・メタモルフォーゼ！」

くるみ

「スカイローズ・トランススレイト！」

ラブ・美希・祈里・せつな

「チェインジ・プリキュア・ビートアップ!」

シプレ・コフレ・ポプリ

「プリキュアの種、いくで(すう)(すっ)(しゅ)ー!」

つぼみ、えりか、いつきはプリキュアの種をココロパフュームとシヤイニーパフュームに、ゆりはプリキュアの種をココロポットのふたにセットした。

つぼみ・えりか・いつき・ゆり

「プリキュア! オープン・マイ・ハート!」

全員がプリキュアへと変身を遂げる。

ブラック

「光の使者、キュアブラック!」

ホワイト

「光の使者、キュアホワイト!」

ルミナス

「輝く命、シャイニールミナス!」

ブルーム

「輝く金の花、キュアブルーム!」

イーグレット

「煌く銀の翼、キュアイーグレット!」

ドリーム

「大いなる希望の力、キュアドリーム！」

ルージュ

「情熱の赤い炎、キュアルージュ！」

レモネード

「はじけるレモンの香り、キュアレモネード！」

ミント

「安らぎの緑の大地、キュアミント！」

アクア

「知性の青き泉、キュアアクア！」

ローズ

「青いバラは秘密の印、ミルキイローズ！」

ピーチ

「ピンクのハートは愛ある印、もぎたてフレッシュ！ キュアピーチ！」

ベリー

「ブルーのハートは希望の印、つみたてフレッシュ！ キュアベリー！」

パイ

「イエローハートは祈りの印、とれたてフレッシュ！ キュアパイ！」

パッション

「情熱の赤い炎、キュアパッション！」

パッション

「真つ赤なハートは幸せの証、熟れたてフレッシュ！ キュアパッション！」

ブロッサム

「大地に咲く一輪の花！ キュアブロッサム！」

マリン

「海風に揺れる一輪の花！ キュアマリン！」

サンシャイン

「陽の光浴びる一輪の花！ キュアサンシャイン！」

ムーンライト

「月光に冴える一輪の花！ キュアムーンライト！」

全員が名乗りを終えた。

グロノス

「プリキュア、なんて数だ」

ゼデス

「いくぞ」

ヘルダーク族が人間の姿から怪人の姿に変化して、一気にプリキュアに襲いかかってきた。ゼデスはブラック、ホワイト、ルミナスのMH組、ゼドーサはブルーム、イーグレットのS S組、グロノスはドリーム、ルージユ、レモネード、ミント、アクア、ローズの5GoGo組、ヘルゲロスはピーチ、ベリー、パイン、パッションのフレッシュ組、ギガロスはブロッサム、マリン、サンシャイン、ムーンライトのハートキャッチ組を狙った。

ブラック

「はあああ！」

ホワイト

「やあああ！」

ブラックとホワイトがパンチとキックを繰り返すが、ゼデスは余裕の表情でガードしていた。

ゼデス

「貴様らの力はそんなものか？」

ゼデスは暗黒魔神剣を取り出すと、ブラックとホワイトに切りかかってきた。だが、2人の前にルミナスが現れてバリアを張った為、切られずにはすんだが、ゼデスは暗黒魔神剣を駆使して切りまくっているので、いつまで持つかは時間の問題だ。

しばらくすると、バリアにひびが入りだした。

ルミナス

「もう限界です」

ゼデスが暗黒魔神剣を振り下ろすと、バリアが破れてしまった。

ドカーン！

ブラック・ホワイト・ルミナス

「キヤー！」

ブルーム・イーグレット

「はああああ！」

ブルームとイーグレットはゼドーサと戦っていた。

ゼドーサ

「あなた達の攻撃など、このゼドーサには通用しない。ゼドーサ秘術・傀儡人形！」

ゼドーサの両目から放った赤い妖光がイーグレットを直撃、下を向いてしまった。

イーグレット

「キヤー！」

ブルーム

「イーグレット、どうしたの!？」

ゼドーサ

「キュアイーグレットよ、キュアブルームを倒せ！」

イーグレット

「はい」

イーグレットがブルームに顔を向けると、目が赤くなっており、ゼドーサに操られてしまっていた。そして、ブルームに攻撃を繰り返した。

ブルーム

「やめて、イーグレット。私たちが戦うなんておかしいよ」

チョッピ

「イーグレット、やめるチョッピ！」

フラッピ

「目を覚ますラッピ」

しかし、ブルーム、フラッピ、チョッピの声は今のイーグレットには届かず、同士討ちを繰り返していた。

ブルーム

「卑怯よ、ゼドーサ。イーグレットを操って、私と戦わせるなんて」

ムープ

「そうムプ」

フープ

「ひどいフプ」

ゼドーサ

「そんなに戦いたくないなら、死になさい。ゼドーサデスビーム！」

ドカーン…！

頭の蛇たちから放たれたビームが2人を直撃すると、吹き飛ばされてしまった。この衝撃で、イーグレットの目を覚まさせたとも知らずに。

ブルーム・イーグレット
「キヤー！」

プリキュア5とローズはグロノスと戦っていた。前からアクアとローズ、左右からレモネードとミントがパンチで仕掛けるも、それをグロノスは意に介さず、防いだ。

グロノス
「ハア！」

レモネード・ミント・アクア・ローズ
「キヤー！」

レモネードたちを弾いたものの、ドリームとルージュが上空からは狙っていたとは気付かなかったようだ。

ドリーム・ルージュ
「ハアー！」

グロノス
「何、上からも!？」

グロノスはガードする余裕もなく、ドリームとルージュのパンチをまともにくらってしまい、後退した上に膝をついてしまった。

グロノス
「キュアドリームにキュアルージュ、貴様らは俺の手で倒してやる」

グロノスはドリームとルージュばかりを狙いだした。

フレッシュ組はヘルゲロスと戦っていた。

ヘルゲロス

「くられ、火炎地獄！」

ヘルゲロスが炎を吐くと、フレッシュ組の周りは炎だった。

ヘルゲロス

「どうだ、俺の火炎地獄を前に、簡単には近づけまい」

だが、これぐらいで臆するプリキュアではない。ピーチを先頭に炎を飛び越え、果敢にヘルゲロスに向かっていった。

ピーチ・パッション

「ダブル・プリキュア・パンチ！」

ヘルゲロス

「ぐわあ」

ピーチとパッションのパンチが左側の顔に直撃する。

ベリー・パイン

「ダブル・プリキュア・キック！」

ヘルゲロス

「おわあ」

ベリーとパインにはキックをお見舞いされ、散々だった。

ハートキャッチ組はギガロスと戦っていたが、空を自在に飛び回るギガロスの前に苦戦していた。

ギガロス

「俺は怪鳥神官、簡単には捕まらんぞ」

マリリン

「ムカツク」

サンシャイン

「マリリン!？」

ブロッサム

「どこがムカついているんですか?」

マリリン

「だってあいつの声、デューンと同じだもん」

サンシャイン

「そこなの?」

ブロッサム

「確かに同じですが」

ムーンライト

「みんな、接近戦がダメなら、距離を置いて攻撃よ」

ブロッサム・マリリン・サンシャイン

「はい」

4人は武器を取り出した。

ブロッサム・マリリン・サンシャイン・ムーンライト

「集まれ、花のパワー！」

ブロッサム

「ブロッサムタクト！」

マリリン

「マリインタクト！」

サンシャイン

「シャイニータンバリン！」

ムーンライト

「ムインタクト！」

ブロッサムから順に必殺技を放った。

ブロッサム

「花よ輝け！プリキュア・ピンクフォルテウェイブ！」

マリリン

「花よ煌け！プリキュア・ブルーフォルテウェイブ！」

サンシャイン

「花よ舞い踊れ！ プリキュア・ゴールドフォルテバースト！」

ムーンライト

「花よ輝け！ プリキュア・シルバーフォルテウェイブ！」

4人の必殺技はギガロスに一直線に向かっていくが、ギガロスはいつも簡単にかわしてしまった。

ブロッサム

「必殺技が外れた」

ギガロス

「いったはずだ。俺は捕まらんと。くらえ、ギガロス大竜巻！」

ギガロスの大竜巻でハートキャッチ組は飛ばされてしまった。そして、プリキュアたちとヘルダーク族はそれぞれ集結した。

ブラック

「有り得ない」

ブルーム

「これまでの奴らとは違う」

ドリーム

「実力が違いすぎる」

ゼデス

「当然だ。我らはヘルダーク族だ」

ゼドーサ

「私の魔術を分かって貰えたかしら？」

ピーチ

「どんなに強くても、私たちは諦めない」

ヘルゲロス

「今日はほんの挨拶替わりだ」

ギガロス

「次はこうはいかないぞ」

グロノス

「キュアドリーム、キュアルージュ、貴様らの首は必ず貰うぞ」

ヘルダーク族は撤退した。

ブロッサム

「これからどうすればいいんですか？」

ドリーム

「希望は捨てちゃだめだよ。だって、私たちだけで戦ってるんじゃないもん」

アクア

「そうね、ヘルダーク族はまだビーファイターのこと知らない」

ナッツ

「ヘルダーク族のことはビーファイターにも言っておくナッツ」

ココ

「そうココ、あいつらの好きにさせちゃダメココ」

タルト

「それにしても、とんでもない奴らが来りましたな」

ドリーム

「何とかなるなる」

ルージュ

「ならないから」

遂にヘルダーク族がプリキュアたちの前に現れた。新たな敵を前に
どう戦っていくのか？

戦いは更に、混沌としていく。

第14話 ヘルダーク族の襲撃（後書き）

今回はあいつがああ魔獣を連れて地球にやってきました。そして、カ
ブトとクワガーが……。

第15話 カフト&クワガー死す!?(前書き)

今回からはABCさんの考案された、酒神男爵ザッコスと魔獣デ
バイザンが現れます。

第15話 カフト&クワガー死す!?

太平洋

ヘルダーク族が現れてから数日後、宇宙から隕石が落ちてきた。だがそれは、プリキュアとビーファイターにとって、最悪の事態を招くことになるうとは、まだ知る由もなかった。

数日後、幽鬼島

一人の男が要塞を構えた魔獣を連れてきていた。

ゼウス

「久しぶりだな、ザッコス」

ザッコスと呼ばれた男は、ゼウスに頭を下げ、挨拶をした。

ザッコス

「ゼウスこそ、元気そうだな」

ゼドーサ

「ちょうどいいところに来たわね」

ヘルゲロス

「ザッコス、お前が宇宙から連れてきたという、あの魔獣はいつた
い?」

ザッコス

「奴は魔獣デイベイザン。俺が破壊した星から生まれた邪悪な生命体だ。散々星を食い尽くして、最後は宝石を生み出しちまう奴でな、俺も手懐けるまで苦労したぜ」

ギガロス

「俺たちは現在、トランプの奴らを組んで、プリキュアやビーファイターの連中と戦っている」

ザッコス

「ほう、どんな奴らだ？」

グロノス

「トランプは地球征服を企んでいてな、プリキュアやビーファイターはそれを阻止しようと邪魔しやがる」

ゼドーサ

「簡単に言えば、私たちはトランプと組んで、プリキュアやビーファイターと戦っているのよ」

ザッコス

「面白い。ゼデス、今回は挨拶替わりに俺がいつてくる」

ゼデス

「良かるう」

ビートルベース

甲平

「ヘルダーク族!？」

プリキュアたちがビートルベースにきていた。

咲

「そう、奴らはトランプ結託部族と名乗って、私たちに挑んできたんです」

健吾

「そのヘルダーク族がトランプと組んで、君たちに挑んでくるとは」

蘭

「敵にも切れ者がいるってことよね」

そこへ、博士がニューヨークから帰ってきた。

博士

「ただいま」

健吾

「ニューヨーク出張、ご苦労様です」

博士

「ニューヨーク本部からはこれからも頼むぞと期待されてな。あれ、そこにいるのは？」

甲平

「ああ、こいつらがプリキュアだ」

健吾

「君たちにはまだ言っていなかったな。こちらが、コスモアカデミアの日本支部長の小山内博士だ」

蘭

「簡単に言えば、ここが司令官よ」

博士

「君たちが噂のプリキュアか。甲平たちから色々聞いていたよ」

りん

「いえいえ」

某所

ザッコスが魔獣ディバイザンと共に現れた。

ザッコス

「ここで暴れてやるか。やれ、魔獣ディバイザン」

ザッコスの命令で、ディバイザンは口から超高熱火炎を吐き出し、周辺を火の海に変えた。

ドカーン！

ビートルベース

電話が鳴り、博士が受話器を取る。

博士

「私だ。何、B地区で怪物が暴れてる!？」

甲平

「またランプの仕業かよ」

美希

「もしかしたら、この前のヘルダーク族かも」

健吾

「とにかく、行こう」

甲平たちは出撃した。

某所

デイバイザンが相変わらず暴れていた。ザッコス是要塞からそれを見ている。

ザッコス

「もっと暴れてやれ、ん？」

ザッコスはリーダーを見ると、3つの点がこちらに向かってくるのを見た。カプテリオス、クワガタイタン、ステルスジャイロである。更に、アカルンの力で瞬間移動してきたプリキュアたちも現れた。

テントウ

「ステルスブラスター！」

ドカーン！

ブラック

「私たちも」

ホワイト

「ええ」

プリキュアたちも必殺技の構えに入った。

ブラック

「漲る勇氣！」

ホワイト

「溢れる希望！」

ルミナス

「光輝く絆と共に！」

ブラック・ホワイト

「エキストリーム」

ルミナス

「ルミナリオ！」

ブラック、ホワイト、ルミナスがディバイザンの左側から合体技を

放った。続けざまにブライトとウィンディがブラックたちの横に入り、精霊の光を集める。

ウィンディ

「精霊の光よ、命の輝きよ」

ブライト

「希望へ導け、2つの心」

ブライト・ウィンディ

「プリキュア・スパイラルスター・スプラッシュ！」

プリキュア5とローズはデイバイザンの後ろに回っていた。プリキュア5はキュアフルーレ、ローズはミルキィミラーを携えていた。

ドリーム

「5つの光に」

ルージュ・レモネード・ミント・アクア

「勇気を乗せて」

ドリーム・ルージュ・レモネード・ミント・アクア

「プリキュア・レインボーローズ・エクスプロージョン！」

プリキュア5が一步を踏み込み、5色のバラを放つ。5色のバラは虹色のバラとなり、デイバイザンに向かっていく。

ローズ

「邪悪な力を包み込む、煌めくバラを咲かせましょう。ミルキィローズ・メタルブリザード！」

青いバラの吹雪が、虹色のバラと一つになり、デイバイザンに向かっていく。フレツシュの4人はデイバイザンの右側にいた。4人はリンクルンから、キュアスティックとパッションハーブを取り出す。

ピーチ・ベリー・パイン

「悪いの悪いの飛んでいけ！」

ピーチ

「プリキュア・ラブサンシャイン！」

ベリー

「プリキュア・エスポワールシャワー！」

パイン

「プリキュア・ヒーリングプレアー！」

ピーチ・ベリー・パイン

「フレーツシュ！」

パッション

「吹き荒れよ、幸せの嵐。プリキュア・ハピネスハリケーン！」

ピーチ、ベリー、パイン、パッションの必殺技が一つとなって、デイバイザンへと向かっていく。フレツシュの4人の横にはハートキヤッチの4人がいた。ハートキヤッチミラージュの力で既に、スーパースルエツトへとなっていた。

ブロッサム・マリン・サンシャイン・ムーンライト

「花よ咲き誇れ！ プリキュア・ハートキヤッチ・オーケストラ！」

ステルスジャイロとプリキュアの必殺技がディバイザンに命中する。

しかし……。

ザッコス

「これぐらいの力でやられるディバイザンではないわ。ハァー！」

ザッコスが叫ぶと、ディバイザンはステルスジャイロの攻撃と全てのプリキュアの必殺技、合体技を破ってしまった。

ブラック

「有り得ない！」

ブライト

「私たちの攻撃が効かない!？」

ドリーム

「そんな」

ピーチ

「それじゃあ、あいつは無敵ってこと?」

ブロッサム

「そんな、どう戦えばいいんですか?」

テントウ

「なんて奴なの!」

テントウとプリキュアたちは必殺技が効かないことに動揺していた。

ザッコス

「魔獣ディバイザンの前では貴様らの力など通じるものか。貴様らに地獄を見せてやる、くらえ！」

ザッコスは要塞からミサイルを発射し、ステルスジャイロを撃墜、プリキュアたちを吹き飛ばした。

テントウ・全プリキュア

「キヤー！」

ビートルベース

博士

「テントウ、応答しろ！」

テントウの声

「大丈夫よ、さっきの攻撃で出力はだいぶ落ちたけど、無事よ」

どうやら、ステルスジャイロは飛べるようだ。

現場

ザッコスの誇る、魔獣ディバイザンの前に、テントウと全プリキュアは手も足も出なかった。だが、プリキュアとビーファイターには、まだ2つの切り札が残っていた。

ザッコス

「そろそろ貴様らにとどめをさしてやる」

クワガー

「そうはいくか」

ザッコス

「誰だ？」

カプト

「俺たちだ」

そう、カプテリオスとクワガタイタンだ。カプトとクワガーはステルスジャイロの撃墜やプリキュアたちを見て、怒りを増していた。

クワガー

「好き勝手にやってくれたな」

カプト

「お前だけは、絶対に許さねえ」

ザッコス

「まだ言ってなかったな。俺の名は酒神男爵ザッコス、ヘルダーク族のNo.2だ。そしてこいつは魔獣ディバイザンだ。貴様らも返り討ちにしてくれる」

カプテリオスは大甲剣、クワガタイタンは邪甲剣を取り出し、ディバイザンに切りつける。

ザッコス

「貴様ら、俺の魔獣に傷をつけやがって」

カプト

「確かにこれまでの奴らとは、全然違う」

クワガー

「全力で攻撃するぞ」

カプテリオス、クワガタイタンはディバイザンの正面にたち、必殺技に入る。

カプト

「ビッグフレア！」

クワガー

「タイタニックフレア！」

カプテリオスのビッグフレア、クワガタイタンのタイタニックフレアがディバイザンを直撃し、大爆発した。

カプト

「やったのか？」

クワガー

「いや、まだだ」

そう、ディバイザンはかなりのダメージを受けたが、まだ生きていた。

カブト

「嘘だろ」

クワガー

「カプテリオスやクワガタイタンをもつてしても、倒せないとは」

ザッコス

「貴様ら、俺の魔獣をここまで追い込むとは」

デイバイザンは口を広げ、超高熱火炎の構えに入った。

カブト

「やべえ、みんな逃げろ！」

クワガタイタンはステルスジャイロを拾い上げる。

クワガー

「テントウ、プリキュアたちを頼むぞ」

テントウ

「カブト、クワガー！」

ドカーン！

デイバイザンの超高熱火炎がカプテリオス、クワガタイタンを直撃した。2体とも、かなりのダメージを受けた。

カブト・クワガー

「うわあああ！」

2体とも倒れてしまった上に、カブトとクワガーも意識不明の重体に倒れた。

ザッコス

「とどめだ」

ゼデスの声

「（待て、ザッコス。今回はそれくらいにしておけ。楽しみが無くなるぞ）」

ザッコス

「ゼデスの命令ならしょうがない。プリキュアにビーファイターども、今日はここまでにしてやる」

ザッコスはディバイザンを連れて、撤退した。

ビートルベース

博士が戦いの一部始終を見ていた。

博士

「まさか、カプテリオスとクワガタイタンでも叶わないとは」

ビット

「博士、甲平と健吾に連絡しないと」

博士は受話器を取る。

博士

「カブト、クワガー、応答しろ」

しかし、カブトとクワガーの返事はなかった。

戦場

カプテリオスとクワガタイタンが倒れてしまった。

ブラック

「有り得ない」

ブライト

「カプテリオスとクワガタイタンでも」

ドリーム

「勝てなかったなんて」

ピーチ

「嘘でしょ!？」

ブロッサム

「どうすればいいんですか?」

テントウ

「カブト、クワガー、お願いだから、返事してよー」

だが、カブトとクワガーからの返事はなく、テントウの悲痛な叫び

だけが戦場に響き渡った。

ヘルダーク族の1人、酒神男爵ザツコスと魔獣ディバイザンの前に、事実上の敗北を喫してしまったプリキュアとビーファイター。果たして、残されたテントウとプリキュアたちは、トランプとヘルダーク族を倒せるのか？

そして、倒れたカブトとクワガールの運命は？

第15話 カフト&クワガー死す！？（後書き）

甲平、健吾が意識不明の重体に倒れ、最悪の事態となったビートルベースに、拓也たちが駆けつけた。いよいよ初代BFが本格的に参戦するぞ。

第16話 初代ヒーファイター、帰国!!! (前書き)

すみません、参戦は次回以降に回します。今回は帰国だけです。

第16話 初代ビーファイター、帰国！！

前回の魔獣デイベイザンとの戦いで、カプテリオスとクワガタイタンが大破し、甲平と健吾が意識不明の重体に倒れた。ビートルベースは今や、最悪の事態に陥っていた。

博士

「甲平と健吾が意識不明の重体か、一体どうすれば？」

ゆい

「お兄ちゃん、健吾さん」

博士

「蘭、カプテリオスとクワガタイタンの修理状況は？」

蘭

「大破してるから、自己修復にはかなり時間がかかるわね」

博士

「今、戦えるのは蘭だけだ。頼むぞ」

蘭

「ええ」

ガチャ！

？

「失礼します！」

指令室の扉が開くと、見慣れた3人の男女が現れた。

博士

「甲斐君、片霧君、鷹取君も」

そう、甲平たちに取って、先輩にあたる甲斐 拓也、片霧 大作、鷹取 舞が現れたのだ。

蘭

「先輩！」

舞

「蘭ちゃん、久しぶり！」

大作

「坊主と健吾が倒れたって、本当か？」

博士

「ああ、敵はヘルダーク族のザッコスと名乗り、デイバイザンと呼ばれる魔獣を操り、甲平と健吾を重体に追い込んだんだ」

蘭

「更にプリキュアのみんなの必殺技や合体技、私たちの攻撃が効かないのよ」

拓也

「そうになると、メガヘラクレスでも撃破は難しいな」

大作

「それじゃあ、無敵じゃねえか」

舞

「そもそも、ヘルダーク族って何者なの？」

拓也・大作

「あっ」

どうやら、ヘルダーク族のことは拓也たちには知らされてなかったようだ。

蘭

「私たちがプリキュアのみんなからヘルダーク族の話は聞かされたから、詳細は分からないけど、トランプと手を組んだって聞いたわ」

舞

「トランプと手を組んだ？」

蘭

「ええ」

大作

「戦った本人たちに聞くのが早いな」

ガチャ！

指令室の扉が開き、プリキュアたちが遊びにきた。

のぞみ

「こんにちは」

ほか

「あれ、甲斐さん、片霧さん、鷹取さんもいるわ」

こまち

「今日はどうしたんですか？」

拓也

「甲平と健吾が倒れたと聞いて、それぞれ駆けつけたんだ」

大作

「お前たちがヘルダーク族と戦ったって聞いたけど、どういう奴らだ？」

(鷹取) 舞

「詳しく聞かせて」

えりか

「もちろんだよ。味方は多い方がいいよ」

ゆい

「わたし、お兄ちゃんと健吾さんを診てきます」

ゆいは甲平と健吾の見舞いで、医務室へと向かった。

つぼみ

「さっきの方は？」

蘭

「甲平の妹の鳥羽 ゆいちゃん。私たちのマネージャーかな」

いつき

「そうだったんだ」

こうして、拓也たちはプリキュアたちから悪魔族についで、聞かされた。

なぎさ

「私とほのかとひかりが戦ったのは、魔神將軍ゼウスよ」

ほのか

「なぎさ、それをいうならゼウスでしょ」

ひかり

「ゼウスはヘルダーク族のリーダーみたいです。剣が武器なんです」

拓也

「ヘルダーク族のリーダーか、メンバーの中では最強かもしれないな」

大作

「ああ」

蘭

「咲ちゃんと舞ちゃんが戦った奴は？」

咲

「私たちは毒蛇魔姫ゼリーと戦ったよ」

(鷹取) 舞・蘭

「ゼリー!？」

(美翔) 舞

「咲、毒蛇魔姫ゼドーサよ」

拓也

「それはさておき、話を続けて」

(美翔) 舞

「ゼドーサはあらゆる魔術を使って攻撃してきます」

大作

「ジャグールを思い出すな」

咲

「特に赤色の光を浴びたら、舞が操られて同士討ちになっちゃったから」

(鷹取) 舞

「のぞみちゃんたちが戦った相手は？」

のぞみ

「私たちは死神戦士グロノスと戦ったよ」

りん

「あいつに膝をつかせたら、私とのぞみばかり狙いだしたわ」

うらら

「これからのぞみさんとりんさんを狙ってきますね」

かれん

「のぞみとりんが膝をつかせたと思っ込んでるのね」

くるみ

「姿がカマキリみたいだったわ」

拓也

「カマキリか」

大作

「カマザキラーを思い出すな」

蘭

「あとはキルマンティスだわ」

博士

「次は誰かな」

ラブ

「次は私たちだね。私たちは魔獣勇者ヘルゲロスと戦ったよ」

博士

「名前の由来がケルベロスからきてるのかな？」

美希

「その通り、技は高熱火炎よ」

せつな

「ある意味で、怖い」

祈里

「ええ」

蘭

「最後はつぼみちゃんたちね」

つぼみ

「そうですね。私たちは怪鳥神官ギガロスと戦いました」

えりか

「あいつは自由自在に空飛べるもんね」

いつき

「確かに、怪鳥だからね」

ゆり

「技は主に、大竜巻かしら」

博士

「そして、昨日のザッコスと魔獣か。いずれにしても、トランプと同等、場合によってはそれ以上の脅威になるだろう」

ビット

「いずれも曲者揃いだね」

りん

「なんかしゃべった」

ビット

「失礼だな、ぼくの名はビットだよ」

蘭

「ビットは相手の弱点などを分析するのよ」

博士

「それはさておき、さっきの話だが」

拓也

「そのことですが、甲平と健吾が倒れてしまった今、俺たちも戦うよ」

大作

「坊主と健吾が倒れたとあつたら、黙ってる訳にはいかねえよ」

(鷹取) 舞

「蘭ちゃん、プリキュアのみんな、私たちがついてるから、一緒に頑張ろう」

蘭

「はい」

プリキュアたち

「うん」

皆が一致団結したとき、拓也がこんなことを言い出した。

拓也

「そういえば、未確認情報だけど、加音町という町でプリキュアが現れたらしい」

プリキュアたち

「ええーっ」

なぎさ

「ありえなーい」

のぞみ

「よーし、明日はそこに行くぞー、けってーい」

りん

「早すぎるでしょうが」

マイナーランド

嘆きと悲しみの音に満ち溢れる国。ここに1人の男が呟いていた。

？

「伝説の楽譜はある。なのに肝心の音符が無くては何の役にもたたんではないか？ それもこれもプリキュアが現れて以来、あいつらの音符集めが遅れてるせいだ」

この男の名はマイナーランドの王、メフィスト。音符を部下たちに集めさせて、不幸のメロディを完成しようと企んでいる。

ジョーカー

「そんなにプリキュアたちが邪魔でしたら、手を組みませんか？」

メフィスト

「誰だ？」

ジョーカーが現れる。

ジョーカー

「私の名はジョーカー、トランプの者です。以後、お見知り置きを」

メフィスト

「私がこのマイナーランドの王、メフィストだ。今日は何のようだ」

ジョーカー

「あなたがたもプリキュアが邪魔のようですね。我々はプリキュアだけでなく、ビーファイターの連中が邪魔なのです」

メフィスト

「何、プリキュアだけでなく、ビーファイターとやらもいるのか？」

ジョーカー

「その通りです。いずれにしても、彼らが邪魔なので、我々と手を組みませんか？」

メフィスト

「わかった、お前たちと手を組もう」

ジョーカー

「ありがとうございます」

ジョーカーが去ると、水面に顔を映し、部下たちと通信する。

メフィスト

「セイレーン、トリオ・ザ・マイナー」

相手側にセイレーンとトリオ・ザ・マイナーが現れる。

セイレーン

「お呼びですか、メフィスト様？」

セイレーンは猫の妖精で、メフィストの部下だ。更にトリオ・ザ・マイナーの司令官でもある。

トリオ・ザ・マイナーはセイレーンの部下で、悪のコーラス隊だ。

メフィスト

「我々にトランプとやらが手を組もうと言ってきてな、それで手を組むことにした」

セイレーン

「なぜそのようなことを？」

メフィスト

「向こうもプリキュアが邪魔のようだな、更にビーファイターとやらもいて、邪魔になることがわかった。互いの利害は一致している。だから手を組んだんだ」

セイレーン

「分かりました」

メフィスト

「引き続き、音符集めは頼むぞ」

セイレーン

「はっ」

通信は切れた。

メフィスト

「これで不幸のメロディは完成したも同然だ。ふはははは・・・」

マイナーランドには、メフィストの笑い声が響き渡った。

メイジャーランド

マイナーランドとは対をなし、全世界の音や音楽を生み出す国。ここに1人の女性がいた。

？

「マイナーランドに不穏な動きがありますね」

彼女の名はアフロディテ、メイジャーランドの女王である。

アフロディテ

「人間界で恐ろしいことが起ころうとしています。ハミィとプリキユアは大丈夫でしょうか？」

ハミィとは、メイジャーランドの妖精で、音符集めに人間界へ行っている。

加音町

ここに2人の少女と一匹の猫（！？）がいた。

？

「響、私の作ったケーキはどうだったの？」

？

「いや、最高においしい」

？

「奏の作るお菓子はおいしいニヤ」

響と呼ばれた少女は北条 響、感想を聞いている少女は南野 奏。

そして、語尾に「ニヤ」をつけて喋るのが、ハミイである。

この2人もプリキュアで、それぞれキュアメロディ、キュアリズムである。現在は私立アリア学園中学校に通う傍ら、プリキュアとして、ハミイと共に音符集めをやっている。

ハミイ

「（響と奏のハーモニーパワーはますます上がっていくニヤ）」

響

「奏もベルティエを覚醒させたし、怖いものなしだね」

奏

「響、油断は禁物よ」

ハミイ

「まあまあ、2人ならうまくやっっていけるニヤ」

だがこの時、マイナーランドだけでなく、トランプやヘルダーク族とも戦うことになるうとは、まだ知る由もなかった。

第16話 初代ヒーファイター、帰国！！（後書き）

今回はスイートプリキュアがいよいよ参戦だ。さらにジャックも現れ、戦いは混沌となっていく。

第17話 スイートプリキュア、現る!!! (前書き)

今回からスイートプリキュアが登場、終盤にはジャックも現れます。

第17話 スイートプリキュア、現る！！

トランプ 要塞

キングの体調も快方に向かい、皆の前に姿を現した。

キング

「ヘルダーク族が手を結んでくれたおかげで、我が体調も回復に向かっている」

ジョーカー

「ありがとうございます」

キング

「それに奴らのおかげで虫けら二匹を重症に追い込むとはな」

ジョーカー

「全て、私の苦勞が実ったおかげですね。それとこの前、マイナーランドにいつてきました」

キング

「マイナーランド？」

ジョーカー

「何でも、嘆きと悲しみに満ちた世界で、奴らもプリキュアが邪魔になつてるようです」

キング

「なるほど、奴らの敵は多いということか」

ジャック

「キング様、今回は俺にいかせてください」

キング

「ジャックか、今回はどうした？」

ジャック

「まっ、俺だって出撃して戦いたいから」

キング

「よかるう、出撃を許可する」

ジャック

「はっ」

加音町

拓也たちが加音町にやってきていた。

なぎさ

「ここが加音町か」

咲

「音楽で溢れてるね」

拓也

「このプリキュアは音楽に関係してるそうだ」

のぞみ

「そうなんだ」

ラブ

「楽しみだね」

つぼみ

「そうですね」

その時、左側から響が現れて、拓也とぶつかってしまった。

響

「いたたた」

拓也

「大丈夫かい？ 怪我はないか？」

響

「大丈夫です」

奏

「響ったら、しっかりしてよ」

奏もやってきた。

響

「いじめんなさい」

拓也

「まあまあ、ここで話も何だから、移動しよう」

拓也の進言で、海岸へと移動した。

海岸

拓也

「俺の名は甲斐 拓也。こっちは片霧 大作と鷹取 舞。そして、俺たちの後輩の鮎川 蘭だ。俺たちはコスモアカデミアのスタッフだ」

響

「コスモアカデミア？」

奏

「もしかして、地球環境の保護が仕事ですか？」

大作

「一応、表向きはな」

響

「表向きは？」

拓也

「実際は地球上に生きる全ての生命を脅かす悪と戦っているんだ」

蘭

「私はこの日本だけど、先輩たちは普段、世界各地にいるのよ」

(鷹取) 舞

「今回は2人も重傷者を出したから、帰国してるわけ」

重傷者とは、甲平と健吾のことだ。

奏

「重傷者って、誰か負傷したんですか？」

蘭

「私の仲間が重傷を負ったのよ」

拓也

「俺たちはこのくらいかな」

響

「それじゃあ、次は私たちだね。私の名は北条 響、こっちは南野 奏。私たちは私立アリア学園中学校の2年生・・・」

ハミイ

「響、奏、音符を見つけたニヤ！」

(鷹取) 舞・蘭

「猫が喋った!？」

ハミイ

「ハミイですニヤ、怪しい者じゃないニヤ」

拓也・大作

「(怪しすぎるだろ)」

響

「それで、音符はどこ？」

ハミィ

「あそこニヤ」

ハミィが差した方をみると、子ども達が作ってる砂山に音符があるではないか。

しかし……。

セイレーン

「音符は渡さん」

音符を回収しようとするハミィの前にセイレーンとトリオ・ザ・マイナーが現れたが、無視していった。

セイレーン

「こらー、無視するなー」

ハミィ

「音符は渡さないニヤ」

セイレーン

「おのれ、出でよ、ネガトーン！」

セイレーンが音波を放つと、音符はネガトーンに変わって暴れ始めたではないか。ネガトーンが音波を放つと、周りの人々が不幸や悲しみに陥っていた。

拓也

「怪物か？」

大作

「周りの人たちがどんどん、不幸や悲しみに陥ってるぜ」

響

「ネガトーンを使って」

奏

「不幸や悲しみを広げるなんて」

響・奏

「絶対に許せない！」

フェアリートーンが現れ、ドリーとレリーが響と奏のキュアマージュ
ーレにセットされた。

響・奏

「レッツプレイ！プリキュアマージュレーション！」

髪の色が変わり、響はキュアメロディ、奏はキュアリズムへと変身
した。

メロディ

「つまびくは荒ぶる調べ！キュアメロディ！」

リズム

「つまびくはたおやかな調べ！キュアリズム！」

メロディ・リズム

「とどけ、2人の組曲！ スイートプリキュア！」

拓也

「君たちがこのプリキュアだったのか。俺たちもいくぞ」

大作

「おう」

拓也、大作、（鷹取）舞はビーコマンダー、蘭はコマンドボイサー、他のプリキュアたちもそれぞれの変身アイテムを取り出す。

拓也・大作・（鷹取）舞

「重甲！」

蘭

「超重甲！」

なぎさ・ほのか

「デュアル・オーロラ・ウェイブ！」

ひかり

「ルミナス・シャイニング・ストリーム！」

咲・（美翔）舞

「デュアル・スピリチュアル・パワー！」

のぞみ・りん・うらら・こまち・かれん
「プリキュア・メタモルフォーゼ！」

くるみ

「スカイローズ・トランススレイト！」

ラブ・美希・祈里・せつな

「チェインジ・プリキュア・ビートアップ！」

つぼみ・えりか・いつき・ゆり

「プリキュア！ オープン・マイ・ハート！」

それぞれが変身を遂げていく。

ブルービート

「ブルービート！」

ジースタッグ

「ジースタッグ！」

レッドル

「レッドル！」

ブルービート・ジースタッグ・レッドル

「重甲、ビーファイター！」

テントウ

「ビーファイターテントウ！」

全プリキュア

「全員集合！ プリキュアオールスターズ！」

メロディ

「私たちの他にもプリキュアがいた」

リズム

「それにビーファイターって」

セイレーン

「プリキュアがこんなにいるのか、ネガトーン！」

ネガトーンが襲いかかってきた。

テントウ

「ジャミングビーム！」

テントウのインプットカードガンからジャミングビームが発射され、ネガトーンが混乱した際に、ブルービート、ジースタッグ、レッドルはインプットマグナムとパルセイバーを合体、セイバーマグナムで迎撃した。

ブルービート

「110、インプット！ マキシムビームモード！」

青、緑、赤のビームがネガトーンを直撃した。

ドカーン！

ネガトーン

「ネガ！」

ネガトーンが倒れてしまった。その後もプリキュアたちの猛攻にあり、ネガトーンは弱ってきた。

ブルービート

「あとは任せた」

ブルービートはメロディとリズムに向けて、あとを託す。

メロディ

「いくよ、リズム！」

リズム

「ええ」

メロディはミラクルベルティエ、リズムはファンタスティックベルティエを取り出した。

メロディ

「おいで、ミラー！」

リズム

「おいで、ファリー！」

ミラクルベルティエにミラー、ファンタスティックベルティエにファリーがセットされる。

メロディ

「かけめぐれ！ トーンのリング！ プリキュア・ミュージックロンド！」

リズム

「かけめぐれ！ トーンのリング！ プリキュア・ミュージックロ

ンドー！」

メロディ、リズムの必殺技の前には、ネガトーンも浄化され、音符も無事に回収した。

セイレーン

「またしても」

セイレーン、トリオ・ザ・マイナーは撤退した。

ハミィ

「今回も音符を回収したニヤ」

いつもなら、これで一件落着と言いたいところだが、今回はそうはいかなかった。

ブルービート

「何だこの殺気は、まさか、トランプか？」

メロディ・リズム

「トランプ？」

そのまさかである。1人の男がプリキュアとビーファイターの前にやってきた。

？

「お前たちがプリキュアとビーファイターか、俺はトランプの最高司令官、ジャックだ」

ジースタッグ

「四天王とは殺気が違いすぎるぜ」

レッドル

「いよいよね」

音符を回収したのも束の間、トランプの最高司令官のジャックが現れた。果たして、プリキュアとビーファイターはジャックを相手にどう戦うのか？

第17話 スイートプリキュア、現る!!! (後書き)

今回はジャックとプリキュア、ビーファイターの戦闘だ。

第18話 最高司令官、ジャック（前書き）

ジャックの能力や技は某忍者漫画のキャラをモチーフにしてみました。

第18話 最高司令官、ジャック

加音町

ビーファイターや他のプリキュアの助けもあつたが、無事にネガトーンを浄化して音符を回収したメロディとリズムだが、今度はランプの最高司令官、ジャックがプリキュアとビーファイターの前に現れた。

ジースタッグ

「お前がランプの最高司令官」

ジャック

「まあ、そういうことだな。お前たちの実力を、見せてもらっぞ」

ブルービート

「いくぞ、ステインガーウェポン！」

ブルービートは剣型の武器、ステインガーブレードを取り出し、ジャックを迎撃した

ジャック

「ほう、剣で勝負か。おもしろい」

ブルービートはステインガーブレードを携えて切りかかるが、ジャックも剣を取り出していた。

ジャック

「なかなかやるな」

ブルービート

「どこまで余裕なんだ？」

ブルービートとジャックの剣の打ち合いは一進一退が続いた。

ジースタッグ

「俺たちも加勢するぜ」

ジースタッグとレッドルが加勢しようとするが、ジャックは冷静に分析する。

ジャック

「複写眼！」

ジャックはジースタッグとレッドル、テントウやプリキュアたちを複写眼でスキャンする。

ジースタッグ

「いくぞ」

ジースタッグが向かっていくが、ジャックがジースタッグと同じ動きで向かってくるではないか。

ジースタッグ

「こいつ、俺と同じ動きしやがる」

ジースタッグはジャックと距離を置き、セイバーマグナムで応戦した。

ジースタッグ

「マキシムビームモード！」

ジャック

「無駄だ」

ジャックは複写眼でマキシムビームを消してしまったのだ。

ルージュ

「あれは、万華鏡写輪眼!？」

ジャック

「ちょっと違うな、これは相手の動きをコピーする複写眼だ」

ブロッサム

「何ですか、それ？」

ジャック

「まあ、細かいことは気にしないことだ」

そう言いつつ、ジースタッグと互角に戦っている。だが、ジースタッグに疲れが見え始めた。

ジースタッグ

「やべえ、交代だ」

ブルービート

「仕方がない、あれを使う」

ブルービートは、赤くでかい銃を取り出した。

ジースタッグ

「ビートイングラム！」

レッドル

「一気に決着をつける気ね」

ブルービート

「メタルフォーゼ！」

そう、ブルービートはビートイングラムを持つことにより、スーパーブルービートへと超進化するのだ。

ブラック

「有り得ない」

ブルーム

「ブルービートが変化した？」

ドリーム

「その姿は？」

レッドル

「ブルービートの進化形態、スーパーブルービートよ」

ピーチ

「ブルービートの」

プロッサム

「進化形態」

メロディ

「スーパーブルービート」

ジャック

「ほう、進化形態か」

スーパーブルービート

「パルセイバー、合体」

ビートイングラムが変形して、スーパーブルービートがパルセイバーを合体させた。

スーパーブルービート

「ビートイングラム、ファイナルモード」

発射口が回転し始める。

スーパーブルービート

「スーパーファイナルブロー」

ドカーン！

ジャック

「ぐわあ」

ポン

スーパーブルービート

「何、分身だと」

レッドル

「そんな」

ジースタッグ

「それじゃ、本物はどこだ？」

ジャックは吹き飛ばされたかに思えたが、スーパーブルービートが倒したのは実は分身だった。

ジャック

「下だ」

ブロッサム

「えっ、キヤー」

マリン・サンシャイン・ムーンライト

「ブロッサム」

すると、ブロッサムの足元から、手が出てきて、ブロッサムは生き埋めにされてしまった。

ブロッサム

「何ですか、これ」

ジャック

「心中斬首だ。驚いたか？」

ジャックはいつの間にか、プリキュアたちの前に現れていた。

テントウ

「いつの間に」

ブラック・ブルーム・ドリーム・ピーチ・メロディ

「たあああ」

ブラック家族が一斉にジャックに攻撃を繰り出そうとした。

が、ジャックはそれも意に介さず、変わり身の要領で背後から突っ込んだメロディと入れ替えた。案の定、ブラック・ブルーム・ドリーム・ピーチのパンチが全て、メロディに当たってしまった。

メロディ

「痛い」

ブラック

「メロディ」

ブルーム

「ごめんなさい」

ホワイト

「（ブラックたちの攻撃を逆に利用するなんて）」

ジャック

「よく考えて攻撃しろ。だから逆に利用されるんだよ。それにお前らの攻撃はムダが多すぎるんだよ」

アクアとミントは無言で頷くと、ジャックに向かっていった。

ミント・アクア
「やあああ」

ミントとアクアの連携に、さすがのジャックも手こずっていた。

ジャック

「なかなかやるな」

ミントとアクアは一度距離をとり、両腕を交差させた。

ミント

「プリキュア・エメラルド・ソーサー！」

アクア

「プリキュア・サファイア・アロー！」

ミントとアクアの必殺技がジャックに向かっていくが、ジャックも両腕に雷のエネルギーを集めた。

ジャック

「くらえ、竜雷波！」

ジャックの放った竜の姿をした雷が2人の必殺技を破り、プリキュアとビーファイターへと向かっていった。

ミント

「そんな」

アクア

「必殺技が破られた」

そんな中、ルミナスが出てきて、バリアを張った。

ブルービート

「なんて奴だ」

ジースタッグ

「四天王とは格が違いすぎるぜ」

レッドル

「これがトランプの最高司令官の力なの」

ジャック

「今回はほんの挨拶代わりだが、次はこうはいかないぞ」

ジャックは撤退した。そんなときにようやく、ブロッサムを引き上げる。

テントウ

「カプトとクワガーが帰ってくるまで、私たちが持ちこたえられるかしら？」

レッドル

「持ちこたえなきゃ」

ジースタッグ

「ああ、あいつらは帰ってくるぜ」

ブルービート

「俺たちの後輩だからな」

トランプの最高司令官、ジャックの実力を目の当たりにして、決意を新たにするプリキュアとビーファイター。カブトとクワガーが帰ってくると思じて、トランプやヘルダーク族との戦いは続く。

第18話 最高司令官、ジャック（後書き）

次回はプリキュアとビーファイターが対決する！？

第19話 ブルービートVSピンクチーム(前書き)

今回から3回にわたって、プリキュアVSビーファイターのトレーニングマッチを繰り広げます。まずはブルービートとピンクチームです。

第19話 ブルービートルVSピンクチーム

ビートルベース

プリキュアたちが来て、こんなことを言い出した。

のぞみ

「私たちを鍛えてください」

拓也

「えっ、俺たちに君たちを鍛えて欲しいと」

かれん

「ええ」

大作

「でも、何で俺たちに頼むんだ？」

つぼみ

「トランプやヘルダーク族とも戦うには、皆さんの実力に私たちもついて行かなければならないんです」

えりか

「お願いします」

大作

「どつするっ」

(鷹取) 舞

「やってあげようよ」

蘭

「甲平と健吾がいつ復帰するか分からないこの状況では、トランプやヘルダーク族に対抗するのは、難しいです」

拓也

「分かった。でもやる以上は手加減はしない」

全員

「やった〜」

こうして、プリキュアたちは拓也たちに鍛えてもらうことになった。

拓也たちは、ビートルベースを出て、演習場に向かった。

拓也

「さて、いよいよ戦闘訓練に入るわけだが、君たちは6チームあるから、チームごとにやるのかな？」

なぎさ

「いや、DX3では3チームに分かれたから、それでいかせてもらうわ」

大作

「そうになると、組み合わせはどうなるんだ？」

(鷹取) 舞

「私は蘭と組むわ」

拓也

「となると、俺と大作は1人で1チームと当たるな」

大作

「それでいこうぜ」

大作の話で拓也も了承し、改めて、プリキュアとビーファイターは対峙した。

拓也

「話が長くなってしまったね。始めるぞ」

つぼみ

「皆さん、変身です」

全員

「うん」

拓也

「俺たちも」

それぞれがプリキュアとビーファイターに変身した。

ブラック

「ブルーム、ドリーム、ピーチ、ブロッサム、メロディ、まずは私たちピンクチームが戦うわよ」

ブルーム

「ええ」

ドリーム

「そうだよ、絶対に何とかなるなる」

ピーチ

「私たちのチームワークは大丈夫」

ブロッサム

「でも、油断は禁物です。相手はビーファイターの皆さんですよ」

メロディ

「わかってるよ。相手が誰だろうと私たちは負けないよ」

一方のビーファイターはというと。

ブルービート

「まずは俺がでる。いざという時はあれを使う」

ジースタッグ

「頼むぜ、ブルービート」

レッドル

「怪我はさせないようにな」

ブルービート

「分かってる」

こうして、一回戦はピンクチームのプリキュアとブルービートの戦いとなった。

ブラック

「いきなりブルービートね」

ブルービート

「悪いが、手加減はしないぞ」

ドリーム

「のぞむところだよ」

ブラック

「全員でかかるよ」

ブルービート

「来い」

ピンクチームが向かってくるが、ブルービートは冷静に対応し、インプットマグナムを構える。

ブルービート

「ビームモード！」

ブルーム

「はあ！」

ブルービートのビームはブルームの精霊のバリアによって防がれた。

ブルーム

「みんな、大丈夫！？」

ブラック

「ありがとう」

メロディ

「助かった」

ブルービート

「バリアによる防御か、ならば、ステインガーブレード！」

ブルービートは今度はバリアを破るべく、ステインガーブレードを構え、向かっていく。

ドリーム

「来るよ」

ピーチ

「しかも剣だよ」

ブルービート

「ビートルブレイク！」

ステインガーブレードがバリアを直撃するが、破れなかった。

ブルービート

「ビートルブレイクでは破れないようだ。ならば」

ブルービートはブレードの刃を外し、アタッチメントを装着した。

ブルービート

「ステインガードリル！」

ブロッサム

「今度はドリルです」

ブルービート

「ストライクブラスト！」

ブルービートがステインガードリルをブルームのバリアに当たると、ひびが入り始めた。

ブルーム

「流石に限界みたい」

ブラック

「バリアが破れたら、いくよ」

ブルーム・ドリム・ピーチ・ブロッサム・メロディ

「うん」

ドカーン！

バリアが破れ、爆風が吹き荒れた。すると、ブラック、ブルーム、ピーチ、ブロッサム、メロディが向かってきたのだった。

ブルービート

「こうなったら、これしかないな。ビートイングラム！」

ブルービートはビートイングラムを取り出し、発砲した。

ドカーン！

ブラック・ブルーム・ドリーム・ピーチ・ブロッサム・メロディ
「キヤー！」

ビートイングラムの一撃を受け、吹き飛ばされた。だが、それでも立ち上がるのがプリキユアだ。

ブロッサム

「流石にやりますね。ならば、私も奥の手を使わせて頂きます」

ブロッサムは赤いこころの種を取り出すと、ココロパフュームにセツトし、自分に吹きかけたのだ。

ブロッサム

「レッドの光の聖なるパフューム、シュシュツと気分でスピードアップ！」

すると、ブロッサムは目にも留まらぬ速さでブルービートに向かっていった。

ブルービート

「速い。ビートイングラム！」

ブルービートがビートイングラムを発砲するが、外した。

ブルービート

「動きが速すぎる。これじゃあ捉えきれない」

ブロッサム

「ブロッサム・スクリューパンチ！」

ブロッサムスクリューパンチがブルービートを襲うも、必死にガードする。

ブルービート

「なかなかやるな」

しかし、暫くすると、ブロッサムが目を回してしまった。

ブロッサム

「目が回ります」

ブルービート

「今だ」

ドカッ！

ブルービートが蹴りがブロッサムに当たり、弾き飛ばされた。

ブロッサム

「キャー！」

ブロッサムはメロディにキャッチされた。

ドリーム

「プリキュア・シューティングスター！」

ブルービート

「メタルフォーゼ！」

ドリームのシューティングスターに対して、ブルービートがスーパー

ーブルービートにメタルフォーゼで対抗した。

スーパーブルービート

「パルセイバー、合体！」

ビートイングラムが変形し、パルセイバーをセットする。

スーパーブルービート

「ビートイングラム、ファイナルモード！」

標的をドリームに定めた。

スーパーブルービート

「スーパーファイナルブロー！」

ドカーン！

ドリームのシューティングスターとスーパーブルービートのスーパーファイナルブローが激突、大爆発を起こした。

ドリーム

「うわぁ！」

吹き飛ばされたのは、ドリームだったが、ピーチにキャッチされて、無事だった。

ブラック

「ありえない！」

ブルーム

「これが、ブルービート!？」

ピーチ

「流石に一筋縄ではいかないね」

メロディ

「心が折れそうだよ」

スーパーブルービート

「今回はこれまでにしておこう。君たちなら、簡単にトランプや悪魔族には屈さないだろう」

ブラック

「ブルービートもね」

ブルーム

「そう言われると、自信になるわ」

スーパーブルービートとピンクチームが握手を交わす。

スーパーブルービート

「ドリーム、ブロッサム、すまないな」

ドリーム

「謝ることないよ」

ブロッサム

「そうですよ」

かくして、1回戦はブルービートの圧倒的な実力の前に、ピンクチ

ムは完敗を喫した。

第19話 ブルービートVSピンクチーム(後書き)

今回はジースタッグとブルーチームの対決です。

第20話 ジースタッグVSブルーチーム(前書き)

今回はジースタッグとブルーチームの戦いです。

第20話 ジースタッグVSブルーチーム

ジースタッグ

「どうだった、向こうのチームワークは？」

ブルービート

「ジースタッグに似てたな」

レッドル

「確かに真っ先に突っ込むのは、ジースタッグそっくりね」

ジースタッグ

「次は俺の番だな」

テントウ

「頑張つて」

ジースタッグ

「ああ」

一方、プリキュアは・・・。

ブラック

「いやあ、流石はブルービートだわ」

ホワイト

「でも、ブラックたちも負けてなかったわ」

ブルーム

「流石にビーファイターのリーダーをやってるだけのことはあるよ」

イーグレット

「次は私たちね」

マリリン

「よし、ブロッサムたちの仇をとるっしゅ」

こうして、2回戦はジースタッグとブルーチームの対決になった。

ホワイト

「相手はジースタッグね」

ジースタッグ

「お前らはどどういうチームなんだ？」

イーグレット

「私達は頭脳戦主体のチームなんです」

ジースタッグ

「その割には、チビが目立つな」

ジースタッグにチビ呼ばわりされ、マリリンがキレだした。言い忘れていたが、マリリンにチビは禁句である。

マリリン

「ムカッ、チビっていうなあッ」

マリリンが怒って、ジースタッグに向かっていく。

ベリー

「マリリン、待って」

ベリーが止めようとしたが、時すでに遅し。ジースタッグがインプットマグナムを持って待ち構えていた。

ジースタッグ

「ビームモード！」

ドカーン！

マリリンに当たったかに見えたが、イーグレットが咄嗟にバリアを張り、マリリンを守ったのだ。

イーグレット

「マリリン、落ち着いて。相手のペースに乗せられたらおしまいよ」

その間にアクアとミントが無言で頷き、ジースタッグに向かっていく。

アクア

「プリキュア・サファイア・アロー！」

ジースタッグはインプットマグナムを一旦収め、パルセイバーで迎撃した。

ジースタッグ

「パルスラッシュ！」

すると、サファイア・アローが切り裂かれた。

アクア

「嘘!？」

ジースタッグは再び、インプットマグナムを出して、パルセイバーと合体、セイバーマグナムを構えた。

ジースタッグ

「マキシムビームモード!」

緑色のビームがアクアに襲いかかるが。

ミント

「プリキュア・エメラルド・ソーサー!」

ドカーン!

ミントが咄嗟に防御したため、アクアには当たらなかった。

ホワイト

「みんな、冷静になって、作戦を立て直すわよ」

ブルーチームのメンバーが集結して、作戦を立て直していた。ジースタッグのペースに乗せられたせいで、当初の作戦がことごとく狂ってしまったのだ。

マリリン

「それって、殆ど私のせいって、言いたいわけ?」

あんたがチビと言われて、反応するからだろ。

ジースタッグ

「あいつら、作戦をたてるのは上手いが、先頭に立って、動くのは苦手だな。実戦なら、敵は待ってくれねえよ」

そういつて、ジースタッグはいつの間にか持ち込んだのか、ダイナマイトを投げ込む。

ホワイト

「あれは、ダイナマイト！」

リズム

「爆弾！？」

ベリー

「みんな、離れて！」

ブルーチームが全員、急いで離れるが、ジースタッグが手元のスイッチを押すと、ダイナマイトが爆発した。

ピーッ！

ドカーン！

爆風が収まって、ブルーチームのみんなを見ると、急いで離れたのが効を奏したのか、無事だった。

マリリン

「もう、ダイナマイトなんて反則よ」

ジースタッグ

「バカやろう、ブルービートが手加減はしないと云ってただろ。俺たちはそのつもりでやってるんだ」

マリリン

「それって、私たちがバカだって言いたいの？」

ジースタッグ

「他に誰がいるんだよ」

ホワイト

「それは聞き捨てならないわ」

イーグレット

「私たちのチームワーク、見せてあげる」

ジースタッグ

「なら、全力でこい。ステインガーウエポン！」

ジースタッグはステインガークロウを構えだした。

すると、ミント、アクア、ベリー、マリリンの4人が必殺技の構えに入っていた。

ミント

「プリキュア・エメラルド・ソーサー！」

アクア

「プリキュア・サファイア・アロー！」

ベリー

「プリキュア・エスパワールシャワー！」

マリン

「マリンシュート！」

4人の必殺技がジースタッグに襲いかかる。

ジースタッグ

「こいつはやばいな」

ジースタッグは咄嗟にかわすが、今度はホワイトとイーグレットが肉弾戦に持ち込んできた。

ジースタッグ

「なかなかやるな！」

ホワイト

「私たちも負けたくない」

ジースタッグもガードしているが、ホワイトのパンチとイーグレットのキックもなかなかのものだった。

ホワイト

「そろそろね」

イーグレット

「ええ」

ホワイトとイーグレットが離れたので、ジースタッグは何事かと思っただら、リズムが上から迫ってきたのだ。

ジースタッグ

「何、上から!？」

リズム

「はあ！」

リズムのキックがジースタッグに当たった、筈だった。

リズム

「えっ」

ジースタッグ

「なんてな」

そう、ジースタッグはステインガークローでリズムを捕獲したのだ。更に、振り回したので、リズムは目を回された。

ジースタッグ

「おりゃあ」

リズムは投げられた。その周りに全員が集まった。

ジースタッグ

「とどめだ。レイジングスラッシュ！」

イーグレット

「来るわ！」

イーグレットがバリアを張るが、レイジングスラッシュがバリアごと破ってしまった。

全員

「キヤー！」

ブルーチームは全員、吹き飛ばされた。

ジースタッグ

「お前ら、作戦立てるのは上手いが、自分から動くのは苦手だな」

ホワイト

「いつもはブラックたちがやってるから」

ジースタッグ

「今回は俺の勝ちだ。お前らはもっと強くなれるぞ」

マリン

「あつたり前だよ」

ジースタッグ

「お前はもつと背を伸ばせ。目立ちすぎる」

マリン

「うるさい！」

最後までこの調子だが、2回戦はジースタッグの勝利に終わった。これからも頼むぞ。プリキュアとビーファイター！。

第20話 ジースタッグVSブルーチーム(後書き)

次回はレッドル、テントウとイエローチームの戦いです。

第21話 レッドル・テントウVSイエローチーム(前書き)

今回はレッドル・テントウとイエローチームの戦いです。

第21話 レッドル・テントウVスイエローチーム

レッドル

「へえ〜。相手のペースを崩すってね。ジースタッグもたまには考えるんだね」

ジースタッグ

「悪かったな」

ブルービート

「けど、頭脳戦主体のチームを相手に勝ったのは大きい。それに向こうも俺たちと戦えたことで自信がつくはずだ」

レッドル

「最後は私たちね。テントウ、行くよ」

テントウ

「はい」

一方、プリキュア

ブロッサム

「マリン、散々言われたようですね」

マリン

「そうなのよ、何で私ばかり言われるのよ」

そりゃ、頭に来ることも言われただろうけど、全てはジースタッグ
なりの配慮と思う。

ムーンライト

「とにかく、言われたことは真摯に受け止めなさい。最後は私たち
の番だから」

ルミナス

「そうですね。皆さん、行きましょう」

こうして、イエローチームのメンバーが出撃する。

最終戦はレッドル、テントウとイエローチームの戦いになった。

レッドル

「私たちの相手はあなたたちね」

パイン

「宜しく願います」

テントウ

「意外とここが厄介かもね。特に金色の子と銀色の子」

そう、イエローチームの中でも、サンシャインとムーンライトは一
番手ごわいのだ。

レッドル

「行くわよ、スティンガープラスマー！」

テントウ

「フィニッシュウエポン！」

レッドルはステインガープラズマー、テントウはテントウスピアアを出し、突撃する。狙いは……。

サンシャイン

「サンフラワー・イーゼス！」

ムーンライト

「はっ！」

サンシャインとムーンライトだった。

レッドルとテントウの作戦は、イエローチームのプリキュアの中でも、実力が高いサンシャイン、ムーンライトを狙いを絞り、戦闘不能にするものだ。

レッドル

「やるわね。この守りは崩すのに手こずりそうね」

サンシャイン

「そちらこそ」

レッドルがサンシャインに気を取られる間に、レモネードが攻めてきた。

レモネード

「プリキュア・プリズム・チェーン！」

レモネードの光の鎖がレッドルを捕らえた。

レッドル

「うわっ」

ルージュ

「でかした、レモネード」

レッドルが捕らわれたのを確認すると、ルージュが必殺技に入った。

ルージュ

「プリキュア・ファイヤー・ストライク！」

ドカーン！

ルージュの火球がレッドルを直撃。

レッドル

「（サンシャインもそうだけど、この子たちは意外とやるわね）」

その頃、ムーンライトと一騎打ちに望んでいたテントウも苦戦していた。

テントウ

「くっ、やはり一筋縄じゃいかないようね。プリキュアの中でも、実力が違いすぎる」

ムーンライト

「私とサンシャインに狙いを絞って、戦闘不能にしようと考えてた
ようだけど、詰めが甘いわ」

そう、イエローチームはサンシャインとムーンライトだけではない
のだ。

テントウはムーンライトに集中していたために、上空にパインとパ
ツションがいることに気づかなかったのだ。

パイン・パツション

「ダブル・プリキュア・キック！」

ドガッ！

テントウ

「うわっ」

レッドルとテントウ、イエローチームは一カ所に集結した。

レッドル

「まいったね」

テントウ

「狙いを絞ったのが裏目に出たわ」

ルミナス

「ルミナス・ハーティエル・アンクション！」

ルミナスのハーティエル・アンクションで、レッドルとテントウの
動きが封じられた。

レッドル

「体が」

テントウ

「動かない」

ローズ

「邪悪な力を包み込む、バラの吹雪を咲かせましょう。ミルキイローズ・ブリザード！」

ローズの必殺技、ミルキイローズ・ブリザードによって、レッドルとテントウは青いバラに包まれた。

レッドル・テントウ

「キヤー！」

技の浄化作用で、レッドルの重甲とテントウの超重甲が解除された。

舞

「なかなかやるわね」

蘭

「このチームが一番強いわ。得意分野に優れてる子が多いから」

医務室

ゆいが看病を続けてるものの、甲平と健吾の意識はまだ戻ってなか

った。

ゆい

「お兄ちゃん、健吾さん」

その時、甲平と健吾が目を開け、体を起こしたのだ。

甲平

「ゆい」

健吾

「ゆいちゃん」

ゆい

「お兄ちゃん、健吾さん、大丈夫なの？」

甲平

「ゆい、心配かけてごめんな」

健吾

「俺達はもう大丈夫だ」

甲平、健吾、ゆいは指令室へ向かった。

指令室

小山内博士は訓練の様子をモニターで見っていた。そこへ甲平、健吾、ゆいが入ってきた。

甲平

「博士！」

博士

「甲平、健吾、もう大丈夫なのか？」

健吾

「心配かけて申し訳ありません。俺達はもう大丈夫です」

この報告を聞き、博士は受話器を取ると、蘭に連絡を取った。

博士

「みんな」

演習場

トレーニングマッチを終え、全員が出てきた。

蘭

「えっ、甲平と健吾が！？ 分かりました。すぐに戻ります」

舞

「何て言ってきたの？」

蘭

「甲平と健吾が復活したって」

大作

「坊主と健吾が!?!」

拓也

「とにかく、戻ろう。プリキュアのみんなもついてきてくれ」

こうして、プリキュアと拓也たちはビートルベースに戻った。

ビートルベース

拓也たちが戻ってくると、甲平と健吾、博士、ゆいが待っていた。

蘭

「甲平、健吾」

甲平

「蘭、先輩」

大作

「よく復活したな」

健吾

「これも、みんなのおかげです」

舞

「でも無理は禁物よ。回復したばかりだから」

拓也

「甲平、健吾、蘭、そしてプリキュアのみんな。日本は君たちに託す。頼んだぞ」

甲平・健吾・蘭

「はい」

なぎさ

「任せなさい」

咲

「トランプやヘルダーク族の思い通りには絶対にさせないんだから」

のぞみ

「私たちは希望を捨てないもん」

ラブ

「みんなの幸せを守るために」

つぼみ

「私たちは諦めません」

響

「ここで頑張んなきゃ、女がすたる」

拓也

「危なくなったら、俺達も助けに来る。みんな、頼んだぞ」

全員

「おっ」

最終戦はチームワークに優れたイエローチームの勝利に終わった。
更に甲平と健吾も復活し、戦力は回復した。
決意を新たに、プリキュアとビーファイターの戦いは続く。

第21話 レッドル・テントウVSイエローチーム(後書き)

次回もお楽しみに。

第22話 激突！！ クワガーVS四天王 前編（前書き）

クワガーが四天王のクラブ、ダイヤと一騎打ち。

第22話 激突！！ クワガーVS四天王 前編

トランプ 要塞

キングが四天王の4人を呼び出し、怒りを露わにしていた。

キング

「貴様らが無能なせいで、プリキュアとビーファイターに連敗を重ねるばかりだ。なんとかヘルダーク族の加勢で互角となってるが、貴様らも結果を出さねば、明日はない。それを忘れるな」

再生幹部の登場、ヘルダーク族の台頭もあり、四天王は事実上、追いつめられていた。

クラブ

「今回が最後のチャンスだな。これで失敗すれば、俺たちにもうあとはない」

ハート

「こんなはずじゃなかったのに」

ダイヤ

「せっかく四天王の座に上り詰めたのに」

スピード

「こうなったら、プリキュアとビーファイターを倒し、キングを見返してやる」

ダイヤ

「でも、どうするの？」

スピード

「とにかく、奴らとの決着をつける。いくぞ」

四天王はプリキュアとビーファイターとの戦いに出撃した。

ビートルベース

甲平、蘭、博士は帰宅しており、健吾は宿直の為に残っていた。

健吾

「トランプにヘルダーク族、これらの攻勢はこれから更に強まる。今のうちになんとかしなければ、こないだみたいに倒れて、蘭や博士、先輩たちやプリキュアのみんなに心配かけてしまうな」

そこへ、どこからかカードが飛んできた。

健吾

「これは」

健吾がカードを手にとると、こう書かれていた。

「もはや、我々に猶予はない。決着をつけるときがついに来たのだ。プリキュアとビーファイターよ、待っているぞ」

すると、カードが光り出し、消えたときには、カードも健吾の姿も消えていた。

異空間

気づいた時には、健吾はここにいた。

健吾

「ここは？」

クラブ

「ようこそ、我々のバトルエリアへ」

四天王がやってきた。

ハート

「ちょっと、来たのは1人だけじゃない」

スピード

「いや、こいつもビーファイターでかなりの切れ者だ。今のうちに始末しておけば、あとはどうにでもなる」

ダイヤ

「つまり、切れ者は早めに叩いておくと」

スピード

「そういうことだ。話が長くなったが、決着をつけようか、ビーファイター！」

健吾

「望むところだ」

健吾はコマンドボイサーを取り出した。

健吾

「超重甲！」

健吾はクワガーへと超重甲した。

クラブ

「まずは四天王の一番手、クラブが相手だ」

スピード

「我々は下がるか」

スピード、ハート、ダイヤが下がった。同時にクラブが右腕を剣に、左腕を銃に変形させ、クワガーに襲いかかった。

クワガー

「サイボーグか」

クラブ

「ご名答。俺は全身を変形させることができるサイボーグだ」

クワガー

「ならば、フィニッシュウエポン！」

クワガーもフィニッシュウエポン、クワガーチョッパーで迎撃する。

クラブの銃撃をかわし、剣にはクワガーチョッパーで対応する。

だが……。

クラブ

「くっええ！」

ドカーン！

クワガー

「うわっ」

クラブの剣をクワガーチョッパーで受けた隙を突かれて銃撃されてしまい、大きく飛ばされた。

クワガー

「（どうする、このままではますます埒があかない。せめて、奴を引きつけねば）」

クワガーがこう考えていると、一か八かの策を思いついた。

クワガー

「（これしかない）」

クワガーはクワガーチョッパーをクラブに投げつけた。

クラブ

「子供だましか」

クラブは銃撃でクワガーチョッパーを叩き落としたが、それがクワガーの狙いだった。

クワガー

「今だ。アタックビーム！」

ドカーン！

クラブ

「ぐわっ」

クワガーが素早く、インプットカードガンで反撃した。

クラブ

「貴様、最初からこれを狙ってたのか？」

クワガー

「遠近両方に長けてるなら、隙を突くにはこれしかない」

クワガーの作戦とは、クワガーチョッパーを匣にクラブの注意を引きつけ、その隙について、インプットカードガンで反撃するものだった。

クワガー

「クラブ、覚悟！」

クワガーがクワガーチョッパーを拾い上げ、クラブに向かっていく。

クワガー

「グラビディクラッシュ！」

クラブ

「ぐわあ！」

ドカーン！

クワガーの必殺技、グラビディクラッシュが炸裂し、クラブは倒れ、大爆発した。そして、あとに残されたのは、クラブの2〜10のカードだった。

クワガー

「これはクラブの2〜10のカード。まさか、トランプの幹部の正体はカードなのか？」

クワガーが思案してるところへ、クリスタルがミサイルのように飛んできた。

ドカーン！

クワガー

「うわっ」

クワガーが大きく飛ばされた。そう、四天王の二番手の刺客、ダイヤが現れたのだ。

ダイヤ

「ご名答、私たちの正体に気づいたのね。知られたからにはますます生かして帰さないわ」

ダイヤは体をダイヤモンドのように固体化した。

ダイヤ

「私の体はダイヤモンドよりも硬い。あらゆる攻撃も決して通さない、絶対防御を誇る、鉄壁の盾よ」

クワガー

「クラブがサイボーグなら、ダイヤは最強の盾か。正直、こっちのほうがかなりやばい」

ダイヤ

「はっ」

ダイヤが右腕を振り上げて、襲いかかった。クワガーはこれかわすが、地面にかなりの亀裂を残した。

クワガー

「地面に亀裂が」

ダイヤ

「私の攻撃、いつまでかわせるかしら？」

クワガー

「いつまでもかわすつもりはない。アタックビーム！」

だが、アタックビームを撃っても、固体化したダイヤには弾かれてしまった。

クワガー

「アタックビームじゃダメか」

ダイヤ

「いったはずよ。私の体は鉄壁の盾と」

クワガー

「ならば、これはどうだ。ファイヤービーム！」

クワガーはインプットカードガンのカードを交換し、ファイヤービームを撃った。

ダイヤ

「うわっ」

ファイヤービームは有効のようだ。固体化したダイヤに命中し、燃えだした。

クワガー

「よし、効いてる。このまま集中砲火だ」

クワガーはファイヤービームを連射し、ダイヤに集中砲火を浴びせた。

ダイヤ

「おのれ、ビーファイター！」

高熱のファイヤービームなので、いくら固体化した体でも限界があり、燃え上がるのだ。

ダイヤ

「うわああああ」

ダイヤは断末魔の悲鳴と共に炎上した。

クワガー

「固体化したことが仇になったな」

そして、あとに残ったダイヤの2と10のカードも回収した。

クワガー

「残りはハートとスペードか。ここから脱出するには、負けられない」

四天王のうち、2人も倒したクワガー。死闘は後編へ続く。

第22話 激突！！ クワガーVS四天王 前編（後書き）

ハート、スピードとは、後編で決着。

第23話 激突！！ クワガーVS四天王 後編（前書き）

四天王との戦いに決着が付きませす。

第23話 激突！！ クワガーVS四天王 後編

四天王の作戦により、異空間へ飛ばされたクワガーは四天王と1人ずつ、一騎打ちを挑まれる。苦しい戦いの末、クラブとダイヤを撃破し、残りはハートとスペードだけとなっていた。

ハート

「まさか、2人を撃破するなんてね」

クワガー

「早速、現れたか」

四天王の三番手の刺客は、ハート。

クワガーがインプットカードガンで先制攻撃に出ようとしたが、ハートが右腕を翳すと、重力がかかり、クワガーが押しつぶされようとした。

クワガー

「か、体が押しつぶされる」

ハート

「私は重力を自在に操る。いかなる相手も重力には逆らえない」

これではネオインセクトアーマーとさえいって、耐えきれぬものではない。各所に火花がとぶ。

クワガー

「うわっ」

ビートルベース

健吾が行方不明になり、大騒ぎになっていた。

甲平

「だめだ、健吾の奴、どこにもいないぜ」

蘭

「出入りしそうなところはくまなく探したけど、いないわ。もう帰ったのかな？」

博士

「いや、健吾の自宅に電話したんだが、留守番になってたから、自宅には帰ってないようだ」

そこへ、李がやってきた。

李

「みんな、久しぶり！」

甲平・蘭

「李！」

李

「あれ、健吾は？」

博士

「実は……」

博士は健吾が行方不明になっていることを李に話すと、李も驚愕した。

李

「つまり、健吾は姿を消していて、みんなを探してると」

甲平

「そっなんだけど、どこにもいないぜ」

蘭

「ビット、健吾のコマンドボイサーの反応は？」

ビット

「それが、全然感知しないんだよ」

李

「もしかしたら、健吾は敵に拉致されたのかもしれない」

博士

「そうだとすると、一刻も早く救出しなければ、危険だ」

甲平

「けど、どこに拉致されたか分かんねえんじや、探しようがないぜ」

博士

「とにかく、出勤してくれ」

甲平、蘭、李は出勤した。

異空間

クワガーはハートの重力に苦戦し、なかなか立ち上がらずにいた。

クワガー

「（ネオインセクトアーマーも、かなりのダメージを受けている。もう、限界が近い）」

ハート

「どうやら、おしまいね」

クワガー

「まだまだ、まだ終わってはいないぞ。決して諦めない限り、俺は戦い続ける。それが、ビーファイターだ」

クワガーはインプットカードガンを取り出し、発砲した。

クワガー

「アタックビーム！」

ドカーン！

ハート

「うわぁ！」

ハートが怯んだため、重力が元に戻った。

ハート

「くっ、どこにそんな力が!？」

クワガー

「フィニッシュウエポン！」

クワガーはクワガーチョッパーを構え、ハートに向かっていった。

ハート

「私をなめるな！」

ハートは棘の鞭を取り出すと、クワガーに向けて叩いてきたが、クワガーチョッパーでガードしたため、鞭は巻きつき、クワガーチョッパーは放り投げられてしまった。だが、これこそがクワガーの狙いだった。素早く、インプットカードガンを取り出した。

クワガー

「今だ。アタックビーム！」

ドカーン！

ハート

「うわぁ！」

クワガーの頭脳プレイにハートが怯んだ。その上、棘の鞭も飛ばされた。

ハート

「おのれ、ビーファイター！」

その隙にクワガーチョッパーを回収し、今度こそ向かっていく。

クワガー

「グラビティクラッシュ！」

ハート

「きゃあああ！」

ドカーン！

ハートは断末魔の悲鳴をあげながら倒れ、大爆発した。あとに残されたのは、ハートの2と10のカードだが、無事に回収した。

クワガー

「これで3人が倒れた。残るは……」

「俺だろ！」

そう、四天王の最後の刺客、スペードが現れた。

スペード

「ハートにさんざん、絞られたようだが、まさかここまでくるとはな、褒めてやるよ」

クワガー

「いよいよ最後か。もう一步も引けないな」

スペード

「それは俺とて同じこと。四天王が3人も倒されたとなつては、黙っちゃいないぞ」

クワガー

「スピード、決着をつけよう」

スピード

「望むところだ」

スピードは自身のソードを、クワガーはクワガーチョッパーを構え、一騎打ちになった。

クワガー

「はっ！」

スピード

「てやっ！」

キン！

カン！

金属音が響き渡る。クワガーとスピードの一騎打ちは互いに一歩も譲らない、激しいものだ。

同じ頃

甲平、蘭、李の3人は街へ出て、健吾の搜索に当たってるが、一向に進展が見られないままだった。

甲平
「いたか？」

蘭
「だめ、どこにもいないわ」

李
「こつちもね」

甲平
「くそ、いったいどうなってんだよ」

蘭
「これだけ捜していないってことは」

李
「やはり、拉致されたと考えるしかないね」

甲平
「どこに拉致されたか分かれば」

？
「あれ、甲平さんと蘭さん」

そこへ、のぞみたちが現れた。どうやら彼女たちは街へ遊びに来ていたようだ。

甲平
「お前たち」

のぞみ

「どうしたんですか？」

りん

「それに、その方は？」

李

「君たちは初めましてだね。私は李 リー・ウエン 文、中国で学校の先生やってるよ」

こまち

「もしかして、あなたもビーファイターなんですか？」

李

「その通り、またの名をビーファイターミンだよ」

うらら

「そうだったんですか」

かれん

「それより、皆さんはどうしたんですか？」

甲平

「実は、健吾が行方不明になっちまったから、捜してんだよ」

くるみ

「行方不明？」

蘭

「ええ、ビートルベースから突然いなくなってるね」

李

「博士の話では、健吾の家に電話かけても留守電になってたから、家に帰ってないらしいよ」

のぞみ

「それなら、いい方法がありますよ」

甲平・蘭・李

「？」

異空間

クワガーとスピードの一騎打ちが、依然として続いていたが、さすがに長く続けば、両者とも息が上がっていた。特にクワガーは四天王3人との連戦が続いたため、疲労やダメージは極限に達そうとしていた。

スピード

「あいつらに散々やられたようだが、これで終わりだ！」

スピードがソードを携えて、突撃してきたが、クワガーも気力を振り絞って立ち上がり、クワガーチョッパーを構えた。

スピード

「ブラッド・ブレイク！」

クワガー

「グラビティクラッシュ！」

両者の必殺技が炸裂したが、クワガーのグラビティクラッシュが、ブラッド・ブレイクを破り、スペードを直撃した。

スペード

「ぐわあああ！」

スペードは断末魔の悲鳴を上げながら倒れ、大爆発した。

ドカーン！

スペードを倒したのを見届けると、超重甲が限界にきた為、解除された。健吾はあとに残された、スペードの2〜10のカードも無事に回収した。

健吾

「これで、四天王を全員、倒したぞ」

しかし、疲労が極限を越えたため、倒れてしまった。同時に健吾の姿は、異空間から消えた。

ナッツハウス

甲平、蘭、李はのぞみたちの案内でナッツハウスに来ていた。

甲平

「それで、いい方法ってのは？」

「メ〜」

甲平

「メ〜！？ 羊か！？」

シロー

「違う、こいつはメルポ。俺の相棒だ」

のぞみ

「皆さんが手紙を書いて、メルポに出すんです」

ドサツ！

そのとき、外で何かの音がした。

ココ

「何の音だ？」

甲平

「ココにいるよ」

甲平、蘭、李が外にでると、目にしたのは、倒れたまま異空間から消えたはずの健吾の姿だった。

蘭

「健吾」

李

「大丈夫あるか」

健吾は甲平と李に抱えられ、ナッツハウスに運ばれた。

のぞみ

「健吾さん」

くるみ

「どうしたのよ？」

蘭

「よくわからないのよ。外にでたら、倒れてたから」

李

「今はそっとしておくね。健吾が何もいわない限り、私達にはわからないよ」

健吾の活躍で、四天王は撃破した。

だが、トランプとヘルダーク族、再生幹部たちとの戦いは続く。

第23話 激突！！ クワガーVS四天王 後編（後書き）

次回は甲平とソフィーが加音町にやってきて、スイート組と出会います。

第24話 甲平とソフィーのデート(前書き)

いよいよ、キユアブートの登場です。

第24話 甲平とソフィーのデート

トランプ 要塞

前々回、前回と四天王がクワガーに全滅させられたことを受け、キングは怒りに震えていた。

キング

「四天王が全員、1人のビーファイターに倒されるとは。こうなればわしが自ら出向き、奴らを叩き潰してくれようぞ」

ジョーカー

「お待ちください。キング様はトランプの首領たるお方。軽々しく出陣なさってはなりません！」

エース

「ここは俺の出番だぜ」

現れたのは、エース。

キング

「よかるう、今回はエースに任せる」

エース

「はっ」

エースは出撃した。

加音町

甲平とソフィーはデートしていた。

甲平

「ちょっと待て、なんでソフィーがいつのまにか俺の彼女になっただよ」

ソフィー

「私は甲平と2人きりになれて嬉しい」

うるさいよ、甲平。本編じゃ、ソフィーが来たときはいつも、一緒が多かったじゃないか。

甲平

「いや、それは」

ソフィー

「それにしても日本に音楽がこんなに溢れてる町があったなんて」

甲平

「そうだな」

同じ頃

トリオ・ザ・マイナーが動き始めていた。

?
「今回は誰がリーダーだ？」

緑色の髪の男が呟く。

?
「セイレーンがプリキュアになって以来、奴らも強くなってきている」

水色の髪の男が呟く。

?
「でも、音符はこっちが多いから、まだまだ分があるよ」

ピンク色の髪の男が呟く。

?
「だったら、もっと仕事を楽にしてやるうか？」

?
「誰だ」

トランプの1人、エースが現れた。

エース

「初めまして、マイナーランドのトリオ・ザ・マイナーの皆さん、俺はトランプの幹部、エースだ」

?
「トリオ・ザ・マイナーの1人、バストラだ」

？

「同じく、バリトン」

？

「同じく、ファルセット」

バスドラ・バリトン・ファルセット

「我ら、トリオ・ザ・マイナー」

エース

「我々は同盟関係にある。協力しようじゃないか」

バスドラ・バリトン・ファルセット

「りょうくかい〜！」

その頃、響と奏は、黒っぽい髪の少女とハミイと共に音符集めに走っている。実はこの黒っぽい髪の少女こそ、セイレーンなのだ。以前はマイナーランドの手先としてプリキュアやビーファイターと敵対していたが、ある出来事からキュアビートとして生まれ変わり、現在の姿になったが、その代償として他人や本来の姿への変身能力を失った。現在の姿は黒川 エレンと名乗っている。

響

「ねえハミイ、音符見つかるの？」

ハミイ

「見つかるニヤ」

その自信はどこから来るのやら。

そのとき、スイート組は甲平、ソフィーとすれ違った。

響

「あれ、あの人、どこかで会った気が」

奏

「そういえばそうね。でも一緒にいる女性は彼女かしら？」

エレン

「響、奏、知ってるの？」

響

「会った気はするけど、詳しくは分からないのよ」

その頃、トリオ・ザ・マイナーとエースは音符を見つけていた。

エース

「あの音符がお前たちの探し物か？」

バスドラ

「そうだ」

エース

「ただの音符だろ」

バスドラ

「ただの音符ではない。見ていろ、出よ、ネガトーン！」

バスドラの音波で音符はネガトーンに変わった。

バスドラ

「ネガトーン、悲しみの音楽を撒き散らせ」

ネガトーン

「ネガトーン！」

ネガトーンの音波により、周りの人々が悲しみに包まれていく。

その頃、甲平とソフィーはというと、コマンドボイサーがちょうど鳴っていた。

甲平

「こちら、甲平」

博士

「そっちにランプが現れた。健吾と蘭も出撃したから、甲平たちも急行してくれ」

甲平

「了解、ソフィー、行くぜ」

ソフィー

「ええ」

甲平とソフィーは急行した。

同じ頃、スイート組はというと、邪悪な音波を聞き、ネガトーンが現れたと知った。

響

「またあいつらの仕業だわ」

奏

「行きましょう」

エレン

「ええ」

スイート組も向かっていった。

現場

トリオ・ザ・マイナーとエースがネガトーンを使って、暴れさせていた。ネガトーンの音波により、音符が回収されていき、ネガトーンが大きくなる。

そこへ、甲平とソフィーが現れた。

甲平

「なんだ、あの怪物は？」

ソフィー

「ひどい、音楽を悪用するなんて」

甲平

「お前ら、絶対に許さねえ！」

エース

「だったらどうするんだ？」

甲平

「お前らを倒すまでだ」

甲平とソフィーはコマンドボイサーを取り出した。

甲平・ソフィー

「超重甲！」

甲平はカブト、ソフィーはアゲハへ超重甲した。

エース

「ほう、お前たちがビーファイターか。ならば、お前たちにはこいつらの相手をしてもらおうか」

エースは壺から、手下を召還した。

甲平

「あいつらは」

エースが召還したのは、スーパードンキーコングシリーズのラスボス、キングクルール、キャプテンクルール、バロンクルールだった。

ソフィー

「何なの、このワニみたいなの？」

甲平

「スーパードンキーコングシリーズに出て来る、キングクルール、キャプテンクルール、バロンクルール。いずれもラスボスだ」

エース

「やれ、クルールたちよ」

キングは突進、キャプテンはラッパ銃でトゲ付き鉄球を発砲、バロンは背中装置で浮遊して向かってきた。

アゲハ

「ブルームキャノン、ビームシャワー！」

カブト

「インプットライフル、カブトニックバスター！」

アゲハのブルームキャノンでキングを吹き飛ばし、カブトのインプットライフルでキャプテンのラッパ銃を直撃、爆発させた。よって、キングとキャプテンは消滅した。

エース

「なかなかやるな、だがバロンが残っているぞ」

バロンはリモコンを出してスイッチを押すと、どっから電極の仕掛けが現れて、電流を流し始めた。

ドカン！ ドカン！

そのとき、銃撃がしたので振り向くと、クワガーとテントウが駆けつけたのだ。

カブト

「クワガー！」

アゲハ

「テントウ！」

クワガー

「待たせたな」

テントウ

「お待たせ」

エース

「くそ、ビーファイターが増えたか。やれ、バロンクルール！」

電極の仕掛けがカブトたちに向かって電流を流すが、カブトたちは果敢に交わす。

テントウ

「弱点を探らなきゃ、ハイパービートスキャン！」

バロンクルールの弱点を探すと、背中の装置が弱点と判明した。

テントウ

「弱点は背中の装置よ」

クワガー

「よし、そこを叩くんだ」

そういうと、クワガーとテントウはインプットカードガン、カブトはインプットライフル、アゲハはブルームキャノンに向けた。

クワガー・テントウ

「アタックビーム！」

アゲハ

「ブルームキャノン、マキシムブラスト！」

カブト

「インプットライフル、カブトニックバスター！」

4人の集中砲火でバロンクルールの背中の装置が爆発、バロンクルールは混乱し、自分が電流を浴びてしまい、焼死した。

エース

「くそ、クルールがやられるとはな、今日はこのくらいにしておこう」

エースは撤退したが、トリオ・ザ・マイナーとネガトーンはまだ残っている。

クワガー

「残りはあいつらだけだ」

？

「ちょっと待った〜！」

カブト

「何だ？」

カブトたちが声のした方を振り返ると、スイート組が現れた。

テントウ

「響ちゃん、奏ちゃん、それにあなたは？」

響

「テントウさん、話は後よ」

奏

「ネガトーンを使ってみんなを悲しませるなんて」

響・奏・エレン

「絶対に許せない！」

3人はキュアモジュールを出すと、フェアリートーンのうち、ドリ
ー、レリー、ラリーがキュアモジュールと合体した。

響・奏・エレン

「レッツプレイ！プリキュア・モジュレーション！」

カブト

「嘘だろ」

クワガー

「あの子たちもプリキュア!?!」

響は髪の色がオレンジからピンクに変わり、衣装も赤のものを纏い、奏は髪の色がオリーブグリーンから黄色に変わり、衣装も白のものを纏い、エレンは髪の色が黒から紫に変わり、衣装も青のものを纏った。

響

「爪弾くは荒ぶる調べ、キュアメロディ！」

奏

「爪弾くはたおやかな調べ、キュアリズム！」

エレン

「爪弾くは魂の調べ、キュアビート！」

メロディ・リズム・ビート

「届け、3人の組曲、スイートプリキュア！」

アゲハ

「キュアメロディ、キュアリズム、キュアビート!？」

クワガー

「それが彼女たちの名前か」

カブト

「考えるのは、あいつらを倒してからにしようぜ」

ネガトーンが襲ってきたが、全員が攻撃をかわした。

クワガー・テントウ

「アタックビーム！」

アゲハ

「ブルームキャノン、マキシムプラスト！」

カブト

「インプットライフル、カブトニックバスター！」

ドカーン！

バズドラ・バリトン・ファルセット

「やられた〜！」

キラーン！

4人の一斉攻撃により、トリオ・ザ・マイナーが吹き飛ばされ、星になった。

カブト

「あとは任せるか」

アゲハ

「そうね」

クワガー

「頼んだぞ」

リズム

「任せて下さい」

メロディ

「リズム、ビート、いくよ」

リズム・ビート

「ええ」

メロディはヒーリングチェストを開けると、クレッシェンドトーンのパワーが放出され、メロディ・リズム・ビートが虹色のエネルギーに包まれてパワーアップした。

メロディ・リズム・ビート

「プリキュア・スイートセッションアンサンブル！」

ゴッドバードのようにネガトーンを貫いた。

メロディ・リズム・ビート

「ファイナーレ！」

爆風が発生し、ネガトーンが浄化された。

ハミィ

「ニャプニャプ！」

ハミィによって、音符もフェアリートーンに回収された。

ハミィ

「もう少しで幸せのメロディが完成するニャ」

全ての騒動が収まったあと、自己紹介になった。

甲平

「俺は鳥羽 甲平、ビーファイターカブトだ」

健吾

「俺は橘 健吾、ビーファイタークワガーだ」

蘭

「私は知ってると思うけど鮎川 蘭、ビーファイターテントウよ」

ソフィー

「私はソフィー・ヴィルヌーブ、フランスのバイオリニストでビーファイターアゲハよ。そして甲平の彼女」

甲平

「違うだろ」

甲平は否定しながらも赤面だった。

蘭

「甲平、顔が赤くなってるわよ」

健吾

「それで、君たちは？」

響

「私は北条 響、キュアメロディです。私立アリア学園中学校に通う2年生です」

奏

「私は南野 奏、キュアリズムです。響とは親友で同じ学校のクラ

スマートです」

エレン

「私は黒川 エレン、キュアビートです。私は元々、マイナーランドの手先として響や奏、ハミィ、そして皆さんと対立していました」

蘭

「もしかして、私たちがこないだこの町に来たとき、対峙したのって、あなたのことだったの？」

エレン

「そうです。でもある日、ハミィを救いたいと願った為、現在に至りました。今は響や奏と同じ学校に通ってます」

蘭

「そうだったの」

ソフィー

「蘭、こないだ来たって、蘭はこの町は初めてじゃないの？」

蘭

「甲平と健吾は倒れてたし、ソフィーはいなかったから、甲斐先輩たちと共に来たのよ」

奏

「それじゃ、蘭さんがこないだ言ってた重傷者と言うのは？」

甲平

「俺たちのことだ」

健吾

「敵はトランプやマイナーランドだけじゃなく、かつて俺たちが倒した敵の再生幹部たちやヘルダーク族と名乗る奴らもいる」

エレン

「そんなに多いの？」

ソフィー

「ヘルダーク族は初耳だわ」

甲平

「敵の数は多いけど、俺たちだって味方は多いぜ。ビーファイターは先輩たちや俺たちだけじゃなく、あと3人いるんだよな」

響

「3人って？」

健吾

「アメリカにいるビーファイターヤンマ、ペルーにいるビーファイターゲンジ、中国にいるビーファイターミンだ」

エレン

「楽しみだわ」

奏

「皆さん、これから宜しくお願いします」

健吾

「こちらこそ」

キュアビートを加えたスイート組とカブトたちが出会った。
新たな仲間を加え、プリキュアとビーファイターの戦いは続く。ト
ランプや再生幹部、ヘルダーク族と決着が付くその日まで。

第24話 甲平とソフィーのデート（後書き）

甲平

「やれやれ、とんだデートになっちまったぜ」

ソフィー

「でも甲平、新たなプリキュアに会えて良かったじゃない」

甲平

「それはそうだけど」

健吾

「次回はヘルダーク族が恐ろしい作戦を企てる！」

甲平

「狙いはなんだ？」

蘭

「そして、私たちの前にも新たな刺客が！？」

甲平

「いったい、何者なんだ？」

ソフィー

「どんな敵が来ても、私たちは負けない。だって、ビーファイターだから」

甲平

「そうだな、負けるわけにはいかないぜ」

健吾

「これからも応援よろしくな」

蘭

「次回もお楽しみに」

番外編 プリキュア エメマンバトル（前書き）

プリキュアたちがエメマンバトルをやったらどうなるかを想像して書きました。なお、イエローチームは数が多いので、更に分けました。

構成は下記にしました。

エメマン派 ブルーチーム

微糖派 ピンクチーム

ブラック派 イエローチーム（ひかり・うらら・祈里・いつき・

エレン）

カフェオレ派 イエローチーム（りん・くるみ・せつな・ゆり・

アコ）

番外編 プリキュア エメマンバトル

その1

某日 都内某所

ピンクチームと呼ばれる、なぎさ、咲、のぞみ、ラブ、つぼみ、響の6人はエメマンの微糖を飲んでいた。

なぎさ

「エメマンの微糖はスツキリだね」

つぼみ

「そうですね」

こまち

「あつ、なぎささん」

そこへ、こまちとかれんが通りかかる。

なぎさ

「あなたたちも微糖、好きでしょ。これ」

なぎさは微糖のジャージをこまちとかれんに渡そうとするが……。

かれん

「いや、私たちは」

ほのか

「ごめんね。こまちさんとかれんさん、王道のエメマン派なのよ」

そこへ現れたのは、エメマンを飲みながらやって来た、ほのかたちブルーチームだった。

なぎさ

「スツキリよ」

ほのか

「王道よ」

涼介

「頂上決戦、エメマンバトル!!」

なぎさ・ほのか

「どっち派？」

その2

ほのかがCM撮影中だった。

ほのか

「王道のエメマンが最高よ」

その時、トラックが現れて、ほのかの前に止まった。

啞然とするほのか

荷台から現れたのは、なぎさだった。しかも、微糖のジャージ姿だ。

なぎさ

「そのエメマンから、微糖が出たのよ。スツキリよ」

ほのか

「王道よ」

涼介

「頂上決戦、エメマンバトル!!」

なぎさ・ほのか

「どっち派？」

その3

プロレスのマット上で、なぎさとほのかの対決が始まった。なぎさのセコンドには咲とのぞみ、ほのかのセコンドには舞とこまちとかれんが付いていた。

なぎさが微糖を飲む。

なぎさ

「昼ご飯の後の微糖はスツキリだね」

ワァッ！ ワァッ！

ほのか

「昼ご飯の後はエメマンよね」

「フーッ！ フーッ！」

ほのか

「よく見て、新しいエメマンよ」

なぎさが注目し、剥がしてみると、微糖ではなくエメマンだった。

なぎさ

「こんなの、ありえない！」

啞然となったなぎさと笑みを浮かべるほのかだった。

涼介

「頂上決戦、エメマンバトル！」

なぎさ・ほのか

「どっち派？」

その4

その3と同じく、プロレスのマット上での対決である。

ほのか

「朝はバランスのエメマンが合うわ」

なぎさ

「朝はスツキリの微糖が合うのよ。だいたいほのか、朝は起きてないじゃない」

ワーツ！ ワーツ！

ほのか

「うるさいわー！」

笑みを浮かべるなぎさと抗議するほのかだった。

涼介

「頂上決戦、エメマンバトル！！」

なぎさ・ほのか

「どっち派？」

その5

微糖派のピンクチームとエメマン派のブルーチームが対立していた。

ほのか

「エメマンよ」

なぎさ

「微糖よ」

ほのか

「決着をつけようじゃない」

しかし、これを見ていた者たちが飲んでいたのは、エメマンでも微糖でもない、第3のエメマンだった。

ひかり

「朝は飲みやすい、ブラックです」

エレン

「そろそろ行きましようか」

うらら

「やばいですよ」

エレン

「構わないわ」

涼介

「ブラック派、参戦！！ エメマンバトル！！」

ひかり・うらら・祈里・いつき・エレン

「どっち派？」

その6

その5とほぼ同じ。

ほか

「エメマン」

なぎさ

「微糖よ」

ほのか

「決着をつけようじゃない」

そこへ、ブラック派が現れた。

ひかり

「朝は飲みやすい、ブラックです」

なぎさ

「聞いたことのある声だね」

いつき

「バレたんじゃないですか？」

ほのか

「誰なの？」

ひかり

「うるさいです」

涼介

「うまさ三つ巴、エメマンバトル……」

なぎさ・ほのか・ひかり

「どっち派？」

その7

微糖派のピンクチームがエメマン派のブルーチームとブラック派のイエローチームを呼び出した。

なぎさ

「ようこそ」

ほのか

「何の用なの？」

ひかり

「どうも」

ほのか

「ええ、どうしたの、その頭？」

なぎさ

「エメマン微糖がリニューアルしたのよ！」

見れば、ピンクチームは全員、金髪になっているではないか。

なぎさ

「これからエメマンの頂点を決めるのよ。勝負よ」

涼介

「頂上決戦、エメマンバトル!!」

なぎさ・ほのか・ひかり
「どっち派？」

その8

決戦、開幕！

フレッシュ組からスイート組のメンバーが登り始める。

なぎさ

「スツキリよ」

ほのか

「王道よ」

ひかり

「頑張って」

なぎさ

「リニューアルしたのよ」

涼介

「頂上決戦、エメマンバトル!!」

なぎさ・ほのか・ひかり

「どっち派？」

その9

繰り広げられる頂上決戦、真っ先に頂上にたどり着いたのは、響だった。

響

「やった」

ところが・・・。

奏

「ほぼ同時よ」

なんと、奏とエレンも同時に頂上にたどり着いていたのだ。

響

「えーっ！」

アコ

「お疲れ様、ご褒美よ」

待っていたのは、りん、くるみ、せつな、ゆり、アコからなるカフェオレ派だった。渡されたカフェオレを飲む、響、奏、エレン。

奏

「甘いわ」

ワァッ！ ワァッ！

ほか

「何してんの？」

なぎさ

「くらー！」

りん・くるみ・せつな・ゆり・アコ

「頑張つて！」

響・奏・エレン

「はい」

りん・くるみ・せつな・ゆり・アコ

「みんな頑張れ」

涼介

「癒やしのカフェオレ、登場！！」

りん・くるみ・せつな・ゆり・アコ

「どっち派？」

番外編 プリキュア エメマンバトル（後書き）

プリキュアたちのエメマンバトル、いかがだったでしょうか？
これはフィクションですので、ご了承くださいませ。

第25話 デスゴッドシスターズ現る！！（前書き）

デスゴッドシスターズの登場です。

第25話 デスゴッドシスターズ現る！！

太平洋 幽鬼島

ヘルダーク族が久々に動きだそうとしていた。

ゼデス

「パラレルワールド？」

ゼドーサ

「はい、プリキュアにはパートナーの妖精がついています。その妖精たちの世界を侵略するのです」

グロノス

「だが、どうやってやるつもりだ？」

ザッコス

「俺のディバイザンの肉片を切り取り、それぞれの世界へ飛ばす」

ギガロス

「そんなことして、大丈夫なのか？」

ザッコス

「あれは肉片を切り取ってもすぐに再生する。さらにその破片から分身を生み出す」

ゼデス

「決まりだな。作戦を決行する」

ヘルゲロス

「ビーファイターの奴らはどうします?」

グロノス

「そこはこいつらにやらせる。出て来い、ドクガンナ、アゲハンナ
!」

グロノスの影から、金色のロープを纏った少女と銀色のロープを纏った少女が現れた。金色のほうグドクガンナ、銀色のほうグアゲハンナである。

ドクガンナ

「お呼びですか? グロノス様!」

グロノス

「お前たち、俺たちが留守にしている間、ビーファイターの奴らの相手をしてやれ!」

ドクガンナ・アゲハンナ

「はっ!」

ドクガンナ、アゲハンナが出撃した。

ゼデス

「我々もいくぞ。準備しろ」

ザッコス・ゼドーサ・ヘルゲロス・ギガロス・グロノス

「はっ!」

ザッコスはディバイザンの肉片の一部を切り取ると、全てのパラレ

ルワールドへ飛ばした。

ザッコス

「ゼデス、準備が完了したぞ」

ゼデス

「よし、いくぞ」

ザッコス・ゼドーサ・ヘルゲロス・ギガロス・グロノス

「はっ！！」

ザッコスはディバイザンに乗り込み、その他は自力でワープした。

ビートルベース

魔獣ディバイザンとの初戦で大破したカプテリオスとクワガタイタンの修復が完了し、いつでも呼び出せるようになっていた。

甲平

「カプテリオスとクワガタイタンの修復も終わったけど、これからだよな」

健吾

「ああ、ディバイザンは厄介だ。カプテリオスとクワガタイタンをもってしても倒せなかったからな」

蘭

「でも、どんな魔獣にも弱点があるわ。そこが分かれば、逆転のチ

ヤンスは掴めると思うけど」

博士

「どんな攻撃も効かないとなれば、弱点を探すのは難しい。次に現れる前になんとかしなければならぬが、どうすれば」

デイバイザンの攻略法がなかなか見つからない中、ソフィーがやって来る。

ソフィー

「みんな、久しぶり」

甲平

「久しぶりじゃねえよ、前回出たばかりだろ」

前回とはデートの回のことだ。

博士

「甲平、完全にソフィーに好かれてるな」

甲平

「そんなんじゃねえよ」

否定しながらも、顔は赤面だった。

博士

「顔が赤いぞ」

蘭

「フリオ、元気にしてるかな」

健吾

「李も今頃、どうしてるんだろ」

博士

「おいおい、感傷に浸るのもいいが、トランプやヘルダーク族のことも忘れないでくれよ。どんな手を使うか分からん奴らだからな」

その頃、プリキュアたちはそれぞれの妖精たちの故郷にきていた。

光の園　メツプル・ミップル・ポルン・ルルンの故郷

なぎさ

「久しぶりだね。光の園に来るのは」

ひかり

「そうですね」

ほか

「長老たちは元気にしているのかしら？」

泉の郷　フラッピ・チョッピ・ムーブ・フープの故郷

咲

「キントレスキーから金の泉を奪い返して以来かな。泉の郷に来るのは」

舞

「そつね」

パルミエ王国 ココ・ナッツ・ミルク（美々野 くるみ）・シロツ
プの故郷

ココ

「王国もみんなも変わってない」

ナッツ

「みんなは元気にしてるか」

のぞみ

「元気にしてるよ」

ういら

「そつですよ」

スウィーツ王国 タルト・シフォンの故郷

タルト

「久しぶりやな、スウィーツ王国に帰ってくるんは」

？

「タルト様」

タルト

「アズキーナはんやないか。元気にしとったんか？」

アズキーナ

「うちは元気にしてはったどす」

ラブ

「タルトって相変わらずだね」

タルト

「ほっといてんか」

こころの大樹 シプレ・コフレ・ポプリの故郷

つぼみ

「こころの大樹もだいぶ元気になりましたね」

えりか

「でも、砂漠の使徒がいつまた襲ってくるか」

いつき

「そうだね」

ポプリ

「大丈夫でしゅ、簡単には見つからないでしゅ」

メイジャーランド ハミィ・エレン（セイレーン）・アコの故郷

ハミィ

「メイジャーランドは相変わらずニヤ」

エレン

「ハミィ、あんたのその天然ボケ、なんとかならないの？」

ハミィ

「ハミィはマイペースニヤ」

響・奏

「（マイペースすぎるでしょ）」

みんな、幸せそうに過ごしていた。その妖精たちの故郷にヘルダーク族の魔の手が押し寄せているとも知らずに。

街中

ドクガンナとアゲハンナが少女姿のまま、現れた。

ドクガンナ

「醜い。人間たちは醜いわ」

アゲハンナ

「お姉ちゃん。やっちゃんおつよ」

ドクガンナ

「そうね。いでよ、ベルダー兵」

ドクガンナとアゲハンナの影から近衛兵の姿をしたベルダー兵が無数に現れ、破壊を始めた。このベルダー兵はグロノスとデスゴッドシスターズの配下、ベルダー近衛兵である。

人々

「キヤー」「逃げろ」

ドクガンナ

「人間ども、我らデスゴッドシスターズにひれ伏しなさい」

アゲハンナ

「アハハハハ」

街中には人々の悲鳴とデスゴッドシスターズの笑い声が響き渡った。

ビートルベース

電話が鳴り響き、博士が出る。

博士

「私だ。何、怪人たちが街で暴れている!？」

甲平

「いっしょ」

甲平、健吾、蘭、ソフィーが出動した。

街中

デスゴッドシスターズとベルダー近衛兵が暴れていた。

ドクガンナ

「そろそろね」

アゲハンナ

「そろそろ?」

ドクガンナ

「奴らが来るのは」

アゲハンナ

「奴らって、プリキュアとビーファイター?」

ドクガンナ

「そう。思ったより早かったけど」

アゲハンナ

「ほんとだ」

ドクガンナとアゲハンナの読み通り、現れたのは甲平たちだった。

健吾

「お前たちの仕業か?」

ドクガンナ

「だとしたら、何なの？」

蘭

「あなたたちを倒す」

アゲハンナ

「あなたたちに私たちが倒せると思って？」

ソフィー

「甘く見ないでよね」

甲平

「いくぞ」

甲平たち4人は、コマンドボイサーをとりだした。

甲平・健吾・蘭・ソフィー

「超重甲！！」

甲平はカブト、健吾はクワガー、蘭はテントウ、ソフィーはアゲハへ超重甲した。

カブト

「ビーファイターカブト！」

クワガー

「ビーファイタークワガー！」

テントウ

「ビーファイターテントウ！」

アゲハ

「ビーファイターアゲハ！」

ドクガンナ

「アゲハンナ、私たちも名乗るわよ」

アゲハンナ

「ええ、お姉ちゃん」

2人は金と銀のローブを脱いだ。

ドクガンナ

「私はドクガンナ！」

アゲハンナ

「私はアゲハンナ！」

ドクガンナ

「私たちはヘルダーク族の幹部の1人」

アゲハンナ

「グロノス様の配下」

ドクガンナ・アゲハンナ

「デスゴッドシスターズ！」

クワガー

「こいつらもヘルダーク族か」

テントウ

「しかもシスターズって、姉妹なの」

ドクガンナ

「そういつことよ」

アゲハ

「これがヘルダーク族」

アゲハはヘルダーク族のことは前回聞いていたので、今回が初対面である。

アゲハンナ

「まずはこいつらが相手よ、ベルダー兵！」

カプトたちの前にベルダー近衛兵が立ちふさがる。

アゲハ

「何なの、この兵士たち」

クワガー

「ヘルダーク族の兵隊だが、姿は近衛兵か」

テントウ

「まずはこいつらを蹴散らしてからね」

カプト

「いくぜ」

カブト、クワガー、テントウ、アゲハの4人はベルダー近衛兵を蹴散らしていく。やはり兵士ではビーファイターの相手は務まらなかった。

ドクガンナ

「さすがはビーファイターね。兵士たちでは相手にならないわね」

アゲハンナ

「お姉ちゃん、私たちの出番のようね」

ドクガンナ

「ええ」

そういうと、ドクガンナは蛾の怪人姿、アゲハンナは蝶の怪人姿に変化した。

カブト

「アゲハのコピーかよ」

アゲハ

「そうよ、私の真似しないでよ」

アゲハンナ

「よくも、私を侮辱したね。お姉ちゃん、こいつらは私が片付けるわ」

ドクガンナ

「いいわ、じゃあ私は残りの奴らをしとめるわ」

アゲハンナはカブトとアゲハ、ドクガンナはクワガーとテントウに

向かっていった。

カブト・アゲハVSアゲハンナ

カブト

「アゲハ、一気に決めるぜ」

アゲハ

「OK！」

カブトはインプットライフル、アゲハはブルームキヤノンを構えた。

カブト

「インプットライフル、カブトニックバスター！」

アゲハ

「ブルームキヤノン、ビームシャワー！」

ドカーン!!

2人の攻撃がアゲハンナを直撃した。

アゲハ

「やったの？」

煙が晴れると、翼でガードしたアゲハンナの姿があった。

カブト

「バカな」

アゲハ

「嘘!？」

なんと、翼に直撃したが、ダメージを与えるまでにはいかなかったようだ。

アゲハンナ

「今度は私の番よ。アゲハ蝶の舞!」

アゲハンナは印を結び、無数のアゲハ蝶を飛ばした。

そのアゲハ蝶をカブトとアゲハは見てしまった。カブトとアゲハがアゲハンナを見ると、なんと、ブルービートがいた。

ブルービート

「アゲハンナ? 誰のことだ?」

カブト

「先輩!」

アゲハ

「どうして?」

カブト

「きつと、助けに来たんだな」

カブトとアゲハはそう思っていた。目の前のブルービートがアゲハンナの幻覚だと知らずに。

ブルービート

「ビームモード！」

ドカーン！

カブト

「うわっ」

アゲハ

「キヤッ」

クワガー・テントウVSドクガンナ

クワガー

「ファイヤーパワー！」

テントウ

「インパクトフラッシュ！」

クワガーとテントウはインプットカードガン（クワガーはセミッシ
ョンマガジン、テントウはブライトポインターを合体させている）
でドクガンナに発砲するも、翼でガードされているので、埒があか
なかつた。

クワガー

「くっ、翼が厄介だ」

テントウ

「私たちの攻撃が全て防がれてるわ」

ドクガンナ

「今度は私の番よ。毒蛾ハリケーン！」

ドクガンナが毒の鱗粉を竜巻で飛ばしてきた。そのため、クワガーとテントウは毒の鱗粉を浴びてしまった。

クワガー

「体が、痺れる」

テントウ

「吐き気がして、気持ち悪い」

ドクガンナ

「どうかしら、私の毒蛾ハリケーンのお味は？」

テントウ

「弱点を探らなきゃ。ハイパービートスキャン！」

テントウはハイパービートスキャンでドクガンナの弱点を探ろうとしたが、毒の鱗粉を浴びたためかエマーゼンシーコールが鳴っており、作動不能に陥っていた。

テントウ

「ハイパービートスキャンが作動不能に」

クワガー

「さっきの攻撃のせいか」

ドクガンナ

「とどめよ、バーニングバード！」

ドクガンナは自身を炎で包み込むと、炎の鳥と化した。

クワガー

「あれは炎の鳥か!？」

テントウ

「あんなのくらったら、いくらネオインセクトアーマーでも耐えられないわ」

ドクガンナ

「終わりよ!」

炎の鳥と化したドクガンナが突撃すると、クワガーとテントウを直撃、炎上させた。

クワガー・テントウ

「うわあああ（きゃあああ）!」

クワガーとテントウの超重甲が解除され、健吾と蘭に戻ってしまう。さらに2人はドクガンナのバーニングバードを受けて大火傷を負ってしまい、倒れてしまった。

カプト・アゲハVSアゲハンナ

アゲハ

「嘘、クワガーとテントウがやられるなんて」

カブト

「なんて奴らだよ」

ブルービート

「パルスラッシュュ！」

カブト

「ぐわあ！」

アゲハ

「きゃあ！」

カブトとアゲハはクワガーとテントウが倒れたのに気を取られた隙に偽ブルービートのパルスラッシュュを受けてしまった。

カブト

「くそつ、先輩とは戦いたくないぜ！」

アゲハ

「ちょっと待って、カブト。あのブルービート、なんかおかしくない!?」

カブト

「どうみても先輩だぜ!？」

アゲハ

「よく見て」

アゲハが不審に思ったこと、それはあるはずの影がないことだ。

カブト

「あつ、影がない」

アゲハ

「そう、あのブルービートはアゲハンナの作った幻よ。私たちはさっきの蝶を見て、幻を見せられていたのよ」

カブト

「ふざけやがって、幻とはいえ先輩と戦わせるとは許せねえ!!」

カブトはインプットライフル、アゲハはブルームキャノンで反撃に入る。

カブト

「カブトニックバスター!」

アゲハ

「マキシムブラスト!」

カブトニックバスターとマキシムブラストは途中で1つになり、幻のブルービートを直撃した。すると現実に戻り、目の前にはアゲハンナがいた。

アゲハンナ

「くつ、よく私の幻術を破るなんて」

カブト

「健吾!」

アゲハ

「蘭！」

カブトとアゲハは倒れている健吾と蘭の元に、アゲハもドクガ
ンナの元を集結する。

アゲハ

「カブト、ひとまず退却よ」

カブト

「分かってるよ。ジャミングビーム！」

ドクガンナ・アゲハンナ

「うわあああ！」

ドクガンナとアゲハンナが再びカブトたちのほうを向くと、既に退
却した後だった。

アゲハンナ

「逃げられたわ」

ドクガンナ

「まあいいわ。今日はこれくらいにしましょう」

ドクガンナとアゲハンナも退却した。

ビートルベース

健吾と蘭は医務室に収容された。大火傷を負っているため、意識不明の重体に陥っていた。特に健吾はディバイザンの件に続き、2回目である。

ゆい

「健吾さん、蘭さん」

甲平

「ゆい、健吾と蘭を頼む」

ソフィー

「ゆいちゃん、お願いね」

甲平とソフィーは博士の待つ指令室に入った。

博士

「健吾と蘭の容体は!?!」

甲平

「ドクガンナの技で大火傷、ネオインセクトアーマーのほうもかなりのダメージを受けていて、回復には時間がかかるって」

博士

「デスゴッドシスターズか、ヘルダーク族にまたやっかいな敵が現れたか。当分は甲平1人か」

ソフィー

「甲平1人じゃないわ。私もいるわ」

甲平

「けどソフィー、公演はどうすんだよ!?!」

ソフィー

「しばらくは、休演ね」

甲平

「大丈夫かよ!?!」

博士

「とにかく甲平、ソフィー、頼むぞ。このことは本部に報告して、増援を頼もう」

甲平

「わかってるよ」

新たな敵、デスゴッドシスターズの前に健吾と蘭が倒れた。だがこの時はまだ知らなかった。甲平たちにとって、デスゴッドシスターズとは深い因縁の始まりに過ぎないということを。そして、妖精界にいるプリキュア達にもヘルダーク族の魔の手がすぐそこまでせまってきた。

第25話 デスゴッドシスターズ現る！！（後書き）

マツク

「なんで俺たちはなかなか出てこないんだよ」

フリオ

「そうだ、李とソフィーは出演が多いし、不平等じゃないか？」

李

「私も会戦以外では戦闘シーンがないよ」

涼介

「そんなこと言われても、なんでかな？」

甲平

「しかもこの小説は俺とソフィーのカップリングになってるし」

フリオ

「僕も蘭とのカップリングになってるね」

メッブル

「今回は邪悪な気配が光の園に迫ってるメポ」

ミッブル

「この気配はヘルダーク族ミポ」

なぎさ

「こんなの、ありえない」

ほのか

「次回はヘルダーク族が光の園に現れて、私たちと対決よ」

ひかり

「次回もお楽しみに」

番外編 ジャックの極秘任務（前書き）

ジャックが新プリキュアの情報を調査、入手します。

番外編 ジャックの極秘任務

トランプ 要塞

キング

「ジャック、いるか？」

ジャック

「ここにいます」

キングはジャックを呼び出した。こういう場合は極秘任務が多い。

キング

「お前に極秘任務を与える」

ジャック

「何でしょうか？」

キング

「新たなプリキュアが始動しようとしている。そいつらの資料を奪取せよ」

ジャック

「現在いるプリキュアだけでも手を焼いているのに、まだ増えるのですか？」

キング

「そうだ、取り返しのつかんうちに手を打つ」

ジャック

「分かりました。やってみましょう!」

ジャックが出撃した。

深夜 大阪・ABC朝日放送

ジャックはNARUTOのはたけカカシに変化して潜入した。幾多ものセキュリティをかくぐり、アニメ編集部に辿り着いた。ジャックはそこでプリキュアの新シリーズに関する資料を発見した。

新シリーズ

「スマイルプリキュア」

キャラクター

星空 みゆき/キュアハッピー (CV:悠木 碧)

日野 あかね/キュアサニー (CV:矢作 紗友里)

黄瀬 やよい/キュアピース (CV:田村 ゆかり)

緑川 なお/キュアマーチ (CV:儀武 ゆう子)

青木 れいか/キュアビューティ (CV:沢城 みゆき)

妖精 キャンディ (CV:佐久間 レイ)

CVは仮である。

ジャック

「なるほど、こいつらが新たなプリキュアか。とにかく、回収してキング様に報告だ」

ジャックは資料を回収すると、ABC朝日放送から姿を消した。

トランプ 要塞

ジャック

「キング様、ただいま帰還しました。これが新プリキュアの情報です」

ジャックは入手した資料をキングに渡した。

キング

「ほう、新たなプリキュアはこやつらか」

ジャック

「おそろく」

キング

「よし、おまえは引き続き、こやつらの調査に専念せよ」

ジャック

「分かりました」

ジャックはその場から去る。

キング

「奴らが現れる前にプリキュアとビーファイターの打倒を急がなくては」

ジャックから新たなプリキュアの情報キャッチしたキングはプリキュアとビーファイターの打倒を急がせようとしていた。

番外編 ジャックの極秘任務（後書き）

次回もお楽しみに。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1061o/>

プリキュアオールスターズVSビーファイターカブト 史上最大の決戦!!

2011年12月29日06時45分発行